

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

大正十一年十二月

臺灣總督府中央研究所林業部報告 第一號

新高山彙森林植物帶論

臺灣總督府中央研究所

650
34

650
34

臺灣總督府中央研究所林業部報告 第一號
新高山彙集森林植物帶論

技手 佐々木舜一

目次

第一章 序説	一
第二章 地誌	二
第一節 名稱	二
第二節 位置	四
第三節 氣候	四
第一項 新高山ノ氣象	四
第二項 阿里山ノ氣象	八
第四節 地質	三
第五節 登山路及登山者	四
第一項 登山路	四
第二項 登山者	六
第三項 著者ノ登山	九
第三章 森林帶	三
第一節 熱帶林	三

正誤表	
頁	行
一	九
一六	一六
二〇	六
二三	九
二九	四
三一	三
三二	四
四四	三
五一	一

正誤
平貨在ハ
ル入ニ次ノ中
林坂潤
四三
歐文
心

内閣文庫
和書
八六三二六号
三冊

第二節 暖熱混濁林
第三節 暖帶林
第四節 温帶林下部
第五節 温帶林上部
第六節 寒帶林

第四章 結論

第一節 海拔高ニヨル樹種ノ變化
第二節 各帶ノ比較及四圍トノ關係
第三節 總括
新高山榮樹種總覽
主ナル參考書

二五 七 六 查 杏 杏 五 五 四 三

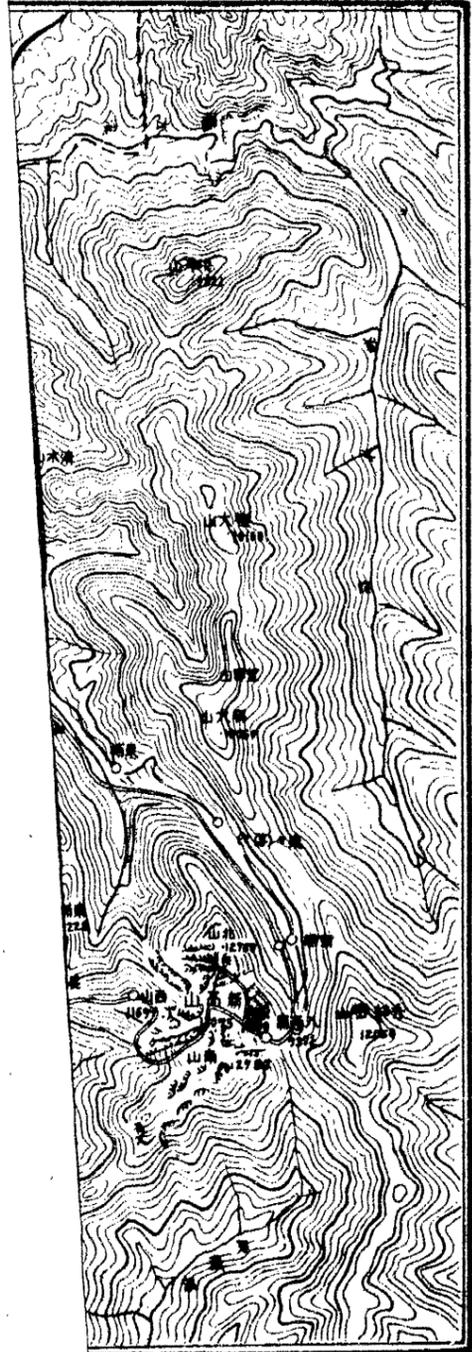


(氏尾横) 景全ノ山高新ルタ見リヨ山里阿



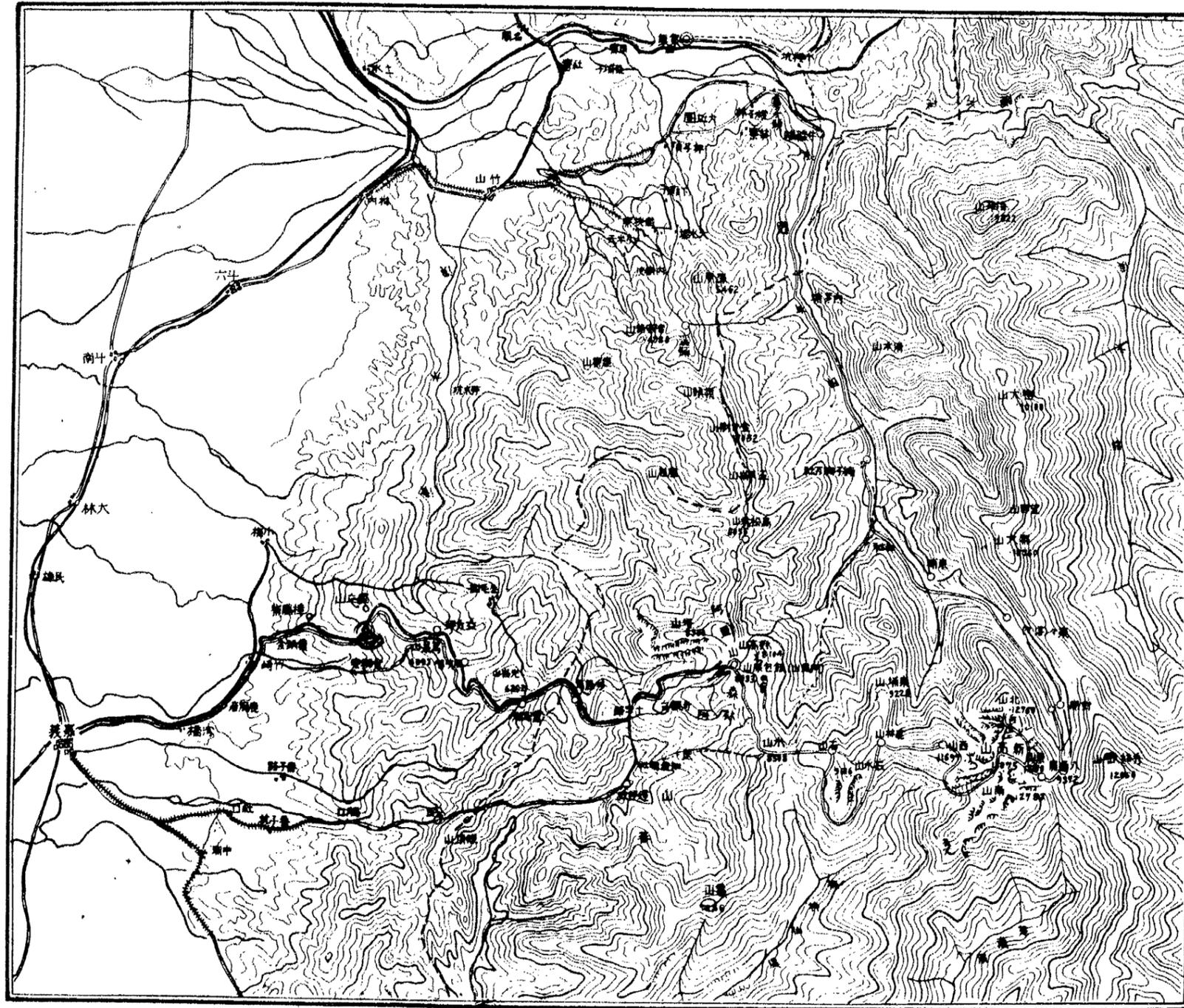
(者著) 行一ルセ合集ニ前部樂俱山里阿シ際ニ山登高新年七正大

山形
支路





新高山麓見取圖 赤二重嶽ハ著者ノ登山路
亦單線ハ踏査路



裏面白紙

臺灣總督府中央研究所林業部報告 第一號 (大正十一年)

新高山彙森林植物帶論

第一章 序 說

新高山ハ帝國領土内ニ於ケル最高ノ靈山ニシテ亦實ニ本島ニ裾座スルモノ、首位ニアリ、海拔一萬三千七十五尺(一)ヲ算シ富士山ヨリ尙ホ高キコト六百八十八尺ノ上ニアリ、而シテ其山座ハ本島中部ノ殆ンド中軸ニアリテ南北ニ縱走スル中央山脈ヨリ西ニ分派スル所謂新高山彙中ニ帝座シ南西北ノ三面ハ平野ニ没シ、東部一面ノミ中央山脈ニ接續ス。

茲ニ述ベントスル所謂新高山彙ト稱スルハ新高山座ニ於ケル諸山及其登山路ニ於ケル鳳凰山阿里山(2)鹿林山、東埔山等ヲ含ミ、下ハ嘉義平野ノ水平線ニ起リ、北ハ陳有蘭溪、南ハ楠梓仙溪及荖濃溪ヲ界トシ、上ハ海拔一萬三千七十五尺ノ新高山頂ニ終ル、即チ緯度ニ於テハ北緯二十三度三十分ノ北回歸線ヲ中心トシ、氣温帶ニ於テハ下ハ熱帶林ヨリ起リ、暖帶、温帶ノ兩帶ヲ經テ上ハ寒帶林ニ終ル、即チ多クノ學者ハ往々本島森林植物帶ヲ論ズルヤ常ニ本帶ニノミニ止メテ他帶ニ及ボサザル事アリ、誤チナラズト雖モ稍々恕シ得ベシ、宜ナル哉、本帶ハ本島(3)ノ中央ニ位シ、取リ纏マリヨキ中性森林帶トシテ代表的位置ニアリテ而モヨク四帶ノ森林ヲ包擁シ、以テ概シテ本島森林ヲ代表スベキ要素馬來多島海系ヲ除ク稍々備ハレルヲ以テ他ニ及バズト雖モ主點ヲ逸スルガ如キ事概シテ甚キヲ以テナリ、故ニ一面ヨリ之ヲ觀察スルトキハ本帶ハ本島森林植物帶ノ代表的林帶ト稱シ得ベク、興味極メテ深ク、學術上ニ於ケル最も主要ナル位置ニアリ。

而シテ山脈ノ系統上中央山脈高山部ニ包擁スル樹種ノ大部分ヲ含ムヲ以テ一面ニ於テハ中央山脈森林植物帶論ト稱シ得ベク左スレバ南ハ大武山ヨリ北ハ大霸尖山乃至南湖大山ニ至ル總ベテノ中央山脈森林植物系ヲ通論スルニ恰當シ以テ其本島森林植物分布ノ一端ヲ睨視スル事ヲ得ベシ先ツ本論ニ入ルニ先チ地誌ノ概説ヲ述ベントス。

1. 明治四十一年十二月十日臺灣總督府トシテ野呂宗氏並ニ志田梅太郎氏測定ノ標高
2. 烏松坑山(八、〇五六尺)塔山(八、八一六)飯包山(八、二五〇)對高岳(八、一〇四)水山(八、六〇二)霞山(七、九五六)石木山(八、五三八)等ノ標高ニシテ
3. 阿里山森林トハ此等ノ諸山ヲ包擁スル森林ニシテ東西三里、南北八里面積一萬一千一百町チ有ス、本島トハ臺灣島ノコトニシテ以下之ニ依リ

第二章 地誌

第一節 名稱

諸羅縣志卷一山川ノ項ニ曰ク大遼之勢趨入內山煙霏霧靄峰巒不可數詳萃南下奔七百餘里倏停而駐有挺拔圓秀而特立者曰大武壠山則邑治之主山也三峰竝列遠護衆山奇幼瑩澈高出大武壠之背者爲玉山。是邑主山之後障、山終歲爲雲霧所封見之日甚鮮云々ト又臺灣府誌ニ曰ク玉山。人跡罕至、三峰竝列終歲雪封、如紗籠香篆、冬日晴明乃見、有頃則雲霧復合矣ト皆土人之レヲ呼ブニ玉山トセリ、而シテ附近ノ蕃人ハ之レヲバツトクツント稱ス蓋シ土名八通關ヨリ來リシモノナラン、曾テ歐人ハ之レヲマウンツトモリソン(Mount Morrison)ト稱ヘ西曆一千八百五十餘年臺南駐在英國領事スキンホー氏 Robert Swinhoe ニヨリテ英國商船アレキサンダー、S. Alexander 號ノ船長モリソン氏 Morrison William, Captain a Pioneer skipperノ名ニ因ミテ命名セラレシモノナリト云フ、而シテ本島帝國ノ領有スルニ及ビ畏クモ明

治天皇ハ新高山ト御賜名アラセラレ時ノ拓殖務大臣ハ明治三十年七月六日官報紙上ニ於テ拓殖務省告示第六號ヲ以テ左ノ如ク内外ニ宣セラレ茲ニ初メテ現今ノ名稱ニ改定セラレタリ、

拓殖務省告示第六號

明治三十年六月二十八日臺灣最第一ノ高山モリソンヲ新高山ト稱スベキ旨御沙汰アラセラレタリ

明治三十年七月六日

拓殖務大臣子爵高島勲之助

更ニ參謀本部ニテハ此事由ヲ不朽ニ傳ヘン爲メ藤井包總ヲシテ御命名記ヲ撰セシメタリ、巍々トシテ峻高ナルモノハ山ナリ鞏固トシテ動カザルモ亦山ナリ、故ニ古ヨリ君父ノ恩德ヲ表シ國家ノ安寧ヲ頌スル常ニ譬ヲ富岳ニ取ル、蓋シ富士山ハ我國山嶽中ノ最モ高キ者ナレバナリ、明治二十八年戰捷ノ結果、因リ臺灣島ノ我ニ歸スルヤ又是ト伯仲ノ高山ヲ得タリ、モリソン山即チ是レナリ、此名ハ歐洲人ノ稱スル所トイフ、其七月參謀本部ヨリ測量部員ヲ此島ニ派シ全島ノ測量ニ著手スルヤ參謀總長殿下大本營ノ御前會議ニ於テ其事ヲ奏上セラレ談此山ノ名ニ及ビシ時陛下其測量完成ノ日ニ至ラバ朕更ニ之ニ命名セント勅シ給ヘリト云フ、其後測量部ハ尙部員數班ヲ増發シ土匪生蕃起伏叛亂ノ間ヲ崎嶇間關シテ爲シ得ル限リヲ測量シ其區域往々政化ノ未ダ達セザル所ニ及ビ昨年九月竣功シ爾來製圖ニ勉メ本年六月將ニ之ヲ印刷セントスルニ臨ミ殿下ハ副官將校ヲシテ京都ニ至リ奏上スル所アラシメシニ同下旬參謀本部次長川上閣下ノ西上シテ天機ヲ伺ハルニ及ビ恭クモ新高山ノ嘉名ヲ下シ賜ハリ乃チ之ヲ地圖ニ銘刻シ以テ萬古不易ノ名ト爲シタルガ如シ子ノ始メテ生ル、ヤ父之ニ命名ス、今上陛下ノ此島中第一ノ高山ニ命名シ給ヘル即チ亦以テ此新邦ヲ子愛シ給フノ聖德ヲ仰ギ奉ルベシ、嗚呼我大八洲今上陛下ノ御代ニ於テ更ニ此一

大島ヲ加ヘ皇德ノ益々高キコト此山ノ高キヨリ高ク國安ノ益々鞏固ナルコト此山ノ動カザルヨリ鞏固ナリ。畏クモ陛下ノ震慮ヲ臺灣島ニ注ギ給フ前述ノ如シ。臣民タルモノ豈益々其經營ニ鞠躬シテ皇威ヲ宣揚シ奉ラザル可ケンヤ。

明治三十年七月

藤井包總識

第二節 位置

新高山麓ハ北回歸線上、中央山脈ノ勇鎮秀姑巒山(二、六五〇)及大水窟山(二、〇二八)ノ邊ヨリ八通關(九、三七四)ヲ經テ西ニ分岐シ新高山座(一)及鹿林山(九、四六四)石山(八、八八〇)兒玉山(八、八五六)飯包服山(八、二五〇)水山(八、六〇二)塔山(八、八一六)烏松坑山(八、〇五六)等大小ノ山嶽二十餘箇ヲ合シ茲ニ偉大ナル一支脈ヲ形成シ、山姿壯大豪放天下ノ偉觀ヲ形成シ、其主山ハ北緯二十三度二十八分、東經百二十度五十七分、嘉義街ヲ距ル東方約三十里、花蓮港廳下玉里ヲ西ニ距ル里程ト殆ンド同距離ニアリ。而シテ其山裾ハ西ハ嘉義平野ノ正東ニ沒シ、左ニ清水、右ニ八獎後大埔ノ兩溪ヲ横ヘ、南ハ荖濃橋梓仙ノ兩溪ニ沿フテ遠ク屏東ノ平野ニ沒シ、北ハ陳有蘭溪竝ニ濁水溪本流ニ沿フテ斗六平野ニ終ルベシ、故ニ其聳立スル實面積ニ至リテハ元ヨリ正確ナル數字ヲ表シ難ケレドモ西南部臺灣平野ノ殆ンド主要部位ヲ占居シ面積ノ大キサ蓋シ想ヒ半バニ過グルモノアラン。

(1)新高山座ハ大小六箇ノ峯巒鼎峙シ、其最ナルモノヲ主山若クハ嘉義新高(三、〇七五)呼ビ北ニアルヲ北山又ハ斗六新高(二、七六〇)ト稱ヘ、東ニアルヲ東山若クハ臺東新高(二、八一六)南ニアルヲ南山若クハ荖濃新高(二、七六八)西ニアルヲ西山(二、六九八)及前山(一、〇七〇)ト稱ス。

第三節 氣候

第一項 新高山ノ氣象

正確ナル氣候學上ニ於ケル觀測所ノ設置ヲ缺グヲ以テ茲ニ確實ニ斷言シ難シト雖モ坊間ノ言ニ

據レバ十一月下旬ヨリ四月上旬ニ至ル五箇月間ハ例年積雪ヲ以テ山頂ヲ包被セララル、モノ、如シ、勿論漢人ノ所謂玉山人跡罕至三峰竝列終。歲。雪。封。云々ノ如キハ虛妄ノ言ノミ、六月乃至九月ニ至ル四箇月間ハ降雨盛シナリ。

而シテ唯儘カニ知ラル、所ノモノハ數回ノ探險ニヨル東京理科大學、同農科大學職員竝ニ臺北臺中測候所技術員ノ觀測ナレドモ滞在日數一兩日乃至十數日ニ止マルヲ以テ當時ニ於ケル概念ヲ窺知スルニ過ギズ。

明治三十八年十月乃至十一月臺北測候所技手寺本貞吉氏明治四十二年十月東京帝國大學理科大學附屬天文臺員理學士一戶直藏及同小倉伸吉、臺北測候所技手大隈鴻一諸氏竝ニ大正七年四月臺中測候所技手瀧田晋一氏ノ觀測ニヨル氣溫、氣壓其他ヲ表示スレバ左ノ如シ。

第一表 寺本技手觀測 (明治三十八年十月乃至十一月)

地名	高度	日時	氣壓	氣溫
公田庄	七九二	十月二十八日 午前六時	六九三・〇	二〇・四
鬼仔嶺	一二九〇	正午	六五六・五	二二・五
達邦社	九三九	三十日 午前六時	六八〇・四	一五・〇
水山	二、三二八	三十一日 午後六時	五七八・三	一一・三
岩山	二、七四九	三十一日 午前六時	五七七・八	一一・〇
西山	二、四二一	十一月一日 午前七時	五四八・五	八・九
山頂	三、四九九	十一月一日 午後五時	五七〇・一	一四・五
		二日 午前六時	五〇一・八	八九・〇
		三日 午後五時	五〇一・八	八二・〇

新高山麓森林植物帶論

地名	高度	日期	時間	氣壓	氣溫	雨量
新高山頂	三,九七二	十月三日	午後三時	四七五・七	一〇・〇	〇
老濃溪上流	三,三六九	十月四日	午前六時	四七五・八	一〇・〇	〇
陳有蘭溪上流	一,七八六	十月五日	午前六時	五〇・五	三・三	〇
楠仔脚萬社	七九五	十月六日	午前六時	六二〇・〇	六・三	〇
牛欄	二八五	十月七日	午前七時	六九九・〇	一〇・二	〇

第二表 一戸小倉大隈三氏ノ明治四十二年十月四日乃至同二十五日ニ至ル二十二日間ニ於テ南投線ニ於ケル登山路並ニ新高山頂ニ於テ觀測シタルモノ左ノ如シ。

地名	高度	日期	時間	氣壓	氣溫	雨量
牛欄	二八五	十月四日	午前八時	七三一・六	二五・五	〇
內埔	七九五	十月五日	午前六時	七一六・〇	二二・九	〇
東埔	二,二七〇	十月六日	午前六時	六八八・三	二二・九	〇
落巴	二,五三七	十月七日	午前六時	六六四・六	二二・九	〇
八通	二,九八〇	十月八日	午前六時	六六四・六	二二・九	〇
老濃溪上流	三,九八〇	十月九日	午後四時	五五〇・四	一三・五	〇
新高山頂	三,九八〇	十月十日	午後二時	四七九・五	一〇・八	〇
同		十月十一日	午後二時	四七九・五	一〇・八	〇
同		十月十二日	午後二時	四七九・五	一〇・八	〇

第一表 新高北山頂ニ於ケル觀測 (標本三,八六〇米)

月日	氣壓		氣溫		最高	最低	雨量
	前	後	前	後			
十月十二日	四八五・九	四八六・四	四・二	一五・九	一五・九	四・七	〇
十月十三日	四八五・一	四八五・〇	二・七	一三・九	一四・〇	四・二	〇
十月十四日	四八四・四	四八四・五	二・一	八・八	三・八	四・二	〇
十月十五日	四八四・一	四八四・二	〇・一	一四・三	九・一	四・二	〇
十月十六日	四八二・六	四八二・〇	五・〇	九・五	二・一	四・二	〇
十月十七日	四八〇・七	四七九・二	五・〇	六・三	四・〇	四・二	〇
十月十八日			五・六	七・四	二・七	四・二	〇
十月十九日			三・七	一三・一	四・七	四・二	〇
十月二十日			〇・九	一四・六	四・三	四・二	〇
十月二十一日			三・一	一六・九	一七・九	四・二	〇
十月二十二日			二・九	一七・七	一八・二	四・二	〇
十月二十三日			四・七	一〇・九	四・九	四・二	〇
十月二十四日			三・九	六・五	四・三	四・二	〇
十月二十五日					四・三	四・二	〇

第三表 大正七年四月二十一日乃至同二十九日ニ至ル九日間臺中州新高郡集々ヲ基點トシ新高登山ヲ試ミシ臺中測候所技手瀧田晋一氏ノナシタル報告左ノ如シ。

地名	高度	日期	時間	氣壓	氣溫	雨量
集集	八三三・四	四月二十一日	午前六時	七一四・三	一八・五	〇
內埔		四月二十二日	午前六時	七一四・三	一八・五	〇
楠仔脚萬社		四月二十三日	午前六時	七一四・三	一八・五	〇
同		四月二十四日	午前六時	七一四・三	一八・五	〇
同		四月二十五日	午前六時	七一四・三	一八・五	〇

新高山麓森林植物帶誌

東埔社 陳有蘭溪上流 八通關中腹 荖濃溪上流 新高山頂 荖濃溪上流 陳有蘭溪中流 楠仔腳萬社

八二三、四 二二八、九

二十三日前後 二十三日前後 二十四日午後 二十五日午後 二十六日午後 二十七日午後 二十八日午後 二十九日午後

六六六、八 六六六、八 六六六、八 六六六、八 六六六、八 六六六、八 六六六、八 六六六、八

二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇 二七四、〇

(備考 表中高度ハ各自觀測者ノ制定セルモノヲ其儘費用シタリ)

以上ノ諸表ニヨリ氣壓氣溫ノ狀態ヲ察スルニ前說ノ如ク十月乃至四月間ハ寒時ニ屬シ、瀧田氏ノ報告ニ依レバ溪間尙ホ積雪殘存セリト、但シ極寒ノ時季ハ詳ナラザレトモ十二月乃至一月頃ナルベシ、而シテ一日中ニ之レヲ見ルトキハ最高氣溫ハ午前十時乃至午後二時ノ間ニシテ最低氣溫ハ夜半若クハ日出前ナリ、若シ夫レ氣壓關係ニ至リテハ海拔高度ノ增加ト共ニ著シク遞減シ、約平地ニ於ケル、モノ、五分ノ二ノ遞減ヲ見、大正七年瀧田氏ノ實測ニ據レバ百八十四米ノ高度増加ニ對シ攝氏一度ヲ減ズト云フ、然ルニ世界ニ於ケル平均遞減ノ度ハ百米ニ對シ一度遞減ノ比率ハ周知ノ事實ナレトモ亦局部的實際ニ於テハ著シキ超理論ノ事實アルヲ知ラザルベカラズ。

第二項 阿里山ノ氣象

阿里山ノ氣象ヲ論ズルハ管ニ本帶ノミノ氣象ヲ察知スルニ止マラズ、高層測候所ヲ有セザル本島ニテハ本島ノ中心點タル同地ノ氣象ノ一斑ヲ見テ他ヲ察知スルノ止ムヲ得ザルモノアルヲ以テ本

山ヲ中心トシテ南北高低ニヨリ寒暑ヲ比較想像セバ大差ナカルベク、即チ高キニ上ルニ從フカ或ハ北スレバ之ヨリ寒ク、南スルカ或ハ低キニ至レバ之ヨリ暑サヲ加フベキヲ知ルベキナリ、故ニ本論ニテハ比較的詳細ニ互リ臺北測候所ニ就テ調査シ參考ニ供シタリ。

一、氣溫(七千二百七十呎ニ於ケル)大正七年調査

Table with columns for months (一月 to 十二月) and rows for temperature types (平均最高, 平均最低, 最高, 最低, 午前, 午後) and locations (鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨, 鹿兒島, 名瀨).

而シテ平均氣溫ハ七月ニ於テ最モ高ク一六度一、一月最モ低ク七度三ヲ示シ、最高ノ平均ハ七月ニ於テ二一度八ニ昇リ、最低ノ平均ハ一月ニ於テ二度ニ降レリ、日々ノ最高氣溫三〇度以上ニ昇ルハ極メテ稀ニシテ最低氣溫ハ毎年氷點以下ニ降り、早キハ十一月、晚キハ四月ニ及フコトアレドモ普通ハ十二月乃至二月ニ至ル三箇月ノ内ニシテ其總日數ハ冬季間ニ約十日内外トス、斯ク冬季ハ寒冷ナルヲ以テ降霜ハ年々多ク之レヲ見ルモ降雪ハ稀有ニシテ地上ニ積雪セシコト尠シ然レドモ之ヨリ

約一千尺高キ塔山ニ於テハ冬季間ハ常ニ積雪ヲ載クハ普通ナリ。

亞熱帶ノ本島ニテモ流石ニ七千五百尺ノ高キニ登レバ斯カル温和ナル氣候ニ遭遇スルヲ得ベシ、
斯ノ如ク一年ヲ通シ酷暑嚴寒ヲ知ラザル所ハ平地ニ於テ到底求ムルコト能ハズ。

若シ冬夏ノ兩季ニ區別シテ之レヲ比較セバ山上ノ冬季平均氣温大正七年一月平均氣温七三ハ九州
ノ南端鹿兒島七五及宮崎七二地方ニ似尙ホ且ツ往々最低氣温(一)四七ヲ示スコトアルモ稀ナリ、夏季
ハ七月一六、一、北海道ノ北部(八月網走一八、八)及樺太ノ南部(八月大泊一六、五)トノ中間ニアリ、而シテ鹿
兒島ノ夏八月(二六、六)ハ山上ヨリ一〇度以上ノ高度ニシテ樺太大泊ノ冬一月(一、二)ハ山上ヨリ約
二〇度ノ低温ナリ。

猶一言シタキハ本山森林伐採前後ニ於ケル氣温ナリ、既ニ數十年間ニ於テ知ラレタル歐西諸學者
ノ意見竝ニ本邦諸地ニ於ケル觀測ニヨルモ森林伐採前ハ伐採後ニ於ケル氣温ヨリモ低キハ一定ノ
學說竝ニ實際ニシテ換言スレバ森林内ハ同一高度ニ於テモ森林外ヨリ低温ナリト稱シ得ベク、諸種
ノ原因亦之レアルベシト雖モ一ツハ陽光樹木ノ爲メ遮斷セラレテ充分林地ニ透徹シ得ザルニ非ザ
ルナキカ。

阿里山ニ於テモ此事實アリ、即チ阿里山ノ伐木開始ハ明治四十五年四月千九百十二年ニシテ大正
二年末ニ於テハ既ニ觀測所附近ニ於テ殆ンド秃山ノ姿ニ變ジタルヲ以テ此間ニ於ケル氣候ノ變化
ハ次表ニヨリ顯著ニ觀察スルヲ得ベシ、元阿里山ニ於ケル觀測所ノ位置ハ森林最モ密閉セル箇所ナ
リシヲ以テ猶更此等ノ事情ヲ知ルニハ最モ適當ナルモノト云ハザルベカラズ、

氣温比較表

明治四十五年前ノ平均	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
二二・六	二二・五	二二・五	二二・二	二二・九	二二・四	二二・五	二二・七	二二・七	二二・九	二二・〇	二二・六	二二・〇	二二・九
二二・五	二二・六	二二・六	二二・九	二二・三	二二・六	二二・五	二二・〇	二二・一	二二・四	二二・〇	二二・七	二二・〇	二二・九
〇・九	二二・二	二二・七	二二・七	二二・三	二二・三	二二・〇	二二・五	二二・四	二二・五	二二・一	二二・四	二二・七	二二・九

二、濕度

高山ニ於ケル濕度ハ概シテ一定セザルヲ普通トシ、拂曉竝ニ午後三四時頃ノ交ニ至レバ降雨ニ非
レバ雲霧ニ覆ハル、ヲ以テ、此間常ニ濕潤ナレドモ一朝旭光天ニ注スルニ及ベバ濕熱時ト共ニ加ハ
ルヲ以テ日中ハ殊ニ空氣乾燥ス、故ニ其觀測ノ時間及度數ニヨリテ實際平均濕度ニ影響スルコト大
ナルヲ以テ出來得ベク、毎時觀測スルカ或ハ最モ適當ナル時間ヲ撰ビ觀測セザル可カラザレド
モ阿里山ニ於テハ午前十時、午後二時ノ二回ノ觀測ニ限レルヲ以テ暫ク同記録ニ據ルコト、セリ。

午前十時平均濕度

年	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年
大	正	七六	七八	八三	六八	八一	七六	八二	七五	七七	七六	七五	八〇	七七
二		六〇	七五	六五	六三	七五	六六	七二	七六	七七	六八	七七	六八	七〇
三		七四	七二	七六	五九	七九	七一	七〇	八四	七三	六九	六九	六三	七二
四		六〇	七二	七六	六七	七二	七二	七三	七九	七三	六九	六三	七一	七二
五		六八	七五	七五	六四	七七	七一	七四	七九	七五	七二	七一	七〇	七三
均		六八	七五	七五	六四	七七	七一	七四	七九	七五	七二	七一	七〇	七三

午後二時平均濕度

代ノ末葉白堊紀頃ヲ代表スルモノナランカ横山博士ニヨレバ白堊紀ヨリ第三系ノ一部ヲ代表スルモノナルベシト、由是粘板岩系ノ下部ハ古生代ノ上部、中生代ノ下部ヲ代表シ又上部ハ中生代ノ上部ヨリ第三紀ノ一部ヲ代表スルモノナリト、故ニ新高山ハ中生代乃至第三紀ノ一部ヨリ成ル粘板岩及砂岩ノ疊層ヨリ成ルコト明カトナレリ。

第五節 登山路及登山者

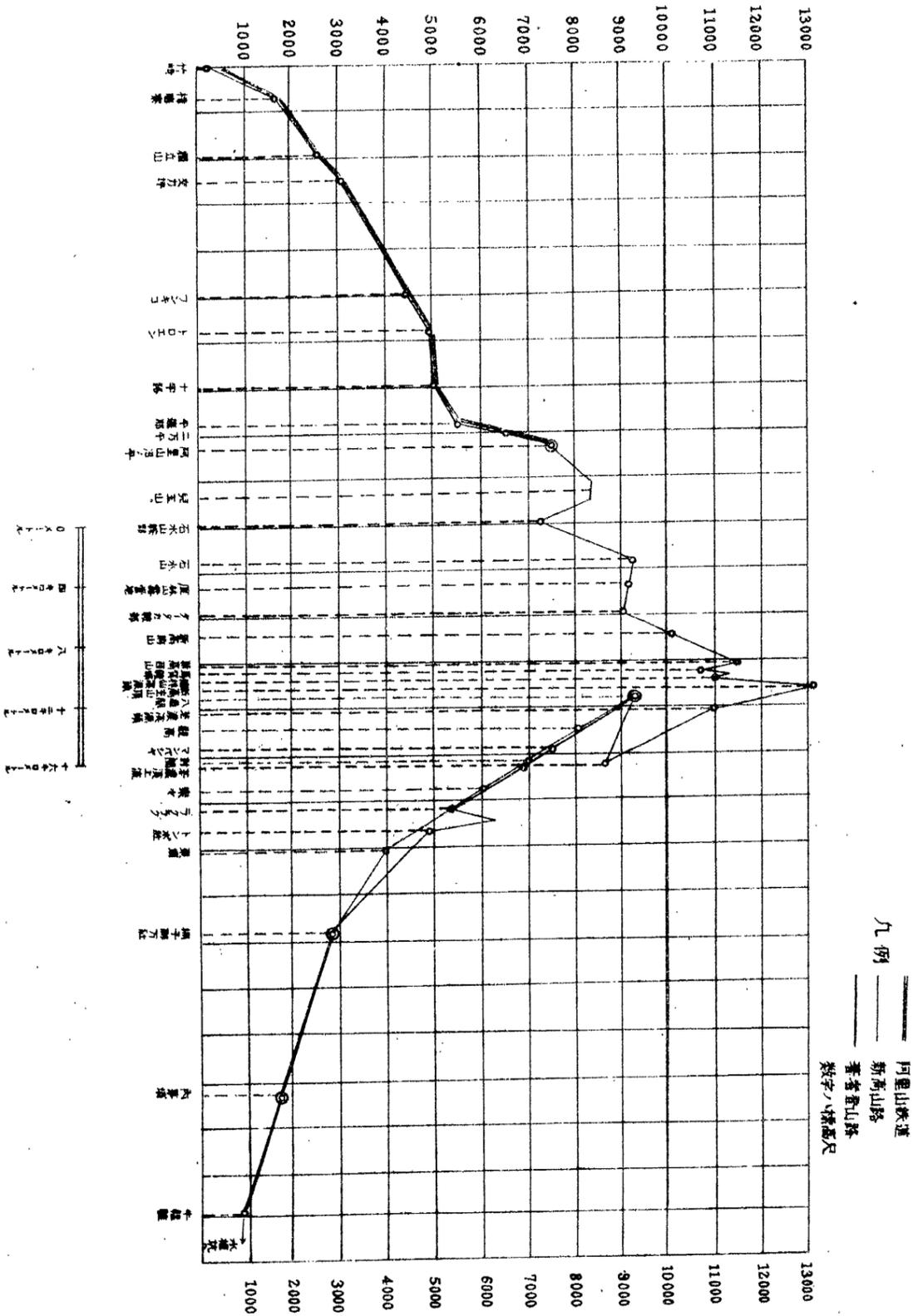
第一項 登山路

新高山ニ登攀シ得ラルル路ニ三條アリ、甲ハ正西ヨリスルモノニシテ臺南州下嘉義若クハ竹崎ヲ基點トシ、阿里山ヲ通過シテ所謂新高山麓ノ脊梁線ヲ辿リ登攀スルモノト、乙ハ正北ヨリスルモノニシテ臺中州下集々若クハ竹山ヲ基點トシテ濁水溪ノ支流陳有蘭溪ノ溪底ヲ溯行徒涉シテ八通關ニ出テ荖濃溪源頭ヲ極ムルモノト、丙ハ花蓮港廳下玉里ヲ基點トスル正東ヨリスルモノトアレド本線ハ八通關ヲ經過シテ陳有蘭溪ニ出ヅルモノ、外特ニ新高登山ヲ試ミシト云フヲ聞カズ故ニ本線ハ唯達シ得ラル、ト云フノ外登山路ト稱スルハ稍々不適當ノ言葉ナルヤモ知レズ、聊カ新高登山路ニ就テ述ヘントスルモ本線ハ除外スルコト、セリ。

第一 新高登山ニ就テノ種々ノ事情

明治二十八年五月臺灣島ノ我領有スル所トナリテヨリ、奇ヲ好ミ名譽ヲ好ム邦人ハ日本第一ノ高山新高山ニ登ラズンバ折角臺灣ニ渡リ來レル甲斐アラバコソトテ血氣ニ早ル若者ノ一人トシテ胸ヲ痛メザル者少シ、然ルニ領臺茲ニ二十有八年、正ニ三十年ニ垂ントシテ未ダ登山者ノ數僅々十指ヲ數フルニ過ギザルハ何ゾヤ、夏ノ富士ヲ見ヲヤ、此兩雄ノ登攀者ノ一ツハ輻輳シテ肩々相摩スノ盛況

新高山稟登山高低圖



ヲ呈スルト一ツハ何カノ特別用務ニ非ルヨリハ皆無ノ状態ナルトヲ比較研究センニハ蓋シ思ヒ半
バニ過グルモノアラン。

新高登山者ノ寥々タルニ種々ノ原因アランモ予ハ大概ネ次ノ如キモノヲ主ナル原因ト記臆ス

- 一、人跡罕ニシテ距離甚ダ近カラズ。
- 二、行路困難多クシテ頗ル地勢的危險ニ富ムコト。
- 三、氣候相邊スルヲ以テ適當ナル時季ヲ撰ブニ困難ナルコト。
- 四、瘴猛ナル蕃族ノ出沒常ナラザルヲ以テ蕃害ヲ恐ル、コト。
- 五、右四原因ニ據ルノ結果トシテ隊伍ヲ組成スルノ止ムヲ得ザルモノアルヲ以テ多額ノ費用ヲ要シ、且ツハ蕃地取締ノ結果自由ニ出入シ得ザルニアリ。

第二甲線ニヨル登山路

前掲三線中ノ二線ハ各特色ヲ有シ甲者ハ大概ネ山脊梁線ノミヲ辿リ、徒涉ノ困難ヲ排シ得ラル、
便利アリト雖モ行路ノ困難ニシテ往々露陣ヲ張ルニ用水ニ困却シ、斷崖多ク急角ノ昇降一再ニシテ
止マラズ頗ル危險路タルヲ免レズ。

乙者ハ稍々甲者ノ危險性ニ比スレバ多少安全ノ點ナキニ非ルモ終日急流中ヲ徒涉セザルベカラ
ザルノ虞アリ、何レニシテモ兩者共天下ノ惡路中ノ惡路タルハ萬人ノ認ムル處ナリ、新道ハ此兩難ヲ
排サレタリ、而モ兩道共道路ニ非ス、唯歩行シ得ラルト云フノミニ過ギザルニ、カテ、加ヘテ年々雨期
ニ際シ流棄セラル、ヲ以テ次回ノ登山者ハ往年此邊道路ナリシナラン、トノ推測ヲ以テ蕃人ヲ制シ
テ荆棘ヲ薙除シ、又ハ崩壞ヲ避ケテ行ク、補修ノ任ニ當ラザル可カラザル所非常ニ多シ、而シテ深
間周年樹枝鬱蒼トシテ日光ノ透入少ク、飛沫ハ常ニ岩石ニ散亂シテ蘚苔ヲ培フニ充分ナルヲ以テ頗

倒セザルモノ少シ、幸ニシテ近年楠子脚萬社ヨリ八通關間新道ノ舗設中ナルヲ以テ全部完成ノ曉ニハ非常ニ樂々ト新高登山ヲ遂ゲ得ラルベシ。

扱テ甲線ノ基點ハ嘉義若クハ竹崎トシ又ハ阿里山トスルモ亦不便ナラズ、如何トナレバ嘉義竹崎間(八哩八)ハ坦々タル平野ニシテ常ニ營業線ニヨリ鐵道ノ便アリ、且ツ總ベテハ嘉義ニ於テ用意スルヲ利便トスルヲ以テ竹崎ハ通過路トスルモ妨ゲナシ、因テ更ニ阿里山ヲ基點トスルヲ便ナリトス、如何トナレバ竹崎阿里山間ハ運材用トシテ鐵路ノ開通スルモノアレバ營林所嘉義出張所ノ承認ヲ經テ便乘シ得ラル、ヲ以テ此間難ナク僅カニ七時間餘ヲ費ヤシテ行路ノ風景ヲ賞シ、植物景ヲ座ナガラニシテ探ルヲ得ルヲ以テ竹崎ニ宿泊スルヲ要セズ、拂曉嘉義ヲ發セバ午後三時頃ニハ既ニ七千五百尺ノ山地ニ達スルヲ得ベシ、而モ該山ニハ營林所阿里山詰所ノ設ケアリテ多數ノ山林官駐在シ數百ノ山地勞働者ヲ使役シテ伐木、造林等ニ銳意進行中ニアレバ壯麗ナル俱樂部ノ設ケアリテ旅人ノ宿泊ニ便シ、且ツ酒保アリテ日用雜貨ノ販賣ニ便ス、而シテ郵便局、醫局、警官駐在所(乃至ハ小學校モアリ)等アリテ山地トハ云ヘ誠ニ利便ノ設備至ラザルナシ、若シ夫レ登山用人、夫ノ使役ニ至リテハ是非トモ當地警官駐在所ノ勞ニ據ラザレバ他ニ之レヲ求ムルノ方法ナシ、故ニ往時阿里山ノ整ハザルノトキハ是非トモ嘉義ヲ基點トスルノ止ムナキモノアリタレトモ今日ニテハ鐵路一過阿里山ニ到ルヲ以テ該山ニ一日ヲ駐泊シ萬全ノ策ヲ講ズルヲ至便トス。

阿里山ヨリハ純然タル山路ニシテ宿スル旅宿ナシ、故ニ是非共露營天幕ノ用意ナカルベカラズ、且ツ人跡全ク之レナキヲ以テ一切ハ無人ノ天地ヲ活歩スルコト、ナルベシ、然レトモ此行路ヤ實ニ名狀スベカラザル難艱苦行ノ峻路ナルト敵蕃ノ出沒往々アルヲ以テ一刻ノ油斷ヲ許サズ、往々阿里山草地ノ如キ開豁ニシテ高燥、風景絶佳ノ異境ナシトセザレトモ他ハ大概ネ難峻ノ山地ニシテ行者ノ

共ニ憐マセラル、ハ萬人ノ等シク認ムル所ナリ、左ニ大凡ノ行程ニ付多少ノ説明ヲ試ミン。

第一日 阿里山(七、二七)發鹿林山(九、二五)泊(行程凡ソ五里)

阿里山ヲ發シ、道ヲ萬歲山ノ林道ニ取り、南々東ニ密林中ヲ進行シテ小笠原山、東山ニト向フ、此附近ヨリ東面ノ展望切リニ開ケテ新高諸山ノ勇姿及中央山脈ノ連山等樹蔭ニ洩レテ大ニ旅行者ノ元氣ヲ跳ラセ、二里餘ノ行程ノ後鬱閉ハ破レテ急ニ東南ノ視野ハ千里ノ内ニアリ、斯クテ兒玉山(八、八五六)ヲ脊ニシテ草野ヲ東行シ、前ニ水山ノ「ダイワソツカ」林及「ダカネゴエフ」第二期森林ヲ望ミツ、再ビ密林中ニ入ル、林ハ大概ネ針濶交清林ニシテ間モナク石山鞍部(七、四〇〇)ヲ經テ又攀ヅ、此附近ヨリ初メテ「ニヒタカトウヒ」林ヲ出現ス、間モナク石水山、南腹ニ達シ草野ニ變ズ、一望數里所謂阿里山草地ニシテ溪間ニ「ダイワソツカ」ノ密集林及「ダイワソツカ」ハンノキ「林ヲ望ム」ノ外絶エテ附近ニ森林ナシ、路ニ往々斷崖又ハ崩壞地アリテ交通稀少ノタメ草端路ヲ覆フテ危險ナルコト限リナシ、斯クテ北行シテ極マル所ニ清水滾々トシテ湧出ス、後ニ峯頭ヲ脊ヒ、稍々窪地ナレトモ高燥ニシテ展望ニ富ムヲ以テ此地ニ露營スルヲ常トス、稱シテ鹿林山露營地ト云フ。

第二日 鹿林山(九、二五)發新高前山(一〇、一〇〇)泊(行程約二里半)

鹿林山露營地ヲ出デ、草地ヲ北ニ、間モナク東行スレバ一面俄ニ拓ケテ四界ノ風光繪ノ如シ、正前ニアルハ新高山座ノ大勇姿ニシテ諸峯ヲ壓シテ帝王ノ如シ、後ヲ顧レバ阿里山一帶ノ森林ハ手ニ取ル如ク足下ニアリ、左ニ遠ク陳有蘭溪ヲ隔テ、雲際ニ連ルハ中央山脈ノ向走ニシテ新高山座ノ左側ニアリ、群大櫓大治弗ノ諸山ハ呼ヘバ答ヘントシ、白雲濛々ト起ルトコロハ大甲溪畔ノシルビヤ、大霸尖山ノ支脈ニシテ大雪、小雪ノ諸山ハ雲海中ニ少シク頭角ヲ顯ハシ、新高、群大櫓大ノ諸山ノ間ニ聳立スルハ之レゾ秀姑巒山、及大水窟山(一〇、二八)ナリ、右顧スレバ新高山座ノ右ニ遠ク雲表ニビラミツド

形ヲナシテ秀ツルハ關山(一一、一〇〇)及卑南主山(一〇、九〇五)ノ連山ニシテ雲ト霞ムハ南北大武山(一〇、六六五)ナリ。

斯クテタータカ鞍部(九、〇五〇)ニ下リテ、更ニ上レバ茲處ゾ名ニ負フ新高山座中ノ第一峯新高前山(二〇、七〇六)ナリ、此附近ヨリ路ハ漸次險阻ヲ加ヘ危險亦之ニ伴フ、左右ノ山腹ハ大概ネ鬱蒼タル針葉樹林ニシテ、ダイワソツガ「ベニヒ」等ノ純林山膚ヲ洩サズ密生ス、漸ヤク前山中腹ト思ハシキ頃ヨリ樹林ハ一變シテ樹姿端麗ナル「ニヒタカトマツ」之レニ代ハリ、樹下僅カニ「ニヒタカスグリ」「ランダイナ」「カマド」「クロミノヘビノボラズ」「イタドリ」等ノ高地帶性ノ灌木並ニ「ニヒタカヤダケ」「カハカムリヤダケ」等ノ笹類蔭樹ヲナスノ外一木ヲ交エズ、頗ル單純ナル美林ヲ成シ、林中晝尙ホ暗シ、此急勾配ノ頂上ハ前山頂ニシテ密林中ニアリ、山頂附近ハ「ニヒタカシヤクナダ」密生シ、五月ノ交登山スレバ目モ覺メシバカリニ全樹帶紅白色ノ美花ヲ點綴シ思ハズ快哉ヲ叫バシム、用水ノ本山ニ無キハ遺憾ナリ。

第三日 新高前山發楠梓仙溪源頭(一一、〇〇〇)泊行程約一里半

本日ノ行程ハ全線中ノ第一ノ短距離ナリ、然レトモ急角ニシテ危險ナルコトモ行路中第一位ニアリ、斷崖多クシテ岩床露出シ、處々ニ崩壞地アリテ危險甚ダシ、露營地ヲ發シテヨリ、時餘ニシテ「ニヒタカトマツ」ヲ密生セル新高西山頂(一一、六九八)ニ達シ、樹下ノ矢竹ヲ搯分ケテ進メバ險中ノ險「馬脊」ト名クル山脊ヲ通過スベシ、奇岩奇石ハ珍ヲ盡シテ懸崖上ニ在リ、人若シ之レヲ通過セントスレバ必ズヤ懸崖上ヲ通過セザルベカラズ、身ニ粟ヲ生ズルハ此時ニアリ、此棧道數丁ニ互リ、漸ヤク蘇生ノ思ヒヲナシテ西山ノ東斜面ニ達ス、此邊路ハ急ナレトモ小時危險界ヲ隔ツルヲ得ベシ、新高主山ノ大魁偉ヲ望ムハ正ニ此時ニアリ、而シテ勇氣百倍シテ新高主山ヲ眺メツ、「ニヒタカトマツ」林ヲ潛行スレバ路ハ再ビ險阻トナリ行路極メテ困難ナリ、一段ノ下坂ニ懸レバ忽チ眼下銀線ヲ引ク、溪河ノ音遠雷ノ

轟クニ似タリ、昨日來制限サレシ水ヲ見タルコト、テ行人ノ頓ニ喜悅ニ噎ブ處ニシテ勇躍急轉崖下ヲ迎レバ岩石磊々タル源頭ニ達スベシ、即チ之レ楠梓仙溪源頭ニシテ新高主山及南山ノ溪間ヨリ湧出ス、其水清冽ニシテ鏡ノ如ク、冷涼ナルコト水ノ如シ、此處ノ溪畔ニ岩屋アリ、諸人皆此岩下ニ露營ヲナス、別ニ差シタル用ナク足ニ金鐵ヲ入ル、ノ士ハ此ヨリ日中片路約二里ノ新高主山頂ヲ極メテ又再ビ此地ニ露營スルモノ、如シ、普通人ハ一先ゾ行李ヲ收メテ明日未明ニ發シテ朝暾ヲ新高山頂ニ迎ヘントスルモノモアリ。

第四日 楠梓仙溪源頭新高主山頂(一三、〇七五)往復行程四里

露營地ヲ發シテ小時溪流ニ遡行シテ直ニ右折スレバ一面ニ生繁レルハ「ニヒタカトマツ」林ニシテ地上ヲ隙サズ密生シ、殆ンド純林ヲナス、路ハ急ニシテ漸次爪先上リヲナス、間モナク一萬二千尺附近ニ達スレバ景觀豁然トシテ開ケ喬木林ハ跡ヲ消シ、一面ノ灌木天空ニ削立スル峯頭下ヲ覆フ、仰ケバ右ハ南山ノ連屏ニシテ左ハ主山ノ巖角ナリ、粘板岩ト砂岩ノ削ルガ如キ地層ヲ露出シ斷崖數千尺、巍峩トシテ天空ヲ摩ス、勢ヒ巨龍ノ雲ヲ呼ブニ似タリ、此邊ヨリ常ニ氣温ノ急ニ低落スルヲ普通トス、斯クテ陸地測量隊ノ爲メニ補修セラレシ山路ヲ傳ヒ、横ニ巨岩ヲ抱キツ、進ムコト稍々暫シ、或ハ四跛ヲ用ヒ、或ハ匍行シ、一上一下遂ニ分水稜線ニ達ス、即チ南山頂上ニ近キ地點ニシテ既ニ一萬二千五百尺ノ岳巔ニ在リ四海ノ諸岳脚下ニアリ、雲又既ニ下界ノ有ニシテ此山地ニハ少クトモ必要ナキモノ、一ナリ、左右ノ峯巒前後ノ山川、四界ハ眺メ偉大ニシテ誓フルニ物ナシ、然レトモ此附近既ニ路ナシ、悠然トシテ此處ニ止マルヲ許サズ、佇立スレバ山頂風勢強クシテ千仞ノ巖底ニ墜落セズン有様ナリ、前後ハ相誠メ相助ケテ道ヲ誤ラザラントシテ更ニ進ム、連屏ノ上岩床露出シテ一握ノ壤土ナシ、足底痛ク歩行爲メニ困難ナリ、須臾ニシテ主山頂ニ達スルヲ得ベシ、數日ノ惡戰苦闘ハ遂ニ功成リ、名遂

グナ日本第一ノ山嶺ニ達シ、快哉ヲ叫バザラント欲セドモ能ハジ、思ハズ萬歲ヲ三唱シテ東位ニ向フ
テ敬意ヲ表ス、三角點ハ雲表ヲ指シ、天地ヲ一指ノ間ニ歷スルニ似タリ、此處ヨリ、望メバ天下ノ名山モ、
森林モ、一昧ノ巖巖ノミ、巨雷ト鬚鬚タル大河、飛瀑ノ響キモ松籟ノミ、脚下ニ徂徠スル雲形ニ飽カヌ眺
メヲ惜ミツ、下山ノ途ニ就ク、元來シ路ヲ辿リツ、時餘ニシテ急轉直下露營地ニ達スベシ。

第五日 楠梓仙溪源頭發鹿林山泊(行程四里)

同シ山路ヲ逆ニ下山ノ途ニ就ク、嶮シケレトモ登リ少ク下リ多キガ爲メ二日路ヲ悠々ト一日ニ達
スベシ。

第六日 鹿林山發阿里山歸著(行程凡ソ五里)

道路ノ平凡ナル丈ケ、長シ、途上、ソ、シ類ノ花ヨク開花スルヲ以テ多少ノ眼ヲ樂ミツ、草地ヲ辿リ
鶴蒼タル檜林中ニ再ビ入りテ遂ニ阿里山ノ客トナル。

第三、乙線舊道ニヨル登山路

本線ハ基點地ヲ竹山郡竹山ニスルモ新高郡集々ニスルモ甲乙ナケレトモ集々ハ新高郡役所處在
地ナレバ現在ニテハ諸事便ナリ、故ニ竹山ニ據ラズ集々ヲ基點トスベシ。

本線ハ徹頭徹尾濁水溪ノ一支流陳有蘭溪畔ヲ溯江スルモノニシテ河床ヲ通過シ、或ハ溪底ヲ橫斷
徒涉シ激流ニ抗走シ、往々溪流ノ極ツテ飛瀑ヲナス所又ハ深淵ヲナス所アルヲ以テ山地ノ迂廻スル
コトアルモ唯々該溪ヲ中心トシテ溯江スルノミ、故ニ本線ノ記載ハ單簡ヲ旨トシテ述ブベシ。

第一日 集々(九〇〇)發内茅埔(一、七〇〇)泊(行程六里)

集々ヲ發シ濁水溪本流ヲ橫斷シテ牛輻轆(九四〇)ニ至リ茲ニテ新高山座ノ北面ノ水ヲ合シタル濁
水溪ノ支流タル陳有蘭溪ト合シ同溪ノ右岸ヲ繞ヒ或ハ溪底ヲ辿リテ内茅埔ニ達ス。

第二日 内茅埔發東埔社泊(行程五里九町)

内茅埔ヨリハ蕃界ニ入ルヲ以テ空氣既ニ行政區域内ト全ク異レリ、此處ヨリ原野ニ似タル溪畔ヲ
上ルコト約三里餘ニシテ楠仔脚萬ノ蕃地ニ到リ、更ニ時餘ヲ費シテ和社溪ノ合流點ヲ渡リ、更ニ溪畔
ヲ溯レバ東埔社ニ達スベシ、行路平凡ナリ。

第三日 東埔社(1)發陳有蘭溪上流泊(七、五〇〇)行程約五里半)

新高西山ニ源ヲ發スル沙里仙溪ハ此處ニテ陳有蘭溪ト合シ斷崖、深淵ヲ成スヲ以テ溪畔ノ通過不
可能ナリ、故ニ直チニ此地ヨリ群大山ノ一角約二千尺ヲ上下セザルベカラズ、新高登山路中ノ三難路
ノ一ニシテ崎嶇タル坂路人ヲシテ先ヅ試煉ノ網ヲ免レザラシム、二時間餘ヲ費ヤシテ稜線ニ達スレ
バ一面ノ「アベマキ」林ヲ望ミ、急轉直下ラクラク温泉ニ達シ、憩フヲ止メテ溪流ヲ溯ル、此近邊ヨリ徒涉
繁ク兩岸相擁シ、晝尙ホ暗ク、窈窕タル溪谿ハ轉々膽ヲ寒カラシム、斯クテ幾多ノ關所ヲ過ギテ稍々巾
廣キ溪畔ニ幕營ヲ張ル、此地漸ヤク氣温ハ降下シ、樹木ノ要素ヲ異ニス。

第四日 陳有蘭溪上流發荖濃溪源頭泊(一、〇〇〇)行程約四里)

溪底ヲ溯ル事里餘漸ヤク源頭ニ達シ、此處ヨリ八通關ノ難關ヲ攀ズ、道漸ヤク急ニシテ直立セル戸
板ヲ登攀スルニ似タリ、危險ナルコト本行路中ノ躡々タルモノニシテ而モ道程長シ、路ハ檜林ヲ橫斷
シテ晝尙ホ暗シ、附近、タイワンスギ多ク、遂ニ嶮坂ヲ過グレバ廣淵無比ノ八通關高原(九、三、七、四)ニ出ヅ、
四方ノ高岳相呼應シテ呼ヘバ應ヘントシ、新高ノ雄姿ハ直チニ顔前ニアリ、此處ヨリ更ニ荖濃溪ニ下
リ又溪源ヲ極メントス、溪底岩石磊々千年ノ石ニ苔蒸シテ一步ハ一步ヨリ攀登困難ヲ極ム、溪畔迫リ
テ深淵ヲ成シ、水ハ急ニ湍ミテ飛瀑ヲ成ストコロ少ナカラズ、兩岸ニヒタカトマツ純林ヲ成シ、遂ニ
一萬二千尺ノ溪源附近ニ達シ露營ノ夢ヲ結ブ。

(1) 東埔社ハ群大八社總士日ノ居住地ニシテ霧社以南屏東以北ノ蕃地ヲ占有スル有名ナル「ブモン」族中ノ勢力蕃ルヲ以テ本旅行ノ護衛兼人夫トシテ同社蕃人ヲ使役スレバ蕃人ノ危害ニ對シテハ絕對ニ安全ナリ

第五日 荖濃溪源頭發新高山頂往復(行程約三里乃至五里)

荖濃溪源頭ヲ更ニ迪レバ樹下ノ灌木漸ヤク露出シ、一萬二千尺附近ニ於テ喬木帶ニ代ハル、此處ヨリ所謂腰切り八丁ニシテ砂岩ノ崩壞水河ノ如ク主山ト南山ト溪間ニ累々タリ、登リハ一步ハ一步ヨリ艱難ニシテ崩石落下シテ危險ナルコト甚シ、斯クテ直立削聳スル峰頭下ニ達スレバ之レヨリ愈々四肢ヲ以テ登攀セザルベカラズ、本線中ノ最大難關ニシテ危險ハ刻一刻ト迫ル、前警後助相呼ビ相應シテ稜線ニ達ス、山頂ハ赤裸ノ秃地ニシテ峰幅極メテ狭ク、山風ハ擅マニ吹キ荒ム、危險ナルコト限リナシ、斯クテ眼前ニ三角點ヲ指シ、絶巔ニ達スルヲ得ベシ、此日時間ノ餘裕アレバ四界ノ展望、地勢ヲ察シテ下山ノ途ニ就ク。

元來シ路ヲ返スモアレバ阿里山路ヲ取ルモアリ更ニ昨夜ノ場所ニ一夜ヲ明スモアレバ八通關迄引キ返スモアリ、翌日ノ行程ニ左シタル相違ナシ。

第六日 荖濃溪源頭發ラク〜泊(行程約五里十五町乃至八里弱)

荖濃溪源頭若クハ八通關ヲ出發スレバ急轉直下早クモ午後一二時ノ間ニラク〜温泉ニ達スルヲ得ベシ、此地ニテ數日ノ勞ヲ溪畔温泉ノ湧出スル處ニ横臥シ、石ニ碎クル激流ヲ眺メツ、出湯ニ浸ルモ亦一策ナリ、時間モアレバ東埔社迄下ルモ可能ナリ。

第七日 ラク〜若クハ東埔發内茅埔又ハ集集泊(行程七里半乃至十一里)

ラク〜ニ泊スレバ内茅埔ニ泊シ、東埔ニ泊スレバ集集ニ達スルヲ得ベシ、漸々下リナルヲ以テ路ハ平夷ナリ。

第四 結ビ

以上兩線共ニ相好マシカラズ、然レトモ用務アルモノハ止ムヲ得ズ、登攀セザルベカラズ、總ベテハ論外トシテモ兩線共往復日子最短距離ヲ以テ八日間ハ費消セザルベカラズ、往々降雨其他ノ天災ニ際シテハ更ニ時日ヲ延長セザルベカラズ。

本稿ヲ了スルノトキ集集、八通關間道路開鑿終了ノ報ニ接ス、今後吾人ノ享クル利益幾何ナルヲ知ラズ、天贖人力ニヨリテ征服セラレタリ、愉快ニ勝ヘズ。

然ラバ本道ハ全然廢道トナルベキヲ以テ記事ノ必要ナカラシムモ往時ヲ憶ゾノ一端ニモト茲ニ乙線舊道トシテ紹介スルコト、セリ。

第五 乙線新道ニヨル登山路

茲ニ欣快ニ堪エザル一事成レリ、即チ八通關越橫斷道路ニシテ臺中州新高郡楠子脚萬警察官吏駐在所ヲ起點トシ新高背後ノ秀姑巒山ヲ界トシ、遠ク花蓮港廳下玉里ニ至ル延長實ニ三十二里ノ山路ナリ、大正八年六月十四日工ヲ起シ、經費約十三萬ヲ投シ、一年九箇月間ノ日子ヲ費シテ茲ニ其ノ開鑿ヲ終レリ、主トシテ警察官諸氏ノ勞苦ニ成リ其ノ勳功ト共ニ難工筆紙ニ盡シ難キモノ想像スルニ餘リアリ、而シテ其道路タルヤ楠子脚萬大水窟間十里二十九町ニシテ主トシテ陳有蘭溪左岸タル中央山脈、群大山脈ノ山裾ヲ同溪ニ沿フテ八通關ヲ針シテ登ルモノナリ、中途四箇所ノ警官駐在所ヲ經過シテ僅カニ全線中最急勾配十三分ノ一、七町一箇所、十六分ノ一、八町二箇所、十八分ノ一、三四箇所ヲ有スルノミニシテ他ハ悉ク幅四尺乃至六尺ノ平均二十分一前後ノ阪路ニシテ却テ風景ヲ賞シツ、登ルベキ觀光路ナリトス。

新高山ハ實ニ此道路中ノ風景絶佳ナル八通關ヲ起點トシテ登山シ得ベキヲ以テ茲ニ本路ヲ登山
新線トシテ紹介フルコトトセリ。

唯新高山ノ森林狀態乃至ハ山地趣味ノミヲ味ハントスルノ士ハ八通關迄ノミニシテ充分山味ヲ
呪味シ得ラルベク道ニ右顧スレバ一步ト變化スル森林帶ヲ察セラルベク新高山姿ハ悉ク手
中ニ收メラルベシ若シ夫レ眞ノ新高登山ヲ試ミントスル人々ハ目的ノ如何ニヨルベケンモ健脚ナ
レバ早朝出發シテ薄暮歸營スルヲ得ベシ途中更ニ一泊ノ幕營ヲ許セバ易々タルコトナルベシ。
而シテ本路ノ平地ニ至ル連絡ハ水裡坑迄電力會社々線ニヨリ此處ヨリ徒歩セザルベカラズ其行
程大概左表ノ如シ。

本表ハ便宜集集ヲ起點トセリ即チ新高郡役所ノ所在地ナルヲ以テ用意萬端同地ニ於テナスヲ
便宜トナスヲ以テナリ。

地名	其點ヨリノ距離	宿々間ノ距離	水裡坑經過
内茅埔	六・三〇	四・一二	
楠子脚	九・一二	二・一八	
東埔	一一・三四	二・二二	
樂々	一三・二七	一・二九	
觀高	一七・三三	四・〇六	
八通關	一八・二六	〇・二九	

右ノ道路ヲ通過シ此里程ニヨリテ新高登山ヲ試ミントスルノ士ハ前記舊道ニヨルモノトノ勞苦
ノ差月鼈モ唯ナラズ誠ニ易々トシテ同日ノ談ニアラザルヲ察ス今後登山者ノ増加スルコト前日ノ

比ニアラズ。

第一日 集集發 内茅埔泊 六里三〇町

先ヅ集集ヲ早朝ニ發シテ第一日ヲ内茅埔ニ宿ラザルベカラズ道ハ坦々タレトモ濁水溪底ノ旅行
ナルヲ以テ先ヅ惡路ト思ハザルベカラズ。

第二日 内茅埔發 東埔泊 五里四町

内茅埔楠子脚萬間ハ大概ネ溪底若クハ溪畔ヲ通過シ楠子脚萬ヲ過ギテ程ナク望郷山脚ヲ陳有蘭
溪ヲ沿フテ進ム先ヅ平道ナラン或ハ樂々迄一里二十九町ヲ突破シテ翌日ノ行程ヲ短縮スルモ得策
ナラン因ニ樂々ハ從來落々ト書シタル處ナリ審語ヨリ來リシモノナリ。

第三日 東埔發 八通關泊 六里二十八町

此地ヨリハ道ハ良ケレトモ稍々勾配急ナルハ理ノ當然ナリ即チ海拔約五千尺ノ東埔社ヲ發シ八
通關九千三百尺ノ地點ニ至ル六里餘ノ里程ニハ四千三百尺ノ高差アリ元ヨリ最低三十分ノ一勾配
ノ多數アルモノアレバ少クトモ一里千尺ノ高度ヲ増ササル可カラズ故ニ差シタル困難ニモ非レト
モ少クトモ本路中ノ骨髄ナラン故ニ前日樂々迄歩ヲ進メ置クベキヲ便宜トセザルヤ。

第四日 八通關 新高山往復 約六里

曩日來開鑿中ナリシ八通關新高山間ノ登山道路ハ昨今漸ヤク開通セシトノ事ナレバ今後婦女子
ト雖モ容易ニ登山シ得ベキナリ然レバ登山ニ對スル時間極メテ短縮スルヲ以テ途中宿營ノ要ナク
八通關新高山間ハ普通一日ノ行程トシテ無理ナカラン。

第五日 八通關發 楠子脚萬泊 九里十四町

下リハ一瀉千里ナリ八通關ヲ餘リ早クニモ發セズシテ午後日暮前後ニハ楠子脚萬社ニ到着セラ

ルベシ。

第六日 楠子脚萬發 集々泊 九里十二町

之レ亦樂ニ集集ニ歸著セラレベシ。

◎新道ノ長所

予ハ本節第一項各欄ニ於テ本新高山麓ノ登山ノ行路ニ就テ縷々之レヲ筆セリ、其原因及結果モ大
 約之レヲ察スルニ餘リアランコトヲ思フ、其登山路ノ困難ハ到底此苦キ經驗ノ所有者ニ非ルヨリハ
 味フニ不可能ナラン、此意味ニ於テ新道ノ長所ハ舊道ト諸種ノ點ニ於テ比較ニナラザル點ニシテ即
 チ前掲諸種ノ困難ハ全々除去セラレタリト云フモ過言ニアラズ、極言スレバ新道ハ路ナリ、舊道ハ路
 ニ非ズト云フヲ得ベシ、唯尙ホ未ダ舊態ヲ失ハザルハ雨期間ナリ、コハ時季ノ問題ナリ、天候ナレバ又
 已ムヲ得ザルベシ。

而シテ本道路ノ最モ勝レタルトコロハ相當ノ箇處ニ於テ警察官駐在所アリテ警備ニ、宿泊ニ、萬腔
 ノ誠意ヲ披瀝シテ行人ノ便ヲ計ラレツ、アレバ安全ニシテ而モ經費極メテ少額ヲ以テ其目的ヲ達
 セラルベク時代ト共ニ天嶮ハ歩一步ト破ラレツ、アリ謳歌セザルベカラズ。

第二項 登山者

前項登山路ノ難道ニシテ一般人士ノ容易ニ登山シ能フ所ニ非ズトスレバ平夷ナル登山ノ語ヲ用
 ユルヨリハ之レヲ探險ト稱スルヲ適當ス、故川上瀧彌氏ハ既ニ其著新高山頂ノ植物(明治四十年宮部博士就
 職廿五年記念祝賀植物
 文集)ニ於テ登山者ト稱セズ探險者ト稱セリ。

領臺以來第一回ノ冒險ヲナシ、ハ明治二十九年九月長野義虎氏ニ初マル然レトモ當時長野氏ノ

探險ヲナシ、ハ新高山ニアラズシテ八通關附近ノ一峰ナリシト稱セラル、其後年ト共ニ探險者ヲ加
 エ諸派ノ専門家ニ及ビ一々記錄ノ存スベキモノ少ク、概シテ秘密裏ニ之ヲ遂行セシモノスラアリ、臺
 中州新高郡當リニ勤務セル警察官若クハ總督府營林所勤務ノ林務官諸氏ハ屢々之レヲ遂行セリト
 云フモ詳カナラズ、今左ニ稍々記錄ノ殘レルモノヲ摘記スベシ。

登山名	年月日	職業	氏名
新高山	明治二十九年九月	陸軍中尉	長野義虎
新高山	同 年十一月	林學博士	本多靜六
新高山	同	林學士	齋藤音作
新高山	明治三十一年十二月	獨逸人	カール・テオドル
新高山	同	理學士	スティーベ
新高山	三十二年十二月	薩中縣技手	山下三八郎
新高山	同	東京帝國大學理科大學 助手	鳥居龍藏
新高山	三十三年四月	陸軍通譯	森轡次郎 <small>(後ニ丑 之助氏)</small>
新高山	同	薩府總督府技師	同
新高山	三十四年九月	同	秋山謙輔
新高山	三十五年七月	同	山下三八郎
新高山	同	同	高木喜與四郎
新高山	三十七年四月	同	福留喜之助
新高山	同	臺灣總督府技師	川上瀧彌
新高山	三十八年十一月	同	永澤定一
新高山	同	國語學校教授	寺本真吉
新高山	同	測候所技手	中原源治
新高山	同	殖産局員	同

新高山麓森林植物帶論

同 技手 佐々木 舜一
 臺灣總督府營林局技手 山下 新二
 ウキルソン氏從僕 森田 久作
 等ノ諸氏臺北ヨリ嘉義ニ向ヒ同地ヨリ左記二氏一行ニ參加ス
 臺灣總督府營林局嘉義出張所長 永山 止米郎
 同 囑託 柳田 由藏
 阿里山ヨリハ警官隊警部補佐藤雅雄氏以下巡查六名、番人四十七名本隊ヲ組織ス、隊長ハ金平亮三氏ナリ。

月 日	發 地	泊 地	經過地
十月二十日	阿里山	鹿林山	東山、兒玉山、石水山
二十一日	鹿林山	新高前山	タータカ
二十二日	新高前山	楠梓仙溪源頭	新高西山、馬脊
二十三日	雨低氣壓發生ノ爲メ、引籠リ		
二十四日	同上		
二十五日	新高主山へ往復		
二十六日	楠梓仙溪源頭、鹿林山	西山、前山、タータカ	
二十七日	鹿林山	阿里山	
二十八日	解散		

更ニ著者ハ新高山座外即チ新高山麓トシテノ登山ハ大概ネ左記ノ行程ヲ取レリ、

- 一、明治四十三年竹頭崎ヨリ交力坪、水車寮、奮起湖、哆囉嘓、十字路、第一、第二奇觀臺ヲ經テ兒玉村著萬歲山、東山、兒玉山、塔山等ヲ跋涉ス。
- 二、明治四十四年三月同一行路ヲ取リ約一月間阿里山ニ滞在、水山、石水山等ヲモ跋涉ス。
- 三、明治四十五年一月早田理學博士ト行ヲ同フシ専ラ植物採集ヲナス、尙ホ當時ハ阿里山ノ伐木事業其期ニ達セズ、鬱蒼タル森林中單獨旅行ノ餘リニ氣持ヨキ時季ニ非ザリシナリ。
- 四、大正二年五月主トシテ森林帶ノ研究ヲ行ハントシ嘉義廳下觸口庄ヨリ、公田庄ニ出テ八獎溪ヲ遡リ、達邦社十字路ヲ經テ汽車ニテ二萬平ニ至リ、此地ヲ中心トシテ阿里山附近ノ山ト云フ山ハ跋涉セリ。
- 五、大正七年一月前記ウキルソン氏來臺ニ付同伴登山ノ上石水山、霞山等ニ登山、歸途眠月、烏松坑山、金甘樹山等ノ稜線ヲ經テ溪頭ニ下山ス。
- 六、同年十月新高登山ノ際四日間ヲ費シテ沿道ノ調査及採集ヲ行フ。
- 七、大正十年三月單獨竹崎ヨリ登山シテ對高岳ヲ躡ユ、和社ニ下リ楠仔脚、萬內、茅埔ヲ經更ニ鳳凰山ヲ越エテ溪頭ニ下山ス。
- 八、大正十一年一月、大正七年一月取リシ行程ト同様ノ行程ヲ取リ溪頭ニ下山ス。故ニ前後二回ノ新高登山、八回ノ阿里山ヲ中心トスル探險ヲナシタルモノナレバ調査トシテハ兎モ角一邊ノ取ルベキ道程ハ取リシナリ。

第三章 森林植物帶

新高山ノ森林植物帶乃至ハ植物帶ヲ論ゼシモノハ林學博士本多靜六氏アリ、ソノ著日本森林植物

帶論中ニ僅カノ紙面ヲ割キ、故農學士川上瀧彌氏ハ宮部博士就職二十五年記念祝賀植物學論文集中ニ「新高山頂ノ植物」ト題シ記述セルニ過ギズ、其ニ本邦ニ於ケル此種ノ先輩ノ筆ニシテ數多ノ味フベキ特長ヲ有スルモ前者ハ稍々材料ニ乏シク植物調査事業ノ今日ノ如ク進マザリシトキハ觀察ニ係レリ、後者ハ草本類ニ重キヲ置キタル結果稍々樹木ノ觀察ニ缺陷アリ、而モ局部的ノ觀察ニ限ラレ居ルヲ以テ未ダ全觀ニ通ズル能ハズ、此外林學博士金平亮三、田中市二兩氏ノ阿里山森林ノ分布高（大日本山林會報大正三年十二月號）及古川良雄氏ノ臺灣新聞社發行「新高山」中ニ簡單ナル林帶論乃至ハ日本百科大辭典第八卷六十五頁にひたかやま中ニ僅カノ林帶論アリ。

予ハ茲ニ先ヅ植物分布學上ノ理論ノ下ニ之レガ排列ヲ試ミ、次ニ特ニ記スルニ足ルベキモノアルトキハ植物生態學的記載ニ據リ之レヲ敘述セントス。

第一節 熱帶林

北回歸線ノ下濛々タル砂塵ノ起ルトコロニ山裾ヲ横へ赫燭タル光熱ヲ浴ビテ林相ヲ成スモノハ新高山麓ノ熱帶林ナリ。

嘉義平野ニ於テ深黒ノ森林ヲ成スハ人工林ナリト雖モ「ビンラウジ」[Arcaea Catechu]「マンゴウ」[Mangifera indica]「リウカン」[Euphoria longana]「ミチク」[Pambusa stenostachya]等ノ諸木、歸化種トシテ「ワタノキ」[Bombax malabaricum]「自生種トシテ」[キンミツクツン]「Acacia Farnesiana」[カサゴロ]「マンノキ」[Brevia officinalis]「ホノキ」[Macaranga Tanarius]「ノウセンアカメガシ」[Kleinovia Hospita]「グツタウ」[Alpinia nutans]「ナンタン」[Pandanus tectorius]等相索雜スルカ或ハ群落ヲ形成シ、原生林ニ入レバ「イヌチシヤ」[Cordia Myxa]「オホナンタン」[Machilus Kusanoi]「オホノキ」[Macaranga Tanarius]「イラノキ」[Laportea pterostigma]「シヤタン」[Morus alba]トキハイヌビロ

「Ficus leucantenna」[ツツサウ]「Tetrapanax papyrifera」[ウラシロヒノキ]「Ficus orientalis」[カミン]「イヌビロ」[Ficus nervosa]「トチ」[Dendrocalamus latiflorus]「トシロ」[Sapindus Mulorossi]「ノウ」[Iquiden bar form osana]「ナルラン」[Ficus Harlandii]「カキ」[Bischofia javanica]等ノ諸木鬱蒼トシテ生茂リ「タロツツ」[Didymosperma Engleri]「カゲ」[Alsephila letreosa]等ノ棕櫚科乃至ハ木生羊齒類混淆シ、樹下ニ「クハズ」[Alkasia macrostachya]「タ」[イフン]「ハセ」[Musa formosana]「リウキウ」[Strobilantes Focidifolius]「又」[ヤマキ]「モ」[Strobilantes formosanus]等隙モ洩サズ繁茂シ、樹間ニ「ン」[Puffball]「Epipremnum mirabile」[ムラサキナツフチ]「Milletia reticulata」[キン]「クワボク」[Pauhinia Championii]「クズ」[Miconia ferruginea]等ノ大小蔓性灌木攀緣スルカ懸垂シ、宛然植物景ハ一大修羅場ヲナシ、寧ロ幽鬱ニシテ目新シキ人ヲシテ異様ノ感ヲ起サシムルモノアリ、嘉義方面竝ニ觸口、小梅、牛欄、曉方面乃至ハ鳳凰山麓方面此景觀ニ富ム。

本帶ニ於ケル主ナル景觀ヲナスモノヲ左記ノ諸群落トス。

一、ビンラウジリウカンマンゴウ等ノ熱帶栽培植物

「ビンラウジ」ハ喫食用トシテ其實ヲ得ンガ爲メニ「リウカン」ハ有名ナル果實ヲ著生シ竝ニ薪炭材トシテ本島有數ノ有用樹種トシテ「マンゴウ」ハ果實ヲ得ンガ爲メニ平地竝ニ山脚地方ニ盛ニ栽培セラレ、殊ニ嘉義地方ハ此等三種ノ果木ニハ好適ス、故ニ土地ニヨリテハ頗ル盛大ニ之レヲ栽培スル處アリ、而シテ之レガ人工林ハ元ヨリ自然林ニ非ルヲ以テ林帶ノ論述ニハ不合論ノモノタランモ此等三種共悉ク既ニ郷土ノ觀アリ、此等人工林ヲ見ルトキハヨク整然トシテ熱帶氣分ノ誠ニ濃厚ナルヲ失ハザルベシ。

二、ワタノキ林

熱帶乾原ノ樹種トシテ嘉義以南ノ山脚方面ニテハ「ワタノキ」ヲ自生シテ純林ヲナス土地極メテ多キモ八獎溪ノ沿岸殊ニ觸口方面ニ多ク、未ダ滿目荒廢タル間ニアリテ大概ネ開墾跡地等ノ荒廢地乃至ハ清水溪方面ノ熱帶性山地ニ初春枯梢ニ滿面ニ開花スル景觀ハ殊ニ人目ヲ惹ク、宛然タル詐ラザル熱帶縮圖ナリ。

三、熱帶乾原ノ諸群落

熱帶乾原ニ於ケル喬木トシテハ前記「ワタノキ」林ヲ推シ、草本灌木林トシテハ「イガニガクサ」[*Elyptis suaveolens*]群落「グツタツ」[*Alpinia*]群落「タカサコ」[*Coiban*]、*Beynia officinalis* 群落及「ニンジンボク」[*Vitex Negundo*]ノ群落アリ、共ニ鬱生シテ叢林ヲ成シ、各自ノ群落中ニ於テハ容易ニ他樹ノ浸入スルヲ許サズ。

殊ニ「ニンジンボク」群落「イガニガクサ」ノ群落ノ如キハ荒廢セル河床地及丘陵地ニ多キヲ以テ茫茫數里ニ涉リテ溪底ヲ覆フコトアリ、彼ノ清水溪、陳有蘭溪、八獎溪ノ河原ニ見ル處ノ如シ。

四、鹽性海濱植物群落林投林

本群落ハ主トシテ熱帶ニ於ケル海岸林「Tidal Forest」ヲナスモノニシテ本島ノ如キ環海ノ孤島ニアリテハ殆ンド本樹種ノ群落ヲ以テ圍繞セラレ、モ、往々山地ニ近キ平地河畔溝沼地ノ沿岸ニ之レヲ見ルコト少ナカラズ、吾人ノ嘉義平野竝ニ山脚地方ニ見ル處ナリ。

五、中性林トシテノ桂竹林及竹林

本帯ニ於テ最モ顯著ナルモノハ桂竹 *Phyllostachys Makinoi* 林ナリ、其低部山地ニ鬱積シテ頗ル美林ヲ成シ、容易ニ他樹ノ浸入サヘ許ササルノミカ、本島中他ニ其比肩ヲ見ザルハ本山彙ニ於ケル桂竹林ニシテ亭々タル竹幹ノ林立スル様ハ轉々人ヲシテ爽快ヲ叫バシムルモノアリ、彼ノ臺中州下竹山郡各地ノ竹林、殊ニ清水溪沿岸地方、臺南州下嘉義郡交力坪方面ニ於ケルモノハ其最ク、右ノ外蘇竹林

Dendrocalamus latiflorus 及「マツソウチク」林 *Phyllostachys pubescens* H. Leh. 等ノ美林ハ山脚緩斜ノ土地ニ廣大ニ群生ス。

六、濕潤植物群落

此ノ群落ハ山間ノ陰地若クハ陽光ノ比較的透徹少ナキ北西ノ山腹乃至ハ樹陰ニ生ジ、頗ル大ナル純林群落ヲ形成スルモノアリ、彼ノ「タイソウ」[*Musa forniosa*]「クハズイ」[*Alocasia racemosa*]「ハリホ」[*Trichodesma hasianum*] 等ニ見ル處ニシテ本山彙ニ於ケル山脚乃至ハ山腹地方ノ如キハ何レノ土地ニ於テモ之レヲ認メ得ベシ、而シテ本群落ハ帶ニ熱帶林中ニ於テノミナラズ盛ンニ高處ニ達シ、暖帶林ヲ通過シテ温帶下部林ニ於ケル高山性濕地植物ト境ヲ接スルコトアリ、以テ其ノ旺盛ニシテ廣キ分布ヲナスコトヲ推知スベシ。

七、淡水植物群落

熱帶林ヲ構成スル山麓附近ノ淡水植物群落ハ稍々顯著ナルモノ多シ、嘉義平野諸地ニ於テ吾人ノ目撃スル處ニシテ、濁水、曾文、八獎、後大埔、陳有蘭諸溪乃至ハ溪畔地方ノ池水及水路滾々トシテ盡キザル流水ノ中諸種ノ水生植物群落ノ繁茂スル様ハ頗ル隆盛ナルモノアラズ、今左ニ項ヲ分チ之レガ種類ヲ記サン。

水邊植物群落

溝渠ノ邊、池水ノ淀ム所、濕潤ナル地面ヲ好ミ盛大ニ繁茂スル一群アリ、予ハ茲ニ此等ノ群落ヲ稱シテ水邊植物群落ト云フ、此等群落ヲ形成スル主ナルモノ左ノ如シ。

- リンタウ *Pandanus tectorius* Sol.
- ヤナギヤブマヨ *Boehmeria densiflora* Hook. et Arn.
- ナガバロメマヨ *Boehmeria Zollingiana* Wedd.
- ナンバンヤナギ *Homonoya riparia* Lour.
- スイシヤヤナギ *Salix sushaensis* Hay.
- タイワンヤナギ *Salix Warburgii* O. Seem.
- キツネノボタン *Ranunculus Langsdorffii* Sprang.
- ネバリハコベ *Drymaria cordata* Willd.
- ハンゲシヤウ *Saururus Loureiri* DC.
- クハレシダ *Diplazium esculentum* Sw.

挺水植物群落

淡水中若クハ泥土ニ生シ、常ニ直立セル莖程ノ一部若クハ全部ヲ抽キテ群生スルモノハ挺水植物群落ナリ、吾人ノ水邊ニアリテ最も多ク目撃スル處ナリ、種類極メテ多シ。

- ヤナギハダロ *Hydrophila sibirifolia* Nees.
- オホケタデ *Polygonum orientale* L.
- マコモ *Zizania aquatica* L.
- ヨシダケ *Aruno Dunax* L. var. *coleoctricha* Hack.
- ミヅキンバイ *Jussiaea repens* L.
- ヤヘヤマチヤウシタデ *J. suffruticosa* L.

タデ類

- ハス *Polygonum* spp.
- ナガボノウルシ *Nelumbium speciosum* Willd.
- イガニガクサ *Sphenoclea zeylanica* Gaertn.
- ホザキイガニガクサ *Hipis capitata* Jacq.
- カハヂシヤ *Veronica Anagallis* L.

浮水植物群落

- ピロウドヒツジグサ *Nymphaea Lotus* Linn. var. *pubescens* Hook. f. et Thonn.
- オホヒルムシロ *Potamogeton natans* L.
- エビモ *P. crispus* L.
- ガ、ブタ *Limnanthemum indicum* Thwait.
- オニハス *Euryale ferox* Salisb.
- タウビン *Typha natans* L.
- アカウキクサ *Lymna paucicostata* Hegelm.

等ハ池ノ満面ニ浮游シ、往々「エビモ」「オホヒルムシロ」等ハ沈水シテ清流ノ流レノマ、ニ植物ヲ動搖スルヲ目撃スルコトアリ、又「ガ、ブタ」「ハス」「ピロウドヒツジグサ」等ハ可憐ナル花、美麗ナル花、清雅ナル花ヲ日光ニ浴ヒツ、アルヲ常トス。

沈水植物群落

本群落中ノ植物要素ハ主トシテ清流中ニ自生スルヲ普通トシ、停滞セル貯水中ニハ生ゼサル事多

キガ如シ、大略左ノ如シ。

Myriophyllum spicatum L.
 ホザキノフサモ
 Ceratophyllum pentacanthum Hay.
 キンギヨモ
 Bergia glandulosa Turcz.
 ヤンバルミゾハコバ
 Tricolaria exolata R. Br.
 ワスレタヌスキモ

八、熱帶性第二期森林

吾人ノ常ニ相替メ相叫ブ處ノモノハ亂伐、開墾ナリ、而シテ其多クハ伐採了リテ一定ノ農耕ヲ遂グレバ他ヲ顧ル所ナク放棄シテ山地ヲ造ラズ、爲メニ斧鉞ノ入ラザリシ千古ノ處女林ハ昔年ナラズシテ禿山ト化シ、更ニ荒サレテ遂ニ草茅ノ荒野トナリ場合ニヨリテハ草茅スラ生セズ、地層深カラザル山脊ハ年々赤裸ノ地床ヲ露出シ、急激ナル雨水ニ洗ハレテ崩壊スル處少ナカラズ斯ノ如キハ日常日撃スル處ノ本島山地ノ狀況ナリ、茲ニ草野ノ自然的ニ森林樹種ヲ發生セル林地ヲ第二期森林ト云フ。

本帯ニ於ケル第二期森林樹種ハ「フツ」Liquidambar formosana「ウラシロエ」Trema orientalis「キワタ」Bomax malabarium「チシヤノキ」Ehretia seminata「フウセンアカメ」Goshiki「Kleinovia Hospita」タカサゴ「ガマズミ」Viburnum formosanum等ニシテ、嘉義及斗六郡下乃至ハ臺中州竹山郡ニ多ク、殊ニ嘉義郡下八獎溪沿岸ノ諸地ハ面積廣大ナリ。

第二節 暖熱混森林

所謂暖熱混森林ト稱スベキモノニシテ、常綠闊葉樹及竹類省籐乃至ハ木生羊齒類ノ如キモノ相替

蒼トシテ繁茂シ四時光熱比較的高温ニシテ、而モ雨量ノ潤澤ナル事ハ熱帯樹林ト共ニ遙カニ他帶ノ上ニアリテ終日雲霧ニ閉サル、事アリ。

而シテ本帯ニ自生スル主ナルモノハ「フツ」Alseodaphne spinulosa「ヒカゲ」Alseodaphne latifolia「ダイワシバセ」Musca formosana「ダイワシバ」Phoebe formosana「ダイワシバ」Helicia formosana「シスノキ」Cinnamomum Camphora等ニシテ、シズモダマ「Mucuna ferruginea」如キ蔓性大喬木樹間ニ懸垂シ「ハンノ」ハエゴノキ「Alphitylum Fortunei」ウラシロエ「ヒノ」Syrax suberifolium「フツ」Liquidambar formosana「ダイワシバ」Alnus formosana「オホシタマ」Maculatus Kusanagi「シロ」Heptaplerygium octophyllum等相錯索シテ深黒ナル樹林ヲ形成シ、シマツルスベリ「Jaguarstronia subcostata」クリカシ「Castanopsis taiwaniana」アカバナシキ「Illicium arborescens」ハリミロ「バン」モテ「Echinocarpus dasycaarpus」等ノ特長アル諸木少ナカラズ、諸種ノ竹林ハ前帶ト同シキ極メテ單調ナル群落ヲ形ヅクリ、濕性植物群落トシテ「ダイワシバ」クハズイモ、等ノ顯著ナル群落ハ尙ホ未ダ旺盛ニ、カテ、加ヘテ「ヒカゲ」Alseodaphne latifoliaノ如キ美幹ヲ有スル木生羊齒群顯著ナル群落ヲ顯出スルハ熱帯林ニ讓ラズ、而シテ檜類、楠類等ノ中性喬木旺盛ヲ極メ、イハガネ類「Vill. brunea」及蕁麻科ノ濕性植物濃厚ナル群落ヲ形成スルニ至レリ、彼ノ阿里山沿線中交力坪方面竹山郡下溪頭、清水溪左岸陳有蘭溪、内茅埔方面ノ潤葉樹林ニ見ル所ノ如シ。

一、蔓性灌喬木群落

深緑ナル胸圍ノ大喬木林中鬱蒼トシテ晝尙ホ暗ク、樹幹ハ亭々仲長シテ樹頂ヲ見ルコト難キ林中ニアリテハ大概ホ偉大ナル蔓性諸木ノ樹間ニ懸垂シテ繞走スルヲ見ルベシ、其狀其貌婉々トシテ長蛇ノ雲ニ迫ルノ風アリ、吾人夙ニ其壯觀ヲ叫ビ且ツ薄氣味悪ク觀ズル所ナリ、虚構ニアラズ、常ニ本島何レノ地ニ於テモ本林帯ニ見ル所ノ現況ナリ、蔓性樹木トシテハ大概ホ左記ノ諸種ヲ算スベシ。

- ヒロハノシヒノハカヅラ *Derris laxiflora* Benth.
- モダマ *Eurada phaseoloides* Merrill
- ムラサキナツフヂ *Millettia reticulata* Benth.
- クズモダマ *Mucuna ferruginea* Mats.
- キククソボク *Bauhinia Championi* Benth.
- ホザキサノオ *Hipage Madablota* Gaertn.
- アイギヨクシ *Ficus Awkeotsang* Makino.
- ツルウメモドキ類 *Calanthe* spp.

二、濕潤植物群落

本帯ニアリテハ熱帯林ト漸次要素ヲ變更シ來リ前帯本群落ノ要素中漸次ルリホ、ツギン影ヲ收メ、イハガネ、*Viburnum frutescens*、ヤナギイチゴ、*Dibegasia edulis* 等ノ諸群落著シク増加シ、山影濕潤ノ地ニ蟠延ス、而シテ樹下「ヒロハノキ」ミツ、*Elatostema edule* 乃至「シツ」ノ類 *Pilea*「シ」ノキリサウ、*Chiria bicornuta*「ウキウアキ」*Sarcoblantes falcifolius* 及「ヤマアキモ」キ、*Sarcoblantes formosanus* 等盛ニ繁茂ス。

三、中性森林植物群落

本林帯ヲ形成スル主要々素ニシテ檫類、楠類等ノ喬木繁茂シ「シキミ」類「ホルト」ノキ類等多ク「イヌビ」ハ類亦少ナカラズ、主ナル樹種左ノ如シ。

- タイワンイヌグス *Phoebe formosana* Hay.
- フカノキ *Heptapleurum octophyllum* Benth.
- ギランイヌビハ *Ficus Konishii* Hay.
- モクタチバナ *Ardisia Seboldi* Miq.

- クスノキ *Cinnamomum Camphora* N. et E.
- カシハイヌビハ *Ficus nervosa* Heyne.
- フヂバシデ *Engelhardtia formosana* Hay.
- タイワンツバキ *Gordonia axillaris* (Don.) Szysz.
- アデク *Eugenia sinensis* Hemsl.
- アカハダグス *Belischmidia erythrophloia* Hay.
- オホバタバ *Machilus Kusanoi* Hay.
- ホルトノキ *Elacocarpus elliptica* Nakai.
- ニホヒタバ *Machilus longipaniculata* Hay.
- クリカシ *Castanopsis taiwaniana* Hay.
- ハンノハエゴノキ *Alniphyllum Fortunei* Perkins.
- タイワンビハ *Eriobotrya deflexa* (Hemsl.) Nakai.
- オガタマノキ *Michelia compressa* Max.
- タイワンヤマモガシ *Helicia formosana* Hemsl.
- タイワンハンノキ *Alnus formosana* (Barkild) Makino.

而シテ漸次高度ヲ増加スルニ從ヒテ暖帯ノ要素ヲ増シ、氣温モ低下シテ落葉喬木林要素漸次濃厚トナル。

第三節 暖帯林

暖熱混生林ノ上位スル林帶ニシテ普通溫帶林下部ト稱スルモノ、下部界一部ヲ包擁シ尙ホ常綠闊葉樹ノ鬱林ヲ主要部トナス、本帶ニ於ケル主ナルモノハ「ダイワシヒノキ」*Pasaniopsis Junghuhnii*及
其他ノ檜類及「クリカシ」類「コパン」モチ類「ヒメツバキ」フヂバシデ「ランダイニクケイ」等多ク、樹蔭諸種ノ
濕潤植物群落アリ、而モ暖熱混生林ト同ジク諸種ノ著生植物多ク、一段ノ深味ヲ加ヘ、未ダ樹林ノ林中
間隙少シ、主ナル樹林トシテハ西部糞起湖方面、北方鳳凰山竝ニ陳有蘭溪畔ニ見ルベキモノヲ數フベ
シ。

一、檜類及クリカシ類

暖帶林ノ特徴トシテ常綠喬木多ク、常綠喬木中ニテモ其主要素ハ大概ネ檜類及其他ノ殼斗科植物
ナリ。

樹幹ハ亭々トシテ巨樹ニ富ミ、樹頂ハ鬱蒼トシテ相錯綜シ、林間常ニ薄暗シ、樹蔭濕性草類ニ富ム、主
ナル樹種トシテハ「カハカミガシ」*Quercus Kawakamii*「ウラシロガシ」*Quercus stenophylla*「オホクリガシ」*Castano*
psis Kawakamii「ダイワシヒ」*P. Junghuhnii*「クサノクリガシ」*C. Kusanoi*「クリカシ」*C. taiwaniana*「オニガシ」*Litho*
carpus castanopsisifolia「アベマキ」*Quercus serrata*等ノ美林ニシテ樹間、オホタニワタリ、*Asplenium Nidus*「カザリシ
タ」*Polypodium cornus*「シノラン」類 *Vitaria* spp. 石櫛類 *Dendrobium* 等ノ著生植物ハ頗ル美觀ヲ呈ス。

又「アベマキ」林ハ頗ル廣大ナル單純林ヲ形成シ、茫々數里ニ涉リ、而モ第二期森林ノ主要樹ヲ成シ、上
下尙數千尺ニ涉リテ蟠延シ、純然タル「アベマキ」*Quercus serrata* 自然林ヲ現出ス、彼ノ群大山連山ニ於ケ
ルモノハ本山彙ノ標本タリ。

二、落葉林木群落

落葉林木群落ト云フト雖モ暖帶林上部ヨリ溫帶林下部ニ亘リテ繁茂スル中層第二期森林ナリトス、



落葉物種潤濕ゾケ於ニ内林帶溫山里阿
(氏山和)類「アベマキ」ツバキ側雨ノ遺跡

而シテウラシロタラノキ *Aralia hydnocera* 「フヨウ」 *Hibiscus mutabilis* 「ムルチ」 *Rhus javanica* 等ノ落葉小喬木乃至大灌木群ハヨク乾地ノ土壤ヲ好ミテ群生シ、ダイワシノキ *Alnus formosana* 林モ本帯ノ上部ヨリ盛ニ繁茂シ著シキ群落ヲ形成ス、而シテ喬木帯ニ於ケル特ニ顯著ナルモノハ前記「アベマキノ」外「ダイワシノキ」 *Zelkova formosana* 林ニシテ各地ノ暖帯林中ニ之ヲ見ザル事少シ、處々ニ「コノノ」 *Lonchocarpus fortunei* 交フ。

三、濕性植物群落

濕性植物群落ニ於ケルモノハ漸次群落的優勢トナリ、前帯本群落ニ述ベシ種數以外ニアリテハ「イラクサ」 *Urtica thunbergiana* 「アリサンゲツタウ」 *Alpinia macrocephala* 「クハンスイモ」 *Alocasia macrorrhiza* 及濕性羊齒類 *Adiantum lunulatum* 「秋海棠類」 *Begonia* spp. 「ダイワシノキ」 *Fatsia polycarpa* 「カニヤツヂ」 *Tetrapanax papyriferum* 等ノ類繁茂シ、幽鬱ナル林中更ニ樹根ヲ被覆シテ人ヲシテ林中ニ入レシメザルモノアリ、阿里山平遮那、二萬平方面ニ於ケルガ如シ。

第四節 溫帯林下部

常綠喬木林ノ漸次鬱閉隙ヲ生シ、氣温ハ低下シテ降霜降雪例年到リ、爲メニ稍々規律的週期ニヨリテ季候變遷シ、落葉樹群落増加シ、針葉樹林亦濃厚トナル、而シテ所謂下部界ノ下部ハ暖溫兩帶ノ混淆林ニシテ種類ニヨリテハ明確ナル群落ヲ形成セズト雖モ樹種ハ漸次減少シ、概シテ團集シテ明カニ劃然タル大群落ヲ形成スルモノアリ、彼ノ「フノキ」類 *Chamaecyparis* spp. 松類 *Pinus* spp. 「モミヂ」類 *Acer* spp. 「ダイワシノキ」林 *Alnus* 「ヤマダケ」類 *Arundinaria* 「ノカノキ」類 *Hephalanum* 「シロ」類 *Pasaniopsis* 「メシ」類 *Viburnum* 等ノ群落並ニ「ツルソバ」 *Polygonum* spp. 「タカネイハ」類 *Rosa* spp. 「キミ」ノオミダ *Pagogyria* 等ノ灌

木竝ニ榻地性草本繁茂シ、顯著ナル群落ヲ形成ス、本帶ヨリ「ヤダケ」類 *Arundinaria* spp. ノ群落出顯シ、乾生草原ニ至リテハ「ツ」シ類 *Rhododendron* spp. 及「ス」キ類 *Miscanthus* 乃至「羊齒類」 *Pteris* spp. *Cheilanthes* spp. *Lycopodium* spp. 繁茂シ路ヲ覆フ、如斯樹林ノ標本タルベキモノニ阿里山萬歲山、東山、烏松坑山、小笠原山、水山方面ヲ指舉セザルベカラズ。

一、中性森林植物群落

本帶ニ屬スル中性森林植物群落中ニハ下部ハ主トシテ常綠竝ニ落葉喬木ノ混淆林ニシテ高度ヲ進ムルニ從ヒ針葉樹ノ混淆ヲナシ、而シテ最後ニ針葉樹ノ純林ヲ形成スル處往々「タイワンヒノキ」モリガシ「アミガシ」等ノ喬木樅類ヲ混生スト雖モ此等ノ種類ハ多クハ地帶ヲ同シクシテモ大概ニ別箇ノ地積ニ群落ヲ形成ス、然レトモ全クナキニ非ズ、彼ノ二萬乃至ハ阿里山神木附近ハ各種ノ樹木混淆シ而モ蔓性灌木樹幹ニ纏絡シ、此世ナガラノ神域ヲ形成シ、林中盛夏ノ候ト雖モ大概ニ亞寒ヲ感ズ。

常綠闊葉樹木

本帶ニ於ケル主ナルモノハ下部群落トシテ「ハリミコバンモチ」 *Echinocarpus dasycarpus* 「ホンモチ」 *Eucarpus japonicus* 「ホルトノキ」 *Elaeocarpus elliptica* 「ロメツ」 *Schinus Noronhai* 「カンカミガシ」 *Quercus kawakamii* 「アカハダクス」 *Betula schmidtii* *erythrophloia* 「ナガミタロダモ」 *Litsea dolichocarpa* 「オニガシ」 *Lithocarpus castaneo-opsisifolia* 「タイワンカゴノキ」 *Actinodaphne pedicellata* 「オガタマノキ」 *Michelia compressa* 等錯綜シ、上部ニ進ムニ從ヒ「ハリミコバンモチ」 *コバンモチ* 「ホルトノキ」 *ロメツ* 「カハカミガシ」 *オニガシ* 「アカハダクス」等ハ影ヲ潜メ「タイワンシロノキ」 *Pseuderanthemum junghuhii* 「ヤマグルバ」 *Trochodendron aralioides* 「アリサンタム」 *Macclurea arisanensis* 「アミガシ」 *Lithocarpus amygdalifolia* 「モリガシ」 *Quercus Mori* 「ユ」 *Symplocos eriobotryaeifolia* 「アリサンハイノキ」 *S. arisanensis* 「ヒビダカハイノキ」 *S. morrisonicola* 「アヲキ」 *Aucuta chinensis* 「ナンシロダ



(氏山永) (林純キノヒ) 觀外ノ林樹葉針ノ近附月眠山里阿



(課務林) 部内林森ノ近附山歲萬上同

「*Tetradenia acuminatissima*」アヲクヌモドキ「*Machilus pseudolongifolia*」等ノ諸木乃至ハ「*ヒサカキ*」類「*Eurya* spp.」
「*ヒメツバキ*」類「*Camellia* spp.」之レニ代ハリ諸種ノ針葉樹ト混淆若クハ單生シテ宛然千古ノ處女林ヲ形
成ス。

落葉潤葉樹木

僅カノ期間ニ落葉スル「*フデバシ*」*Engelhardtia formosana*ヲ筆頭トシテ「*タイワン*」*Gulmii*「*ウグイス*」*Uglandes formosa*
「*ノ群*」*Ulmus yematsui*「*タイワン*」*Ulmus formosana*「*シ*」*Carpinus* spp.「*ヒ*」*ヒ*
カウリカエデ「*Acer morisonensis*」以下ノ「*モ*」*Momiji*屬諸種乃至ハ「*ウ*」*Ulmus*「*シ*」*Shirokura*「*ノ*」*Aralia hypoleuca*「*タイ*」
サツサフラス「*Sassafras randaiensis*」等ノ諸木ハ大概ネ大ナル群落ヲ形成スルカ或ハ常綠潤葉樹若クハ針
葉樹林中ニ混生シテ特種ノ景觀ヲ呈ス、此群落ハ熱帶性第二期森林ニ對シ温帶性第二期森林トモ稱
シ得ベシ。

二、針葉樹林

暖帶林ノ盡クル所、温帶林下部ニ接續シ、茲ニ顯著ナル林帶ノ變化ヲ行フモノハ暖温混淆林ナリト
ス、而シテ氣温ハ急ニ低下シテ亦熱帶ノ如ク蒸熱ナラズ、常ニ淺霧ニ罩メラレ若クハ低雲ニ包擁セラ
ル、此邊ヨリ温帶針葉樹ノ出現ヲ見ルヲ普通トス、本新高山嶺ニ於テハ有名ナル阿里山ハ此針葉樹林
ニヨリテ代表セララル、ヲ以テ特ニ其林帶モ顯著ナリ、而シテ混淆林ニアリテハ大概ネ規律的ニ「*ベ*」
「*ヒ*」*Chamaecyparis formosensis*ヲ見、然ル後五百尺乃至ハ一千尺ノ差ヲ以テ「*ヒ*」*ヒ*「*ノ*」*C. obtusa*ノ出現ヲ見ルハ
最モ明白ナル事實ナリトス。

本山嶺ニ於ケル「*ベ*」*ベ*「*ヒ*」*ヒ*ノ純林ハ七千尺乃至八千四百尺ノ間ニアリテ「*ヒ*」*ヒ*「*ノ*」*ノ*ト共ニ大概ネ地高
ヲ同ジクシテ單純純林ヲ形成シ、阿里山一萬一千一百町歩ノ森林中約二分ノ一ハ此純林ナリトス。

而シテ針葉樹中此帶ニ自生スルモノニ「*Taiwania cryptomerioides*」乃至「*Megacaryocarpus*」*Pinus Armandi*「*Pinus formosana*」*Pinus formosana*「*Taiwania cryptomerioides*」*Wilsoniana*等ノ諸樹亦純林ヲ形成スル所多シ、而シテ集團的純林ヲナスモノニ「*Podocarpus taiwanensis*」アリテ七千尺乃至九千尺ノ地點ニ大林ヲ形成ス、此等諸針葉樹林ノ林間ニ陰樹トシテ繁茂スル小喬木乃至ハ大灌木群ハ中性樹木トシテハ「*Actinidia chinensis*」*Furuya glaberrima*「*Furuya glaberrima*」*Furuya arisanensis*「*Furuya arisanensis*」*Enrya leptophylla*「*Enrya leptophylla*」*Enrya strigilosa*等ノ「*Furuya*」類「*Myrsine*」*Myrsine*「*Myrsine*」*Camellia brevistyla*等ノ「*Myrsine*」類諸種ノ樟科植物「*Utricularia*」*Daphniphyllum*類「*Saururus*」*Prinosia scandens*矮性「*Prinosia scandens*」類「*Symplocos*」*Symplocos* spp.「*Symplocos*」*Osmanthus*諸木「*Osmanthus*」*Rhododendron leposanthum*「*Rhododendron leposanthum*」*Gilibertia pellucidopunctata*「*Gilibertia pellucidopunctata*」*Prohodendron aralioides*等ノ樹種混生シ、濕潤植物群落ハ別項ニ記ス、樹下常ニ陰濕ナリ。

三 濕潤植物群落

由來濕潤植物群落ノ發達ハ林帶中ニアリテ溫帶林ヲ以テ其最タルモノトスルガ如シ、殊ニ本島ニ於ケル本溫帶林ハ水濕甚シキ而已ナラズ、樹林鬱閉スルヲ以テ上騰著シク、常ニ極メテ顯著ナル諸種ノ群落ヲ形成スルハ當然ノ事由タラズ、就中溫帶林中ニアリテモ下部ハ上部ニ比シ甚シク發達シ、茲ニ一々上掲スルノ繁ニ堪エザルモノ多シ、今左ニ掲出スルモノハ顯著ナル群落ヲ形成スモノナリ。

- 主林若クハ喬木林下ニ陰樹トシテ混生群落ヲ形成スルモノ
- アリサンミジンコヅクラ *Perrottetia arisanensis* Hay.
- ヒマラヤキノヂ *Stachyurus himalaicus* Hook. f. et Th.



樹陰下部内ノ林樹葉針

(氏山永)シ多類ミズマガリキノヒハカシモダロシカタヒニハ上右ニキカサロバツアハ下左

タイウンヤツデ	<i>Fatsia polycarpa</i> Hay.
タイワシロキジノオ	<i>Ebulus formosana</i> Nakai.
ミヤマハシカンボク	<i>Alpinia macrocephala</i> Hay.
ムカゴシダ	<i>Urtica Thunbergiana</i> S.et.Z.
アラサングヅタツ	<i>Monachosorum subdigitatum</i> Kunze.
イラクサ	<i>Platygyria glauca</i> var. <i>philippinensis</i> Christ.
ウラジロキジノオ	<i>Blastus cochinchinensis</i> Lour.
前掲厚皮香料諸木	<i>Fernstroeniaceae</i> plants.
同 ハイノキ類	<i>Symplocos</i> spp.
タイワシロキジノオ	<i>Viburnum taiwanianum</i> Hay.
ウラジロキジノオ	<i>Oreopanax formosana</i> Hay.
アライガソラビ	<i>Diplazium Kawakamii</i> Hay.
サキミノオシダ	<i>Dryopteris apiciflora</i> O. Kuntz.
ユノミネシダ	<i>Histiopteris inuusa</i> J. Sm.
タイワシロキジノオ	<i>Hydrangea Kawakamii</i> Hay. (和名ハシカンボク)
タイワシロキジノオ	<i>Gilibertha pellucidopunctata</i> Hay. (ニヤマメ直立灌木ナリ)
セイバンシヤシヤンボ	<i>Vaccinium bracteatum</i> var. <i>longitubum</i> Hay.
ヤナギイチゴ	<i>Debregeasia edulis</i> Wedd.
サイカチモドキ	<i>Princepia scandens</i> Hay.

ヒメユヅリハ *Daphniphyllum glaucescens* Bl.

此外林ノ内外ヲ通ジテ密生スルモノニ「ニヒタカヤダケ」*Arundinaria nitakayamensis* Hay.「オヒワケヤダケ」*Arundinaria ovakensis* Hay.アリテ兩者共著シク繁茂シ、上昇スルニ從ヒテ往々主林ノ滅亡セル後ニテモヨク優勢ナル群落ヲ形成スルコトアリ、新高登山路各地ニ於テ目撃スルトコロナリ。

巒間竝ニ庇陰ノ地ニ群落ヲ形成スルモノ

タイワンヤツデ *Fatsia palycarpa* Hay.

ホザキフカノキ *Heptapleurum racemosum* Bedl.

タイワンソクズ *Ebulus formosana* Nakai.

ヤナギイチゴ *Dabegesia edulis* Wedd.

イハガネ *Villebrunea frutescens* Bl.

ツルソバ *Polygonum chinense* L.

ニヒタカタニソバ *P. morrissonense* Hay.

セキシヤウ *Acorus gramineus* Ait.

ヒメユヅリハ *Daphniphyllum glaucescens* Bl.

ミヅノ類 *Pilea* spp.

ニヒタカツリフネ *Impatiens uniflora* Hay.

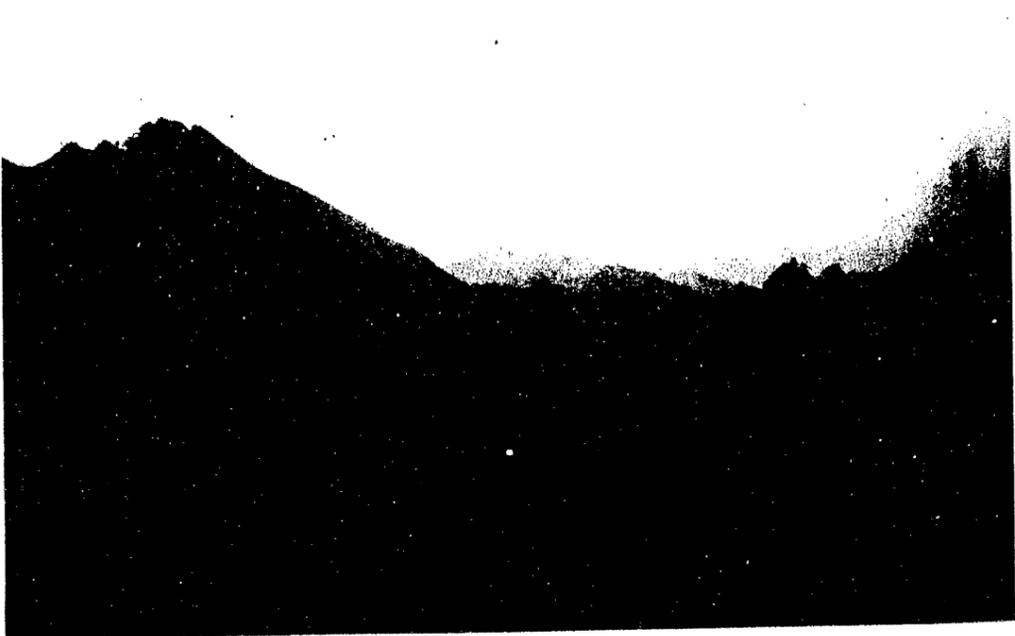
アリサンイチゴ *Rubus arisanensis* Hay.

アリサンサナゲイチゴ *R. parvipungens* Hay.

等アリテ此外「ヤダケ」類 *Arundinaria nitakayamensis*, *A. Usawa* 密生シ、群落極メラ顯著ニシテ往々此等ハ



高地草原鹿林山附近 左方ノ森林ハ「オヒワケヤダケ」ノ純林(著者)



八通關ノ草原 (伊藤氏)

濕地植物群落乃至泥炭沼野ニ近キ生態分布ヲナシ、*Salix* sp.「ヒビタカアカバナ」*Epilobium alpinum*「タカサミアカバナ」*E. alpinum roseum*「タイワンアカバナ」*E. roseum*「キ」*Juncus effusus*「アリサンタニン」*Polygonum quadrifidum*等ノ群落ヲ形成ス。

四、草生地

本島ノ高地帯草生地ノ成因ハ主トシテ人為的森林消滅即チ開墾若クハ伐採乃至ハ放火ニヨルモノ多ク、本帯金柑樹山竝ニ兒玉山、石水山、鹿林山等ニ於ケル廣膜タル草生地ハ温帯林上下兩帶ヲ通ジテ其要素即チ生態的植物群落ヲ形成スル種類ニ大差ナシ、而シテ最も多キハ「メ」*Miscanthus sinensis* Anders.「タカネス」*M. transmorrisonensis* Hay.等ニシテ處々ニ前掲二種ノ「ヤダケ」類乃至ハ第二期森林トシテノ「タカネコエ」*Pinus Armandi* 若クハ「アスビカヅラ」*Lycopodium complanatum* L. var. *Chamaecyparissus*「マンネン」*Syzygium obscurum*「ヒビタカヒカゲノカヅラ」等ノ石松類「モリソ」*Peris morrisonicola* Hay.「サクマリ」*Gentiana formosana*「ノダ」*Anaphalis Nagasaki*「ヒビタカヤ」*Anaphalis morrisonicola*「ヒビタカシラ」*Gaultheria bormensis*等ノ矮生草類群落ヲ形成シ「タイワンアセビ」*Peris taiwanensis*「アイソ」*Gaultheria Cumingii*「アカゲツ」*Rhododendron rubropliosum*等ノ灌木類處々ニ群落ヲナス、亦崩壊地ニ「タイソ」*Eupatorium formosanum*ノ群落ヲ見ルコトアリ。

五、蔓性灌木竝ニ着生及寄生植物群落

空氣濕潤ナルヲ以テ諸種ノ蔓性灌木竝ニ着生、寄生植物等ノ群落ヲ形成スルモノ多シ。

蔓性灌木

蔓性灌木ハ主トシテ潤葉樹ニ纏絡ス、主ナル種類左ノ如シ

シマユキカヅラ

Pilea viturnoides var. *parviflora* Oliv.

- ユヅリハアヂサキ *Hydrangea integra* Hay.
- タイワンツルアヂサキ *H. anomala* Don.
- アリサンイタビ *Ficus arisanensis* Hay.
- マルバイハガラミ *Schizophragma integrifolium* var. *Fauriei* Hay.
- ハリミマユミ *Euonymus Spraguei* Hay.
- キヅタ *Hedera Helix* L.
- ホザキツルウメモドキ *Celastrus longe-racemosus* Hay.
- アリサンツルウメモドキ *C. oblongifolia* Hay.
- コバノツルウメモドキ *C. gracillimus* Hay.

寄生植物

地上寄生

- タイワンヤッコサウ *Mitrasenon Kawa-Sasaki* Hay.
 - ギンレウサウ *Monotropa uniflora* L.
 - フデガタツチトリモチ *Balanophora multinoides* Hay.
 - ニヒタカツチトリモチ *Banorrisonicola* Hay.
 - ヤドリタラノキ *Pentapanax castanopsisifolia* Hay.
 - オホワタリヤドリギ *Loranthus Owatarii* Hay.
 - シヤクナグヤドリギ *L. rhododendricolus* Hay.
- 樹上寄生
- 茶 卍 *Quercus Kawa amii*
 - { *Lithocarpus amygdalifolia*
 - { *Alnus formosana*
 - { *Quercus*,
 - { *Schima*.
 - { *Trochodendron aralioides* S.et.Z.
 - { *Machilus Kusanoi* Hay.
 - Quercus*
 - Rhododendron Morii*

- モリガミヤドリギ *Viscum Querei-Morii* Hay.
- ヒノキバヤドリギ *Pseudixus japonicus* Hay.
- タイソンヤドリギ *Viscum Alni-formosanae* Hay.
- タイワンマツグミ *Loranthus Matsudai* Hay.

着生植物

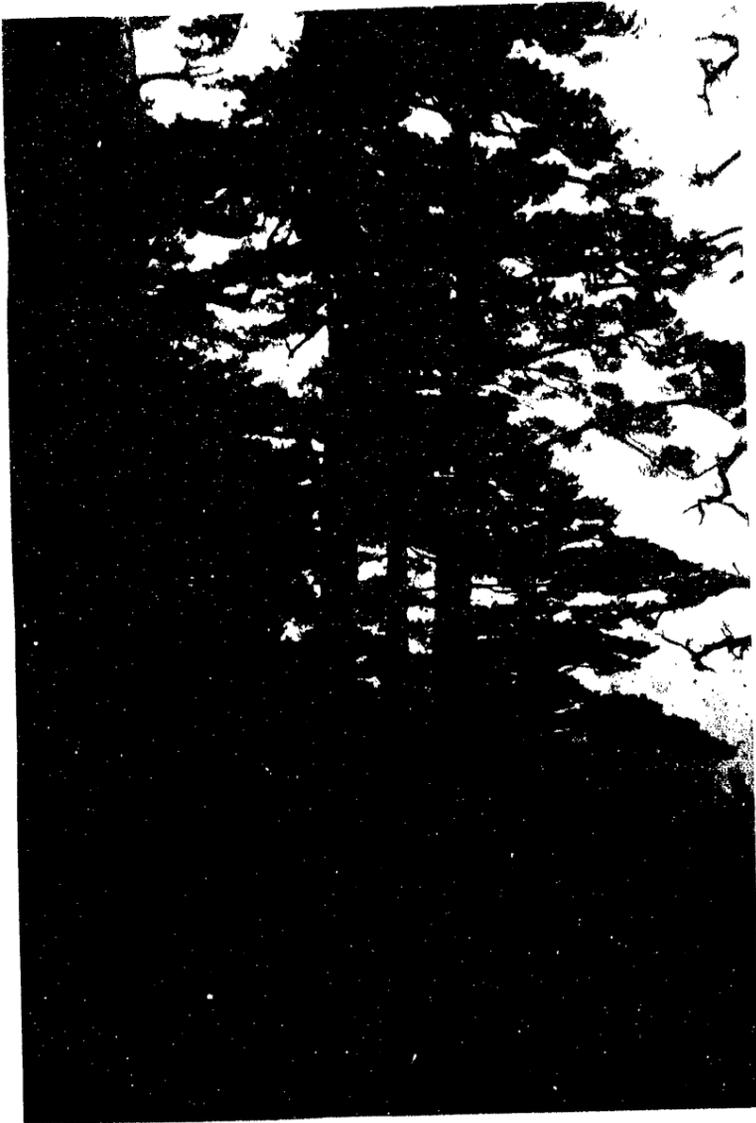
- シシンラン *Lysionotus pauciflorus* Max.
 - ナカハラセキコク *Dendrobium Nakaharai* Hay.
 - セキコク *D. moniliforme* Sw.
 - タイソンクラガリシダ *Drymotaenium Nakaii* Hay.
 - タチシ、ラン *Vittaria suberecta* Hay.
 - イトシ、ラン *V. mediosora* Hay.
 - ムカゴシダ *Monachosorum subdigitatum* Kunze.
 - タカノハツラボシ *Polydium Engleri* Luerss.
 - クスノハシヤシヤンボ *Vaccinium caudatifolium* Hay.
 - オホバコケモモ *V. emarginatum* Hay.
 - チャクセイシヤクナグ *Rhododendron Kawakamii* Hay.
 - タイソンヨウラクカツラ *Lycopodium formosanum* W. Heter.
 - オホノキシノブ *P. Kawakamii* Hay.
 - ビロウドゴセウ *Peperomia diindygulensis* Miq.
-
- Quercus Morii*
 - { *Rhododendron Morii*
 - { *Symplocos arisanensis*.
 - Alnus formosana*
 - { *Pinus formosana*
 - { *Tsuga chinensis*
 - Chamaecyparis formosensis*
 - C. obtusa*
 - Quercus Morii*

- カウザギキシダ *Asplenium davallioides* Hook.
- ウスバクジヤク *A. heterocarpum* Wall.
- ヒメオキナハシダ *A. morisonense* Hay.
- オホトラノオシダ *A. lasiniatum* Don.
- オホミドリトラノオ *A. viridissimum* Hay.
- イハガネサウ *Coniogramme japonica* Diels.
- オホヒトツバ *Cyclophorus grandissimus* Hay.
- ツルシダ *Oleandra Wallichii* Presl.
- ホソバシノブ *Leucostegia parvipinnula* Hay.

第五節 温帯林上部

地高ハ遞加シテ樹種次第ニ變化シ主木ニ「*Taiwania chinensis*」トナリ、其ノ主林トスル所ハ陳有蘭溪上流、阿里山、水山、塔山等ニシテ大ナル純林アリ、樹陰ノ諸樹漸次少ク鬱閉愈々隙ヲ生ズ。

而シテ「ツガ」林ト地域ヲ接スルモノニ、「*ニヒタカアカマツ*」*Pinus taiwanensis*及「*タカネゴエノ*」*Pinus Armandii*等アリ、「*タイワンスギ*」*Taiwania crypomerioides*「*ヒタカタツヒ*」*Picea morris nicola*等ノ純林諸處ニ出現シ、高地帶性、「*イチゴ*」屬「*矢竹類*」、「*イタドリ*」、「*ヘビノボラス*」類、「*ヒラギナ*」類「*Maiana*」*sp.*、「*ナカマド*」類「*カマツカ*」類等群落ヲ形成シ、「*ヒラギ*」*Omanthus*及高地帶性樟科植物（*Alpine Lauracearum plants*）等ノ諸木顯著ニ林間ニ混生シ、「*タイワンビヤクシン*」*Juniperus formosana* 稍々繁茂シ、本帶上部界ニ於テ、「*ニヒタカビヤクシン*」*Juniperus squamata*ト交代シ、「*ニヒクカトマツ*」*Abies kawakamii*モ此附近ヨリ出現ス、「*ウラシロガシ*」*Quercus*



〔*ニヒタカアカタマツ林*〕 (著者)

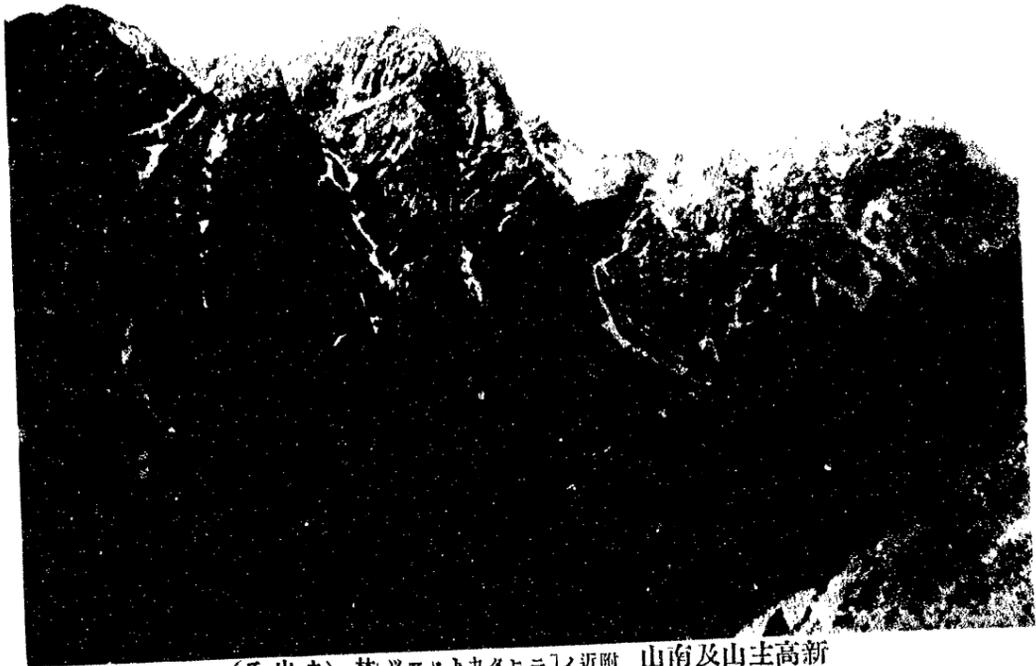
stenophylloides [アリスサンガン] Q. arisanensis [ヨラギガシ] Q. spinosa var. Miyabei 等ハ本帯ニ於ケル代表的樹類
 ニシテ「モリシヤクナグ」Rhododendron Morii 及「マラゲツ」シ亦優勢ナル群落ヲ形成ス。

本帯中ニアリテ稍々主ナル樹林ヲ形成スル樹木左ノ如シ。

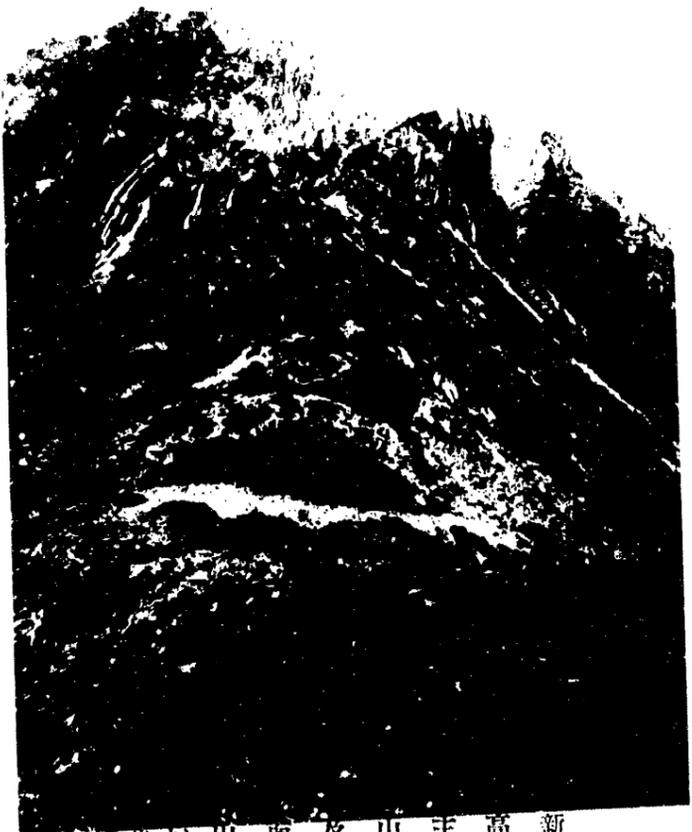
- | | |
|-------------|--|
| タイワンヘビノボラズ | Barberis brevisepala Hay. |
| クロミノヘビノボラズ | B. Kawakamii Hay. |
| ニヒタカヘビノボラズ | B. morisonensis Hay. |
| ニヒタカヒロギナンラン | Mahonia morisonensis Takeda. |
| ヒサカキ | Eurya japonica Thunb. |
| ヒマラヤキフヂ | Stachyurus himalaicus Hook. f. et Th. |
| シヤマシキミ | Skimmia japonica Thunb. |
| ニヒタカツゲ | Hlex parvifolia Hay. |
| ニヒタカカマツカ | Stranvaesia nitakayamensis Hay. |
| サイカチモドキ | Princepia scandens Hay. |
| ランダイナ、カマド | Sorbus mandaiensis Koidz. |
| ニヒタカナ、カマド | S. rufo-ferruginea var. trilocularis (Hayal.) Koidz. |
| シモツゲ | Spiraea japonica L. |
| ニヒタカガヤズミ | Viburnum formosum form. morisonense Nakai. |
| モリシヤクナグ | Rhododendron Morii Hay. |
| アカゲツ、シ | R. rubro-pilosum Hay. |

- ニヒタカハイノキ *Symplocos morriseniicola* Hay.
- ニヒタカカコノキ *Actinodaphne morrisonensis* Hay.
- コニシダス *Notaphoebe Konishii* Hay.
- コバノシロダモ *Tetradenia acuminatissima* Hay.
- ニヒタカシロダモ *T. acuto-trinervia* Hay.
- ニヒタカグミ *Elaeagnus morrisonensis* Hay.
- トウザンヤナギ *Salix transiranensis* Hay.
- タイワンイヌガヤ *Cephalotaxus Wilsoniana* Hay.
- ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Set Z.
- タイワンビヤクシン *Juniperus formosana* Hay.
- ニヒタカタウヒ *Picea morriseniicola* Hay.
- タカネゴエフ *Pinus Armandi* Franch.
- ニヒタカアカマツ *Pinus taiwanensis* Hay.
- タイワントガサハラ *Pseudotsuga Wilsoniana* Hay.
- イチキ *Taxus cuspidata* S. et Z.
- タイワンツグ *Tsuga chinensis* Pritzl.
- ニヒタカヤダケ *Arundinaria nitakayansensis* Hay.
- オヒワケヤダケ *A. olivakensis* Hay.

而シテ本帯ハ温帯林下部界ニヨク類似スルモ葉質堅キカ或ハ刺針ヲ有シ若クハ落葉スルカ或ハ



新高主山及南山 附近ノヒノキマツ林 (丸山氏)



新高主山及南山 (丸山氏)



雪積ノ山北高新ルタミ望リヨ近附關通八路山登新
（氏藤伊上ガツソノイタ）及ツマカアカタヒニノ樹葉針ノ面前

乾燥並ニ寒氣ニ堪へ得ルノ植物ニシテ内容下部界ト相違アリ、故ニ冷靜ニ考察スルトキハ格段ノ相違アルコトヲ發見スベシ。

而シテ前帶草地ノ項ニ於テ述ベシガ如ク本帶ニモ草地アリテ處々ニ沼池ヲ有ス、水ハ清澄ナレトモ魚鼈産セズ、沼底暗褐色ヲ呈スルヲ以テ碧潭ヲ稱ヘズ、夜中大概ネ猪鹿ノ類來リテ水浴ヲナス、沼中「井」*Juncus effusus*ヲ生ジ、水邊アカバナ類ヲ見ルコトアリ。

第六節 寒帶林

熱帶線下ニ横ハル新高山モ高距一萬尺ヲ超ユレバ林帶全ク變ジテ寒帶林樹種ヲ藏スルニ至ル、即チ本島ニ於ケル垂直的森林植物帶ニ於テ絶對高度ノ森林帶ニシテ海拔高一萬尺ノ地表ヨリ一萬三千七十五尺ニ至ル森林帶ノ謂ヒナリ、而シテ前述四帶ノ森林帶トハ即チ熱帶、暖帶、溫帶、寒帶ノ語ニシテ森林植物帶上尙ホ森林植物生育限外ノ語アリ、普通植物學ニテハ即チ草本帶、地衣帶、雪帶、然レトモ本島ニテハ此帶ヲ有セザルヲ以テ本帶ヲ以テ絶對高度ニ於ケル森林帶ト云フ、敢テ不可ナシト云フヲ得ベキナリ、說者或ハ新高山一萬三千七十五尺ノ絶對高度ヲ以テ正ニ此森林植物生育限外帶ナリト云フ宜ナリ、新高主峯ノ絶對高度ニ於テハ既ニ僅カノ草本以外ニ樹木ノ生育スルモノヲ見ズト、然レトモ該山ハ西南北ノ三面ハ急峻ナル斷崖ヲ有シ峯頭僅カノ面積ヲ有シテ聳立甚シク、地質ハ粘板、砂岩ノ交層、風化ノ年代古クシテ殆ンド凝集力ヲ失シ、重力ニ對スル抵抗力ヲ有セズ、故ニ一度地變、雷雨ノ襲來ニ遭ヘバ爲メニ岩角崩壞シテ以テ地表ヲ失フヲ常トス、試ミニヨク考察スルトキハ山嶺稜線稍々尖裸ナラザルノ地ニハ矮小ナガラモ「ニヒタカシヤク」ナゲ「Rhododendron pseudo-chrysanthum」ニヒタカト「マツ」*Abies kawakamii*「ニヒタカビヤクシム」*Juniperus squamata*「ニヒタカヘビ」ノボラズ「*Berberis morrissonicola*」及「ヤナ

ギノ一種 *Ginkgo* 完全ニ成育スルヲ目撃スルニ非ズヤ、故ニ四季風力強キト相俟チテ樹林ノ生育ヲ害スルニアリ、絶對生育セザルニ非ザルコト明瞭ナリ、然レバ前説ハ皮相ノ觀ニ終ラン。

更ニ之レヲ述ブレバ温帶林上部界ニ於テハ大概ネ喬木森林帶ノ諸群集團シテ茲ニ固有ノ森林帶ヲ形成セルコトハ既ニ述ベタルガ如シ、反之本帶ニ於テハ喬木帶トシテハ僅カニ「ニヒタカトマツ」ノ偉大ナル純林ト谿間ニ僅カニ存在スル「ニヒタカビヤクシン」*Juniperus squamata* ノ一種ニ過ギズ、而シテ一萬二千尺附近ニ至レバ喬木林ハ一時ニ階段的ニ灌木林ニ變ジ、茲ニ異常ノ群落ヲ形成ス、

「ニヒタカトマツ」林下若クハ林外「ニヒタカヤダケ」*Arundinaria owakensis* ノ密生スル群落頗ル多シ、代表的森林トシテハ莖濃、楠、梓、仙、溪、各源頭ヲ推シ、新高西山、前山亦前者ニ劣ラズ。

一、灌木帶

新高山麓ニ於ケル一萬二千尺以上ノ植物景觀ハ喬木帶ノ鬱閉急ニ破レテ廣濶ナル荒野ニ出デシ觀アリ、灌木帶ハ鬱積シテ全ク地面ヲ覆ヒ、隙ヲ洩サス密生シ、主トシテ「ニヒタカビヤクシン」*ニヒタカビヤクシン*ニ就テハ多少研究スベキ餘地アルモノ、如シ、即チ山頂附近ニ生ズル灌木ヲ以テ山背中心ニ生ズル喬木ト別種ハナスモノト、予ヲ以テ言ハシムレバ矢張同一種ナルコトヲ信ズルモノナリ、及「ニヒタカシヤクナダ」ノ群落顯著ニ發達シ、「ニヒタカヘビ」ノボラズ、亦少ナカラズ、而シテ右灌木トシテノ諸種ノ外喬木タル「ニヒタカトマツ」矮少トナリ群中ニ混淆シ、「ニヒタカイバラ」*Rosa morisonensis*、ク繁茂シ、樹下ニヒタカフウロ *Geranium uniflorum*、ランダイオトギリ *Hypericum randaiense*、ニヒタカアヅマギク *Erigeron morisonensis*、シトメギンバイ *Potentilla leucnosta* var. *morisonicola*、タイフンコケリンダウ *Gentiana humilis*、マテヤマキンバイ *Sibaldia procumbens*、ノダマギク *Anaphalis Negasawai*、ニヒタカマツムシサウ



(氏井中) 林帶寒ト座山高新ルタミ望リヨ脈山央中



(氏井中)「ニヒタカシヤクナダ」種「ニヒタカイバラ」種類木灌ルケ於ニ頂山

Sedisa laevis 等妍ヲ競ヒ或ハ可憐ナル容姿ヲ高嶺ノ野ニ布ク。

二 濕潤植物群落

前節ノ草生地ノ如ク本帯ニモ處々ニ草生地アリテ多少ノ濕地ヲ有シ、往々水ヲ湛フルコトアリ、大概ネキ「*Juncus effusus*」ニヒタカイトキ「*Juncus nodosus*」ノ類繁茂シ、溪間ニヒタカアカバナ「*Epilobium alpinum*」ニヒタカクリンサウ「*Primula Miyabei*」ウメバチサウ「*Parnassia palustris*」タイランチャルメルサウ「*Mitella japonica* var. *formosana*」ノ類繁茂ス。

三 山頂ノ植物群落

茲ニ云フ處ノ山頂トハ極メテ狹義ノ山頂ニシテ少クトモ一萬二千尺以上ノ裸出セル峯頭ヲ指示ス、而シテ此等此ノ如キ山頂ニ群落ヲ形成スル處ノ植物ハ乾生植物群落ニ屬スル乾生植物群落並ニ岩生植物群落、砂地植物群落等ノ交錯セルモノニシテ乾生群落ニハ「*Juniperus*」類乃至ハ景天科植物繁茂シ、岩生群落ニハ「*Cotyledon*」*Anaphalis Nagasawai*「*Cerastium trigynum* var. *morrisii*」*Artemisia nitakayamensis* 等多ク、砂地群落ニハ「*Sibaldia procumbens*」*タカアザミ*「*Crinum Kawakamii*」等優勢ナリ、而シテ其ノ地高ノ順位ハ砂地最モ下位ニアリテ岩生之レニ亞ギ乾生群落全ク最高位ニアリ、顯著ナルモノヲ列記スレズ左ノ如シ。

ニヒタカヤダケ *Arundinaria nitakayamensis* Hay.

オヒワケヤダケ *A. oiwakensis* Hay.

ニヒタカシヤクナゲ *Rhododendron pseudochrysanthum* Hay.

ニヒタカビヤクシン *Juniperus squamata* Lambert.

ニヒタカトママン *Abies Kawakamii* Ito.

- ニヒタカヘビノボラズ *Berberis morrisonicola* Hay.
 ニヒタカアザミ *Cirsium Kawakamii* Hay.
 ニヒタカマツムシサツ *Scabiosa lacerifolia* Hay.
 コダマギク *Anaphalis Nagasawai* Hay.
 ニシツチサツ *Cerastium trigynum* Vill. var. *morrisonense* Hay.
 フクトメキンバイ *Potentilla leucnota* Don. var. *morrisonicola* Hay.
 ニトベヨモギ *Artemisia oligocarpa* Hay.
 タテヤマキンバイ *Sibaldia procumbens* L.
 ニヒタカフウロ *Geranium uniflorum* Hay.
 ゴトウサウ *Artemisia nitakayanensis* Hay.
 タイソンコケリンダウ *Geniana humilis* Stev.
 ニヒタカクハガタ *Veronica morrisonicola* Hay.
 ランダイオトギリ *Hypericum randaiense* Hay.
 タイソンシロヘビイチゴ *Fragaria Hayatae* Makino.
 キ *Juncus effusus* L.
 ニヒタカイトキ *J. modicus* N.E.Br.
 イハヒサウ *Brachypodium Kawakamii* Hay.
 ニヒタカシノウド *Angelica morrisonicola* Hay.
 ニヒタカアヅマギク *Erigeron morrisonensis* Hay.

- ニヒタカシモツケ *Spiraea morris-nicola* Hay.
 ニヒタカイバラ *Rosa morrisonensis* Hay.
 ニヒタカモリイバラ *R. transmorrisonensis* Hay.
 ニヒタカシヤジン *Adenophora morrisonensis* Hay.
 ナガサハヅル *Oenatis lasianda* Max. var. *Nagasawai* Hay.
 ニヒタカイチャク *Pyrola morrisonensis* Hay.
 ニヒタカマンネングサ *Sedum morrisonense* Hay.
 タマザキマンネングサ *S. subcapitatum* Hay.
 タイワンスムメビエ *Luzula spicata* DC.
 イトハナビランツキ *Bolbosyhis capillaris* Kunth var. *trifida* Clarke.
 タイソンヤマカモヂグサ *Brachypodium formosanum* Hay.
 ニヒタカコスカグサ *Agrostis transmorrisonensis* Hay.
 ニヒタカスカボ *A. morrisonensis* Hay.
 ニヒタカタウバナ *Calamintha laxiflora* Hay.
 等ニシテ新高主山及山頂稜線岩角上ニ自生スルモノハ左ノ如シ。
 イハヒサウ *Brachypodium Kawakamii* Hay.
 ニヒタカトヤマツ *Abies Kawakamii* (Hay) T. Ito.
 ニヒタカビヤクシン *Juniperus squamata* Lamberk.
 ニヒタカシヤクナゲ *Rhododendron pseudochrysanthum* Hay.

- ニヒタカヘビノボラズ *Berberis morris-nicola* Hay.
- ニヒタカマンネングサ *Sedum morrissonense* Hay.
- ニヒタカハタザホ *Arabis alpina* L.
- タテヤマキンバイ *Sibbaldia procumbens* L.
- ゴトウサウ *Artemia nitakayamensis* Hay.
- ニトヘヨモギ *A. oligocarpa* Hay.
- カハカミウスユキ *Leontopodium microphyllum* Hay.
- ニヒタカシラタマ *Gaultheria Merrillianum* Hay.
- ニヒタカヤナギ *Salix* sp.
- ニヒタカコスカグサ *Agrostis transmorisonensis* Hay.

而シテ此等ノ草木ノ中「ニヒタカシヤクナグ」ニヒタカビヤクシンノ外ハ僅カニ疎生スルコトヲ知ラザルベカラズ。

因ニ記サン、僅カニ高度ニ於テ三百餘尺ノ高差ヲ有スル新高北山ニ於テハ山頂裸出セザル關係上山頂迄灌木類密生ス。

第四章 結 論

第一節 海拔高ニヨル樹種ノ變化

予ハ前章ニ於テ主ナル樹種ノ分布並ニ生態ニ就テ之レヲ叙述セリ、然レトモ之レガ内容ヲ知悉ス

ル能ハザルヲ以テ稍々複雑スルノ觀アレトモ本山彙植物分布ノ狀態並ニ之レガ變化ノ實狀ヲ詳ニ巧究スルモノ、爲メニ山脚平地ヨリ一千尺宛ノ高度ヲ區分シテ之レガ種數ヲ調査シ、左表ノ如キ結果ヲ得タリ。

高 度	種數
0.—1,000	106
1,000—2,000	106
2,000—3,000	165
3,000—4,000	156
4,000—5,000	153
5,000—6,000	121
6,000—7,000	115
7,000—8,000	116
8,000—9,000	57
9,000—10,000	30
10,000—11,000	21
11,000—12,000	17
12,000—13,000	7
13,000—	3

本表登載種數ハ種並ニ亞種變種モ俱宜一種トシテ計算セリ、内容ハ後部樹種總覽ニ就テ參照スベシ。

依是觀此ルトキハ二千尺以下ノ暑熱ノ地ハ樹數比較的少ク、自然ノ狀態ニヨルカ或ハ人工的ニ減少セルヤ(人跡ニ接近セルノ結果開墾地多ク其大部分ハ耕地トナレルニヨルヤ)當分結論ハ他日ニ讓リタシ之レ少クトモ研究ニ値スル所ニシテ二千尺乃至五千尺ニ至リテハ樹種最モ豊富ニシテ全帶中其比ヲ見ズ、五千尺乃至八千尺ノ圈内ハ氣温漸ヤク低下スルモ尙ホ熱地ト其差ヲ見ズ、漸ヤク八千尺ノ圏線ヲ突破スルニ及ビテ急ニ劇減シ、一萬尺ニ至リテ更ニ減少シ、一萬二千尺ヲ踰ユルニ及ビテ僅カニ十七種ヲ算シ、一萬三千尺以上ノ絶巔ニ至リテハ驚クベシ、三種ノミノ生存スルモノアルヲ。

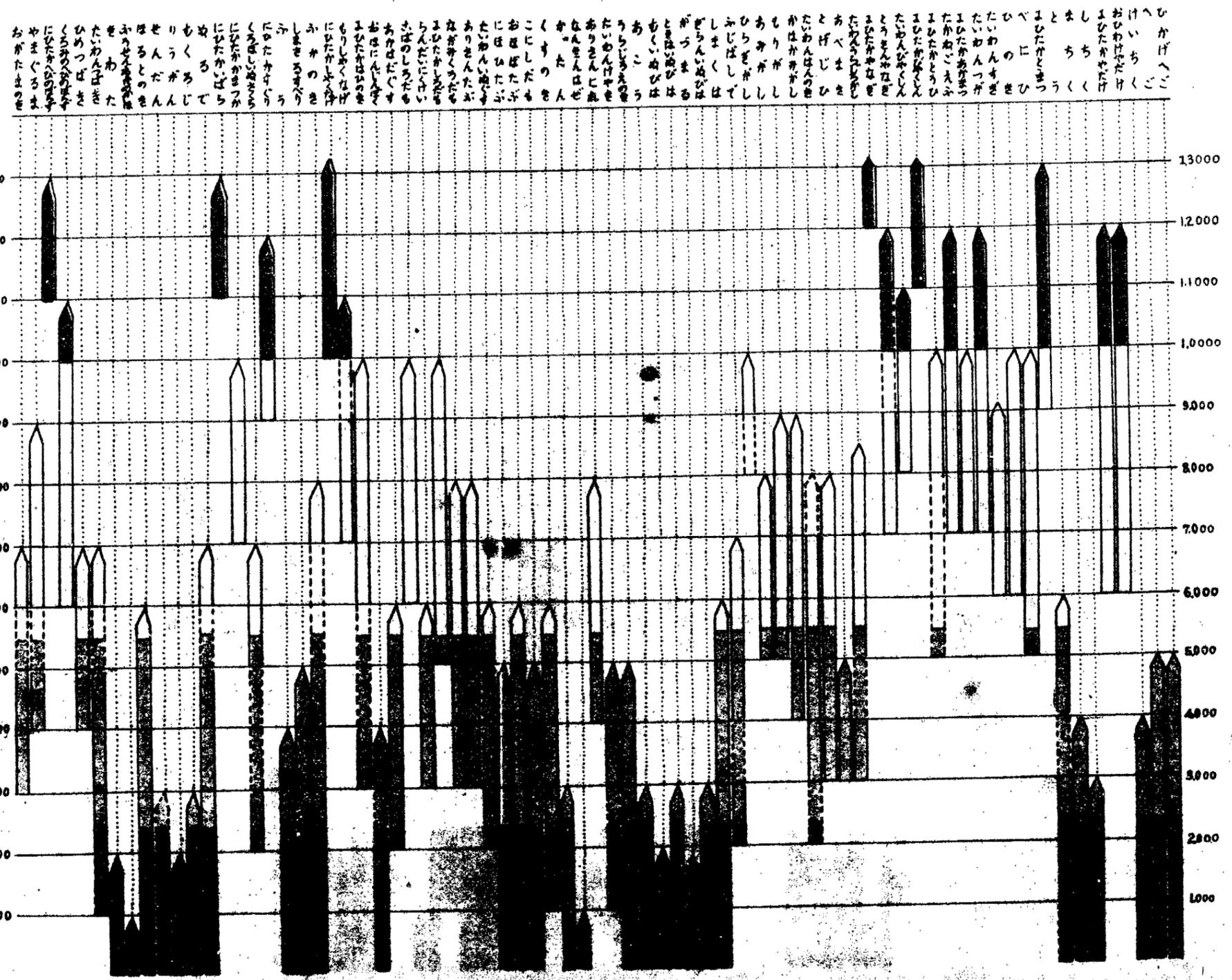
此變遷ノ狀ヤ何ヲ意味スルモノニヤ、畢竟八千尺以下ニアリテハ氣候温暖ニシテ雨量潤澤ナルノ結果諸種ノ植物ノ自生ニ適シ、各種ノ植物ヲシテ自由ニ繁茂セシメ得ベキノ要素ヲ備ヘタレバナリト、而シテ八千尺ヲ超ユルノ地樹木決シテ乏シカラズ、唯樹種ノ減少セシノミナリト、然ラバ寒地ハ熱地ニ比シ比較的或特種ノ條件ヲ具備スルモノニ非ルヨリカ之レガ生育ニ適セサル事ヲ證左スルモノタラズンバアラズ、尙ホ人爲ニヨリテ森林ヲ破壊セララル、コト下部ハ上部ニ比シ比較的多キニ係

ハラズ、氣候風土ノ關係上前者ハ後者ヨリモ恢復速カナル結果モ逸スベカラザル理由ノ一タラザルベカラズ。

更ニ予ハ各帶ヨリ主要樹種數樹ヲ撰定シ、其生育圈ヲ示シ、恐足ヲ加エントス、(別圖參照)

而シテ從來ノ區別ニ從ヘバ不相變熱帶林アリ、暖帶林アリ、溫帶林並ニ寒帶林ヲ有スルコト疑ヒヲ容レズ、然レトモ茲ニ最モ吾人ノ注意ヲ惹起ス、ルトコロノモノハ各帶ニ於ケル代表的樹種ノ意外ニモ從來ノ例ヲ破リ、往々不規則的ニ餘リニ高度ニ進ミ、相錯綜シテ稍々其歸一スル處ヲ知ラザルモノ、如シ、例之木生羊齒類ノ五千尺圈ニ肉迫シ、藤類ノ六千尺ヲ正ニ凌駕セントスルガ如キ、ベニヒ、ヒノキ類ノ一萬尺圈ニ各種イヌビハ類ノ三千尺圈ニ近ク、尙ホ旺盛ナル發育ヲ遂ゲ居ルガ如キ、元ヨリ其地勢、山岳向走溪流ノ深淺等大ナル原因アルベケレトモ、異常ノ例、勘ナカラズ、而シテ之レガ詳細ナル議論ニ至リテハ、勘クトモ他日ニ讓ルヲ適當ト認ム、然レトモ予ハ唯本帶ノミヲ以テ本島ニ於ケル四帶分布ノ圈線ヲ決定スルハ過チヲ後日ニ遺スノ譏リヲ受ケザルベカラザルヲ以テ、年來ノ調査研究ニ係ル、臺灣森林植物帶論ノ完結ヲ俟チテ之レニ關スル一切ノ意見ヲ發表センコトヲ期ス、唯夫レ本欄ニ於テ多少予トシテ訂正セルハ、熱帶圈ヲ海拔二千五百尺トシ、暖帶圈ヲ五千五百尺トナセルナリ、即チ從來ノ意見ニ從ヘバ中部榕樹帶ヲシテ一千五百尺トセルハ少クトモ榕樹類生育ノ旺盛圈觀察ノ予ト多少異ナルニヨルベケンカ、而シテ更ニ第二圈タル暖帶林ニ於テモ其樹林ヲ形成スル要素ニ於テ少クトモ其基本樹種ノ觀察ニ於テ其異ナル處アリ、殊ニ其各帶接觸ノ隣接區即チ緩衝地帶ニ於テハ其樹種ノ混淆到底溫暖兩地帶ニ於テ吾人ノ見ルトコロト餘リニ相違セルモノアルコトヲ發見スルニ苦マズ、予ハ此意味ニ於テ他日ヲ期シテ巧查研究ヲ重ネ更ニ世ニ見ヘンコトヲ期ス、故ニ本論ニ於テハ從來ノ例ニ倣ヒ、溫帶林下部八千尺以下、同上部一萬尺以下、一萬尺以上ヲ以テ寒帶林ト定メ、之

ハ其樹種ノ混淆到底温暖兩地帯ニ於テ吾人ノ見ルトコロト餘リニ相違セルモノアルコトヲ發見ス
 ルニ苦マズ予ハ此意味ニ於テ他日ヲ期シテ巧査研究ヲ重ネ更ニ世ニ見ヘンコトヲ期ス故ニ本論ニ
 於テハ從來ノ例ニ倣ヒ温帶林下部八千尺以下同上部一萬尺以下一萬尺以上ヲ以テ寒帶林ト定メ之



主要樹木垂直的分布圖

圖中點線ハ想像線 赤色ハ熱帶林 淡紅色ハ暖帶林 青色ハ温帶林
 深綠色ハ寒帶林 數字ハ海抜高 單位尺

裏面白紙

レニヨリテ全森林帯ヲ通論セリ。

之レヲ要スルニ本論ニ引用セル垂直的の四帯ノ高度左ノ如シ。

- | | | |
|---------|-------|----|
| 一、熱帶林 | 二千五百尺 | 以下 |
| 二、暖帶林 | 五千五百尺 | 以下 |
| 三、溫帶林下部 | 八千尺 | 以下 |
| 四、溫帶林上部 | 一萬尺 | 以下 |
| 五、寒帶林 | 一萬尺 | 以上 |

第二節 各帯ノ比較及四圍トノ關係

更ニ之レヲ各帯ニ就テ比較センニ、本節ニ引用セル高度ハ熱帶林ヲ便宜上三千尺迄トシ、暖帶林ヲ三千尺乃至六千尺、溫帶林下部ヲ六千尺乃至八千尺、溫帶林上部ヲ八千尺乃至一萬尺、寒帶林ヲ一萬尺以上トシテ全數ニ涉リテ之レガ要素及比ヲ算定セルニ左表ノ如キ結果ヲ得タリ、元ヨリ本表ハ四圍トノ關係ニ重キヲ置キタル結果左記主要ノ土地ノミヲ掲出シ、比較的疎縁ノモノハ一括シテ其他ノ分布地トナセリ、他ニ意味アルニアラズ。

熱帯林 (0-3,000) 種数トノ百分比	各帯ノ種数	全數 百分比 七十七ニ對	固有種	日本内地										其他
				樺太、千島、北海道	滿洲、朝鮮、北支那	琉球、小笠原	馬來半島	交趾支那	支那中南部	印度、錫蘭	ヒマラヤ	其他		
242.50.8%	76	31.4	6	23	45	79	81	46	132	57	44	27	熱帯ヲフリカ、西南ヲシニア、大熱帯、太平洋及印度洋、全熱帯及亞熱帯5.	
暖帯林 (3,000-6,000) 同上	272.57.0%	46.3	7	32	52	62	51	29	105	34	30	7		ヒマラヤ、全熱帯及亞熱帯、太平洋及印度洋、全熱帯及亞熱帯1.
温帯林下部 (6,000-8,000) 同上	160.33.5%	109	5	12	25	19	14	4	23	8	11	2	歐洲	
温帯林上部 (8,000-10,000) 同上	67.14.0%	49	2	4	8	3	6	1	10	4	4	1		歐洲及北アフリカ共通種
寒帯林 (10,000-13,000) 同上	27.5.6%	20	2	1	3	0	1	0	5	0	0	1	歐洲及北アフリカ共通種	

本表ニヨリテ各帯ニ包擁スル樹種並ニ樹數ヲ考察スルトキハ先ヅ暖帯林ノ二百七十二種最多ニシテ全數四百七十七種ニ對シ五十七パーセントノ多數ヲ占メ、熱帯林温帯林下部同上部、寒帯林ヘノ順序トシテ減少ス。

更ニ林帯ヲ構成スル要素ヲ考察センニ熱帯林ニアリハ支那中南部地方ノ區系ト最モ類似シ、實ニ本帯種數ノ百三十二種五十四パーセントヲ占メ、馬來半島及馬來多島海系ノ八十一種、三十三パーセントヲ第二位トシ、琉球小笠原帯ノ七十九種三十二パーセントヲ第三位トナシ、固有種ノ七十六種三十一パーセントヲ第四位トス、而シテ印度、錫蘭帯ノ五十七種二十三パーセント、日本内地帯ノ四十五種、ヒマラヤ帯ノ四十四種各十八パーセント、滿洲、朝鮮、北支那帯ノ二十三種九パーセント、樺太千島、北海道帯ノ六種二パーセントノ順序ニヨリテ其要素ヲ遞減ス。

暖帯林ニ就テハ固有種百二十六種、四十六パーセントヲ首位トシ、支那中南部帯ノ百五種三十八パーセント之レニ亞ギ、琉球、小笠原帯六十二種、二十二パーセント、日本内地帯五十二種、十九パーセント、印度、錫蘭帯三十四種、十二パーセント、滿洲、朝鮮、北支那帯三十二種、ヒマラヤ帯三十種ノ各十一パーセント、交趾支那帯二十九種、十パーセントノ順序ニ遞減シ、千島樺太、北海道ニ至リテハ僅カニ七種ニシテ最モ縁遠シ。

温帯林下部ニテハ全帯種數百六十種中固有種ノ百九種ヲ首位トシ、全數ノ實ニ六十八パーセントヲ包有シ、日本内地帯ノ二十五種十五パーセント之レニ亞ギ、支那中南部帯ノ二十三種十四パーセントヲ第三位トナシ、琉球小笠原帯ノ十九種十一パーセント、馬來半島及馬來多島海帯ノ十四種八パーセント、滿洲、朝鮮、北支那帯十二種七パーセント、ヒマラヤ帯十一種六パーセント等ニシテ樺太、千島、北海道帯ノ五種三パーセント之レニ亞グ。

溫帶林上部ニアリテハ之レ亦固有種最首位ニアリテ全種六十七種中四十九種七十三パーセントノ多數ヲ占ム、而シテ其多數ナルモノヨリ之レヲ列記スレバ。

支那中南部	一〇種	一四・九%
日本内地	八	一一・九
馬來半島及多島海	六	八・九
印度錫蘭及ヒマラヤ	各四	五・九
滿洲朝鮮北支那	二	二・九
樺太、千島、北海道	一	一・四
其他ノ		

ノ順序トナル。

最後ノ寒帶林ニ至リテハ全數二十七種ノ内二十種、七十四パーセントノ固有種アリテ僅カニ支那中南部帶五種十八パーセント、日本内地帶三種十一パーセント、樺太千島北海道帶ノ二種七パーセント、北支那朝鮮、滿洲帶、馬來半島及多島海帶ノ各一種三パーセント及歐洲及北アフリカ共通種ノ一種ヲ包擁セルニ過ギズ。

之レヲ要スルニ本山彙ニ於テモ他帶ノソレト同ジク郷土種ノ濃淡ニヨリテ各帶ノ特徵ニ多少ノ相違ヲ發見セラルベク、換言スレバ水平的分布區系ノ特徵ニヨリテ其林相ニ變化ヲ及ボスベク、其ノ量ノ多寡ハ最モ林相ニ於ケル必要ナル要素ナリト知ラザルベカラズ例之本帶熱帶林ニ於ケル要素ハ支那中南部地方ノ多數ノ熱帶樹種ニヨリテ構成セラル、ヲ以テ該帶樹種最モ濃厚ニ、馬來半島及多島海系、琉球小笠原諸島系之レニ次グヲ以テ此等諸地ノ森林トハ極メテ近似ノ樹林ヲ形成スルモノト知ラルベキナリ。

而シテ殘餘ノ要素之レニ配セラル、ヲ以テ本島ニハ本島特殊ノ熱帶林アルコトハ勿論ナリトス、他林帶ニアリテモ理論ニ變化ナク、唯其要素比ノ多少ニヨリテ林相ニ變化アリ、以下要點ヲ摘録シ各帶ノ特徵ヲ述ベシトス。

暖帶林ニアリテハ固有種ノ多數ナルハ本島在來種ノ健實ナル發達ニヨリ、特種ノ樹林ヲ形成スル事ハ勿論ナリト雖モ尙ホ支那中南部、琉球小笠原帶、日本内地帶、印度錫蘭帶、滿洲、朝鮮北支那帶、ヒマラヤ帶等ノ植物ニヨリテ組成セラル、之レ該地帶ニ於ケル暖帶林要素若クハ暖帶林近似ノ熱帶樹種ナルコトヲ想像スルニ難カラザルベシ。

茲ニ一言シタキハ交趾支那系統ナリトス、由來該地帶系統ハ南支那海南島及香港等ノ植物ニ頗ル類似シ、乃至ハ同一樹種ヲ多數包藏セラルコトハ別表樹種總覽毛茸科以下荳科參照識者間ノ多年ノ懸案ナルモ國土廣大ニシテ調査困難ナル爲メ、僅カニ J. De Loureiro 及 M. H. Leconte 氏等以外ニ調査研究セルモノアルヲ聞カズ、依テ以テ僅少ナル兩氏等ノ既刊著書ニヨリテ其幾分ノ一ヲ知ルニ過ギズ、然レトモ其寡少ナル調査結果ヨリスルトキハ恐ラクハ支那中南部ニ次グ本島近縁ノ土地ニ非ルナキカラ想ハシムルモノアリ、他日ノ調査研究ニヨリテ此類縁ノ濃淡ハ決定セラルベキモノナリトス。

溫帶林下部ニアリテハ固有種ノ増加著シク遞加シ、彼ノ支那中南部乃至ハ琉球小笠原、印度錫蘭帶等ノ漸次減少シ、反之日本内地、朝鮮、滿洲北支那帶等ノ寒冷地帶等ノ比較的輕減セザルハ最モ注意スベキ事項ニシテ、溫帶林上部帶ニ至リテハ此特徵益々加ハリ、剩ヘ支那中南部帶溫帶林ノ樹種漸ヤク増加シ、茲ニ林相ノ景觀及内容ハ一變シ、寒帶林ニ入ルニ及ビ更ニ固有種ノ發達夥シク、全數ノ七十四パーセントニ及ビ、支那中南部帶、日本内地帶、樺太、千島、北海道帶、滿洲朝鮮、北支那帶、馬來半島及多島海帶等ノ順序ニ要素ヲ遞減シ、琉球、小笠原、交趾支那、印度錫蘭、ヒマラヤ帶ハ遂ニ跡ヲ絶ツニ至ル。

以上諸帶ヲ簡單ニ要括スレバ本山彙ニ於ケル森林帶ハ四圍ノ國土ヲ構成スル森林帶ニ相似セルハ勿論ナリト雖モ殊ニ支那中南部帶ヲ主素トシテ熱帶林ハ前記諸地ノ熱帶林ニ類縁近ク以下暖帶、温帶林下部温帶林上部寒帶林ト進ムニ從ヒ前記諸地ニ於ケル水平的森林要素ニヨリテ占據セラレ、モノト見ルヲ至當トス。

特ニ注意スベキハ固有種ト支那中南部帶ノ多數ト日本内地帶ノ多數ニヨリテ人煙最モ稀レナル寒帶林要素ヲ構成スルニアリ。

第三節 總括

以上諸節ニ於テ之レガ水平、垂直的分布ノ狀態ヲ叙述セルヲ以テ予ハ本節ニ於テハ本山彙森林帶全般ニ涉リテ之レガ成立ヲ解剖シ、各要素ノ素因ヲ求メントス。先ツ本山彙ニ於ケル總樹種ニ就テ分類學的要素ヲ示セバ左ノ如シ。

隱花植物	計	單子葉門	裸子植物	無瓣花類	合瓣花類	離瓣花類	科	屬	種
1	65	6	1	11	16	31			
2	239	15	13	55	42	114			
2	475	23	18	127	104	203			

合計	計
66	1
241	2
477	2

之レヲ更ニ各分科ニ配置シ種數ノ多キモノヨリ排列スレバ左ノ如シ、

科名	種數	屬數	科名	種數	屬數
薔薇科	44	11	禾本科	12	6
樟科	35	11	芸香科	11	9
蕁麻科	29	14	虎耳草科	11	5
厚皮香科	21	10	忍冬科	11	3
大戟科	21	12	木犀科	9	4
殼斗科	20	6	小蘗科	8	4
松柏科	18	13	衛矛科	8	4
齊墩果科	17	3	紫金牛科	7	3
無患樹科	14	6	槲寄生科	7	3
茜草科	14	11	木蘭科	6	5
荳科	13	10	野牡丹科	6	6
五加科	12	9	冬青科	5	1
石南科	12	3	漆樹科	5	3
馬鞭草科	12	3	越橘科	5	1

新高山彙森林植物論

紫草科	5																			
錦葵科	4																			
菩提樹科	4																			
山茱萸科	4																			
瑞香科	4																			
楊柳科	4																			
棕櫚科	4																			
桃金娘科	3																			
鼠李科	3																			
清風藤科	3																			
葡萄科	3																			
柿樹科	3																			
夾竹桃科																				3
胡頹子科																				3
薑科																				3
椅科																				2
梧桐科																				2
海桐科																				2
金縷梅科																				2
茄科																				2
胡桃科																				2
百合科																				2
杪櫨科																				2

七〇

等ニシテ一屬一種ヲ有スルハ下ノ如シ。

番荔枝科、白花菜科、金虎尾科、黃棟樹科、棟科、毒空木科、千屈菜科、菊科、馬錢科、玄參科、紫葳科、蓼科、山茱萸科、露兜樹科、天南星科、

而シテ更ニ之レヲ水平、垂直的分布ニヨリテ表示スレバ次ノ如シ、

新高山彙樹種總覽

垂直的分布 (単位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Magnoliaceae. 木蘭科													
<i>Illicium Anisatum</i> L.	シキミ								X				
<i>I. arborescens</i> Hay.	アカバナシキミ				X	X							
<i>Kadsura japonica</i> L.	サネカヅラ				X	X							
<i>Michelia compressa</i> Max.	オガタマンノキ				X	X		X					
<i>Schizandra arisanensis</i> Hay.	アリスンマツブサ					X	X						
<i>Trochodendron aralioides</i> S. et Z.	ヤマグルマ				X			X	X				
Anonaceae. 蕃荔枝科													
<i>Melodorum Oldhami</i> Hemsl.	ツルリウガン			X									
Berberideae. 小檗科													
<i>Akebia quinata</i> , var. <i>longeracemosa</i> Rehder & Wilson.	ホヅキアケビ				X								
<i>Berberis breviseptala</i> Hay.	タイロンヘビノホラズ									X	X	X	
<i>B. Kawakamii</i> Hay.	クロミノヘビノホラズ							X		X	X		
<i>B. mingetsensis</i> Hay.	ウスバヘビノホラズ							X	X				
<i>B. morrisonensis</i> Hay.	ニホタカヘビノホラズ												X
<i>Mahonia lomariifolia</i> Takeda.	アリスンロウキナンテン					X	X	X					
<i>M. morrisonensis</i> Takeda.	モリソンロウキナンテン							X	X				
<i>Stauntonia hexaphylla</i> DC.	トキハアケビ							X					
Capparidaceae. 白花菜科													
<i>Crataeva religiosa</i> Forsk.	ギヨボク	X											
Bixineae. 楛科													
<i>Casearia Merrillii</i> Hay.	イヌカンコノキ	X	X	X									
<i>Idesia polycarpa</i> Max.	イビギ				X	X							
Pittosporaceae. 海桐科													
<i>Pittosporum daphniphyloides</i> Hay.	ヤドリオホバトベラ							X					
<i>P. oligocarpum</i> Hay.	トガリバトベラ				X	X	X	X	X				
Ternstroemiaceae. 厚皮香料													
<i>Actinidia arisanensis</i> Hay.	アリスンサルナシ							X	X				
<i>A. chinensis</i> Planch.	オホバマタタビ							X	X				
<i>Adinandra formosana</i> Hay.	ナガエサカキ				X	X	X	X					
<i>A. laeostyla</i> Hay.	アリスンサカキ				X	X	X	X	X				
<i>Camellia brevistyla</i> (Hay.) Mak.	ミヤマサランクワ							X	X				
<i>Camellia oleifera</i> Abel.	オホシマサザンクワ				X	X							
<i>C. hozanensis</i> Hay.	タイロンヤマツバキ				X	X							
<i>C. parvifolia</i> (Hay.) Mak.	タイロンホメサランクワ							X	X				
<i>C. salicifolia</i> Champ.	ヤナギバサランクワ			X	X			X					

2. 4. 9. 5 8. 10. 5. 3. 2 2

水平的分布

(Xハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
(△ハ属ノ分布ニ同上)

12-13	13-	固有種	樺太	千島	北海道	北支那	滿支那	日本内地	琉球	小笠原	馬米島	馬米島	海支那	交趾支那	支那南部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	属ノ分布	
								X	X	X	△	△	△	X	△	△	△	△		北アメリカ	
		X					X	X	X	△	△	△	△	△	△	△	△	△		北アメリカ、南アメリカ	
		X	△	△			X	X			△	△	△	△	△	△	△	△		北アメリカ、南アメリカ	
		X						X	X												熱帯アフリカ、澳洲
		X						X	X						△	△	△	△			南アフリカ
	X	X																			
		X	△					△						△				△			熱帯アフリカ、アメリカ
		X									X	X	X	X	X	X	X	X	△		熱帯アフリカ、アメリカ (オーストラリア、太平洋諸島)
		X						X	X	X					X						熱帯アフリカ、マダガスカル (澳洲、太平洋)
		X										△	△	△	△	△	△	△			熱帯アフリカ
		X																			熱帯及東アジア
		X						△	△						X	△	△				
		X																			
		X																			
		X													X						

1

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
<i>C. tenuiflora</i> (Hay.) Mak.	サバシロモドキ			×	×	×							
<i>Eurya arisanensis</i> Hay.	ナガバヒサカキ						×	×	×				
<i>E. glaberrima</i> Hay.	アツバヒサカキ							×	×				
<i>E. japonica</i> Thunb.	ヒサカキ	×		×							×		
<i>E. leptophylla</i> Hay.	ニヒタカヒサカキ					×	?	?	?				
<i>E. strigillosa</i> Hay.	ミヤマヒサカキ					×							
<i>Freziera ochnacea</i> Nakai	サカキ							×					
<i>Gordonia axillaris</i> (Don.) Szysz.	ダイワソバキ			×	×	×		×					
<i>Schinus confertiflora</i> Merrill.	ロメツバキ					×	×	×					
<i>Stachyurus himalaicus</i> Hook. f. et Th.	ヒマラキフダ			×		×	×	×					
<i>Saurauja tristyla</i> DC. var. Oldhami F. et G.	タカサゴシラタマ		×	×	×								
<i>Ternstroemia japonica</i> Thunb.	モクコク					×							
Malvaceae. 錦葵科													
<i>Bombax malabaricum</i> DC.	キヲダ	×	×										
<i>Hibiscus mutabilis</i> L.	フヨウ	×		×		×	×	×					
<i>Sida acuta</i> Burn.	ホソバキンゴシクワ	×	×	×									
<i>Urena lobata</i> L. var. tomentosa Miq.	オホボンテンクワ	×	×	×									
Sterculiaceae. 梧桐科													
<i>Kleinhovia hospita</i> L.	フウセンアカメカシハ	×											
<i>Sterculia platanifolia</i> L.	アチギリ						×						
Tiliaceae. 菩提樹科													
<i>Elaeocarpus elliptica</i> (Thunb) Nakai	ホルトノキ	×	×	×	×	×	×						
<i>E. japonicus</i> S. et Z.	コバンモチ					×	×						
<i>Sloanea dasycarpa</i> (Benth).	ハリミコバンモチ				×	×	×	×					
<i>Grewia parviflora</i> Bunge.	ウチトリギ					×							
Malpighiaceae. 金虎尾科													
<i>Hiptage Madablota</i> Gaertn.	ホザキサノオ				×								
Rutaceae. 芸香科													
<i>Clausena euchrestifolia</i> (Hay.) Kanehira.	ミヤマランピ			×	×								
<i>Evodia meliaeifolia</i> Benth.	ハマセンダン	×	×	×		×	×						
<i>Fagara allanthoides</i> Engl.	カラスザンセウ	×		×		×	×						
<i>F. cuspidata</i> (Champ.)	ツルザンセウ							×					
<i>F. cyrtorrhachia</i> Hay.	マキツルザンセウ							×					
<i>Glycosmis cochinchinensis</i> Pierres.	ハナシソバウキ		×	×	×	×							
<i>Murraya exotica</i> L.	ゲツキツ		×	×									

1, 1, 3, 1, 3, 2

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノノ
△ハ屬ノ分布ニ同上)

19-13	13-	固有種	樺子北海道	滿北支那	日本内地	琉小笠原	馬來半島	馬來多島	海支那	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマヤラ	其他	種ノ分布	屬ノ分布
		×												△		太平洋
		×														
		×														
		×														
		×														
		×														アジア、日本、メキシコ
					×	×										北アメリカ
						△										
																{オーストラリア、メキシコ、 ペルー、西印度、南アメリカ
																南アメリカ、西インド
																南米、アフリカ、メキシコ
																{南米、アフリカ、メキシコ、アルメ ニア、太平洋、北米、濠洲
																{南米、アフリカ、メキシコ、中央アメ リカ、太平洋、濠洲、北米、カナリ ー島、アラビヤ
																{アラビヤ其他 全熱帯
																熱帯アフリカ
																{濠洲、アフリカ、アラビヤ、西印度、 熱帯アメリカ、南米、メキシコ、マ ダガスカル
																マダガスカル、濠洲、太平洋
																{キューバ、南米、熱帯アフリカ、濠洲、 中米
																熱帯アフリカ、アラビヤ、濠洲
																南米
																熱帯アフリカ
																マダガスカル、濠洲
																{熱帯アメリカ、テキサス、メキシコ、 西印度、アフリカ
																熱帯アフリカ、濠洲
																太平洋諸島及濠洲

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Phelloxendron Wilsonii Hay. et Kan.	タイワンキハダ									X			
Skimmia japonica Thunb. var. formosana	タイワンミヤマシキミ								X				
Toddalia aculeata Pers.	サルカケミカン		X	X		X							
Zanthoxylum pteropodum Hay.	アリサンザンセウ								X				
Simarubaceae. 黄楝樹科													
Picrasma quassioides Benn.	ニガキ			X									
Meliaceae. 楝科													
Melia Azedarach L.	センダン	X	X										
Iliciaceae. 冬青科													
Ilex asprella Champ.	タイワンウメモドキ		X										
I. formosana Max.	タイワンナメノキ				X								
I. lonicerifolia Hay.	ニンダウモチノキ			X	X	X							
I. micrococca Max. var. longifolia Hay.	タイワンタマミヅキ					X							
I. parvifolia Hay.	ニホタカツゲ							X	X				
Celastraceae. 衛矛科													
Celastrus gracillimus Hay.	コバノツルウメモドキ						X						
C. Kusanoi Hay.	オホバツルウメモドキ						X						
C. longeracemosus Hay.	ホザキツルウメモドキ						X						
C. oblongifolia Hay.	アリサンツルウメモドキ						X						
Euonymus pellucidifolius Hay.	タイワンアブサ			X	X								
F. Spraguei Hay.	トクマユミ						X	X					
Otherodendron ilicifolium Hay.	アリサンモクレイシ								X	X			
Perrottetia arisanensis Hay.	ミツシコザクラ				X	X	X	X					
Rhamnaceae. 鼠李科													
Rhamnus formosanus Mats.	タイワンクロウメモドキ			X	X								
R. Nakaharai Hay.	ナカハラクロウメ			X	X	X	X						
Sagerotia theezans Brongn.	クロイゲ				X								
Ampelideae. 葡萄科													
Ampelopsis cantoniensis Planch.	タイワンウドカヅラ		X	X									
A. heterophylla (Thunb) S. et Z.	ノブダウ	X	X	X									
Vitis adstricta Hance.	コエビヅル	X	X										
Sapindaceae. 無患樹科													
Acer cinnamomifolium Hay.	アツバクスノハカヘテ						X	X					
A. Kawakamii Koidzumi.	オナガカヘテ						X	X	X				
A. morrisonense Hay.	タカサゴウリカヘテ							X	X				
A. Oliverianum Pax. var. Nakaharai Hay. subvar. formosanum Koidzumi.	イトマキシマモミゲ				X	X	X						

3. 4. 3. 9. 4. 5. 4

水平的分布

(Xハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
(△ハ属ノ分布ニ同上)

12-13	13-	固有種	樺太	千島	北海道	滿支那	日本内地	琉球	小笠原	馬來半島	海峽支那	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	属ノ分布	
		X				△	△	△					△						
			X				X	X					△		△				
								X	X	X	X	X	X	X	X	△			ブラジル、アフリカ
		X				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			{南米、メキシコ、アフリカ、太平洋、西印度、北米
						X	X	X	△	△	△	△	X	△	X				
							X	X	X	X	X	X	X	△	X	X	△	メルシヤ	アジア、アフリカ、濠洲
							△	△	△		△	△	X	△	△	△			{ブラジル、北米、歐洲及西アジア、南米、アフリカ
										X									
		X																	
		X				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			{南及熱帯アフリカ、北米、濠洲、南米、西印度、アラビヤ
		X																	
		X																	
		X								△	△	△	△	△	△	△			{メキシコ、北米、シベリア、濠洲、歐洲、中央アジア、西印度
		X																	
		X																	メキシコ、太平洋、濠洲
										△	△	△	△	△	△	△			{中央アジア、北米、歐洲、アフリカ、南米、シベリア、メルシヤ、西印度、アラビヤ、地中海、中央アジア
										X	X	X	X	X	X	X	△	メルシヤ	{西印度、チリ、メキシコ、メル、エグアドル、北米
											X	X	X	△	△	△			{アフリカ、メキシコ、濠洲、トルキスタン、アフリカ、南米、北米、西印度
											△	△	X	△	△	△			メルシヤ、アフガニスタン、太平洋
		X																	{ギリシヤ、歐洲、北米、メルシヤ、メキシコ、カウカサス

垂直的分布 (単位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
<i>A. oblongum</i> Wall.	クスノハカヘデ			×	×	×	×						
<i>A. palmatum</i> Thunb. subsp. <i>Matsumurae</i> Koidz. subvar. <i>formosanum</i> Koidz.	タカサゴモミダ				×	×							
<i>A. rubescens</i> Hay.	タカサゴウリハダガヘデ						×	×					
<i>A. serratum</i> Hay.	タイワンモミダ					×	×						
<i>Dodonaea viscosa</i> L.	ハウチハノキ	×			×								
<i>Euphorbia Longana</i> Lam.	リウガン	×	×										
<i>Koelreuteria formosana</i> Hay.	タイワンモクケンシ		×	×	×	×							
<i>Sapindus Mukorossi</i> Gaertn.	ムクロシ	×	×	×									
<i>Turpinia arguta</i> Seem.	ミヤマセウベンノキ					×	×						
<i>T. pomifera</i> DC.	セウベンノキ		×	×	×		×						
Sabiaceae. 清風藤科													
<i>Meliosma callicarpaeifolia</i> Hay.	ウスバアヲブキ						×						
<i>M. rhoifolia</i> Max.	ハゼバアヲブキ	×	×	×	×								
<i>M. squamulata</i> Hance.	ナンバンアヲブキ				×	×							
Anacardiaceae. 漆樹科													
<i>Mangifera indica</i> L.	マンゴウ	×											
<i>Pistacia chinensis</i> Bunge.	トカリバハゼノキ、ランシ ンボク				×								
<i>Rhus intermedia</i> Hay.	タイワンツタウルシ								×				
<i>R. semialata</i> Murr.	フシノキ	×	×	×	×	×		×					
<i>R. succedanea</i> L.	ハゼノキ	×		×	×								
Coriariaceae. 毒空木科													
<i>Coriaria intermedia</i> Mats.	ナンバンドクウツギ			×	×			×	×				
Leguminosae. 荳科													
<i>Acacia confusa</i> Merrill.	サウシツエ	×	×										
<i>A. Farnesiana</i> Willd.	キンガフクラン	×											
<i>A. Intsia</i> Willd.	ツルアカシア		×										
<i>Albizia procera</i> Benth.	タイワンネム			×									
<i>Bauhinia Championi</i> Benth.	キククワボク		×			×	×						
<i>Cajanus indicus</i> L.	キマメ	×	×	×	×								
<i>Erythrina indica</i> Lam.	シトウ、ハリギリ	×											
<i>Euchresta Horsfieldii</i> Benn. var. <i>formosana</i> Hay.	リュウキユウミヤマトベラ			×	×	×							
<i>Flemingia strobilifera</i> R. Br.	ソロフダ	×											
<i>Milletia reticulata</i> Benth.	ムラサキナツツダ			×									
<i>M. taiwaniana</i> (Mats) Hay.	ドクツダ				×								
<i>Mucuna ferruginea</i> Matsum.	クズモダマ			×	×	×	×	×					

1 2 3 4 3 4 3 1

七九

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノノ
△ハ属ノ分布ニ同上)

12-13	18-	固有種	樺太 千島 北海道	東北 支那	日本 内地	琉球 笠原	馬來 半島	海峽 支那	支那 中部	印度 錫蘭	ヒマ ラヤ	其 他	種ノ 分布	属ノ 分布
						×		×	×		×			
			×		×				×					
		×												
							×	×	×	×		△	全熱帯及 亞熱帯	濠洲、南米、アフリカ、アラビヤ
								×	×	×		△		濠洲
		×		△					△					アフリカ、濠洲、南米、太平洋
				×	×	×	△	×	×	×	△	△		メキシコ、西印度、中央アメリカ
					×	×	×	×	×	×	×			
		×		△	△	△	△	△		△	△	△		メキシコ
		×												
		×							×					
								×	×	×	△	△		熱帯アフリカ
								×	△	×	△	△		{地中海、メキシコ、メルシヤ、 アフガニスタン、歐洲
											△	△		{アフリカ、アラビヤ、シリヤ、メキ シコ、北米、南米、西印度、太平洋、 濠洲
								×	×	×	×	×		
							△			△	△	△		濠洲、南米、地中海
														{アフリカ、濠洲、メキシコ、南米、 北米、アラビヤ、中央アメリカ
								×					△	全熱帯
							×	×	×	×	×	×		
														アフリカ、北米
													△	南米、熱帯アフリカ、メキシコ、 マダガスカル、中央アメリカ、濠洲
													△	濠洲
								×	×	×	×	×	△	全熱帯 太平洋諸 島
								×	×	×	×	×		{アフリカ、南米、メキシコ、中央ア メリカ 太平洋
								×						
														西印度、熱帯アフリカ、濠洲
														アフリカ、マダガスカル
														{熱帯アフリカ、メル、ブラジル、 太平洋、南米

七八

垂直的分布 (單位千尺)

	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
<i>Pithecolobium lucidum</i> Benth. タマザキガフクラン			×	×								
Rosaceae. 薔薇科												
<i>Cotoniaster morrisonensis</i> Hay. コクモ、カマツカ										×		
<i>Eriobotrya dollexa</i> (Hemsl.) Nakai. タイワンビハ			×	×	×	×	×	×				
<i>Malus formosana</i> Kawak. et Koldz. タイワンリンゴ					×	×	×	×				
<i>Photinia serrulata</i> Lindl. ナガバカナメモチ									×			
<i>P. taiwanensis</i> Hay. タイワンカナメモチ			×	×								
<i>Prinosia scandens</i> Hay. サイカチモドキ								×	×			
<i>Prunus campanulata</i> Max. ベニザクラ				×	×	×						
<i>P. macrophylla</i> S. et Z. バクチノキ				×								
<i>P. Mume</i> S. et Z. ウメ		×										
<i>P. phaeoticta</i> (Hance) Max. タカサゴイヌザクラ			×		×	×						
<i>Rosa laevigata</i> Mich. ナニハイバラ		×	×	×								
<i>R. morrisonensis</i> Hay. ニヒタカイバラ												×
<i>R. multiflora</i> Thunb. var. <i>formosana</i> Card. ミヤマノイバラ					×	×						
<i>R. Pricei</i> Hay. タツタカイバラ				×	×	×						
<i>R. chinensis</i> Jacq. subsp. <i>indica</i> Koehne. コウシュンイバラ		×										
<i>R. transmorrisonensis</i> Hay. ニヒタカモリイバラ												×
<i>Rubus arisanensis</i> Hay. アリサンイチゴ								×				
<i>R. conduplicatus</i> Duthie. フチグロイチゴ		×	×	×	×	×	×					
<i>R. calycinoides</i> Hay. ロメフユイチゴ							×	×	×	×	×	×
<i>R. dolichocephalus</i> Hay. ナガミイチゴ						×	×	×				
<i>R. elegans</i> Hay. トリキイチゴ									×	×	×	
<i>R. ellipticus</i> Sm. subsp. <i>fasciculatus</i> (Duthie.) Focke. オニイチゴ				×	×							
<i>R. flaxinifolius</i> Poir. トネリコバナイチゴ		×				×						
<i>R. hirsuto-pungens</i> Hay. クサナゲイチゴ								×				
<i>R. Kawakamii</i> Hay. タカサゴクハノハイイチゴ								×				
<i>R. Lambertianus</i> Ser. subsp. <i>xanthoneurus</i> Focke. シマバライチゴ			×	×	×	×						
<i>R. mingtsensis</i> Hay. ミンゲツイチゴ							×	×				
<i>R. parviaraltifolius</i> Hay. タラバイイチゴ					×	×						
<i>R. parvipungens</i> Hay. アリサンサナゲイチゴ							×	×				
<i>R. parvirosaefolius</i> Hay. コバライチゴ							×	×				
<i>R. pectinellus</i> Max. var. <i>trilobus</i> Koldz. ミツマタフユイチゴ							×	×				
<i>R. randaiensis</i> Hay. ランダイイチゴ			×	×	×	×	×	×	×	×		
<i>R. rarissimus</i> Hay. アリサンミヤマウラジロイチゴ								×				
<i>R. Rolfei</i> Vidal. ミヤマカゲイチゴ									×	×		

1. 4. 5. 5. 6. 9. 13. 5 3 2 3

八一

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯チ共ニスルモノ)
(△ハ屬ノ分布ニ同上)

12-13	13-	固有種	樺子太島道	北海道	滿北支那	日本内地	琉球	小笠原	馬來半島	馬來多島	海峽支那	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	屬ノ分布
									△	×	×		△	△	△			(メキシコ、熱帯アフリカ、ブラジル、西印度、北米、ペルー、中央アメリカ、濠洲、南米)
		×											△		△	△		蒙古、北米、歐洲、スペイン、ヒマラヤ、1,500-14,000、チベット、中央アジア、シベリヤ、アフリカ、ギリシヤ南米
		×	△	△	△								△	△	△	△		(北米、南歐、中央アジア、北アジア、ペルシヤ)
		×											△	△	△	△		北米、メキシコ
		×		△									△					(北米、南歐、アフリカ、メキシコ、ペルシヤ、南米、シベリヤ、地中海)
					×	栽												
			△		△				△	△	×		×	×	×			(ペルシヤ、アフリカ、北米、歐洲、中央アジア、シベリヤ、アフガニスタン)
×		×		×		×												
		×			×	×							×					
×		×												△				(メキシコ、南歐、北米、南米、西印度、南亞弗利加、太平洋諸島、蒙古、濠洲)
		×																
		×																
		×																
		×																濠洲
		×																
		×																
		×							×				×					
		×																
		×								×								
		×																
2																		

八〇

垂直的分布 (單位千尺)

	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
<i>R. sphaerocephalus</i> Hay.				X	X	X						
<i>R. Swinhoe</i> Hance.							X					
<i>R. taiwanianus</i> Mats.	X	X	X	X								
<i>R. triphyllus</i> Thunb.	X	X	X									
<i>Spiraea japonica</i> L.											X	
<i>S. morrisonicola</i> Hay.					X						X	
<i>S. pseudo-prunifolia</i> Hay.											X	
<i>Sorbus randaicensis</i> Hay.											X	
<i>S. rufo-ferruginea</i> (Shir.) var. <i>triangularis</i> Hay.								X	X	X		
<i>Stranvaesia nitakayamensis</i> Hay.								X	X	X		
Saxifragaceae. 虎耳草科												
<i>Deutzia taiwanensis</i> (Max.) Schneider.		X										
<i>D. Pulchra</i> Vidal. var. <i>formosana</i> Nakai.			X	X		X		X				
<i>Hydrangea anomala</i> Don.				X		X	X					
<i>H. chinensis</i> Max.				X		X	X	X				
<i>H. integra</i> Hay.					X	X	X	X				
<i>H. Kawakamii</i> Hay.						X	X					
<i>H. obovatifolia</i> Hay.						X						
<i>Itea arisanensis</i> Hay.							X					
<i>Pileostegia viburnoides</i> Hook. et Thoms.					X			X			X	X
<i>Ribes formosanum</i> Hay.							X	X				
<i>Schizophragma integrifolium</i> Oliv. var. <i>Fauriei</i> Hay.						X	X					
Hamamelidaceae. 金縷梅科												
<i>Corylopsis stenopetala</i> Hay.						X						
<i>Liquidambar formosana</i> Hance.	X		X	X								
Myrtaceae. 桃金娘科												
<i>Eugenia formosana</i> Hay.				X	X							
<i>E. microphylla</i> Abel.				X	X							
<i>Psidium Gyava</i> L.	X		X									
Melastomaceae. 野牡丹科												
<i>Blastus cochinchinensis</i> Lour.					X							
<i>Barthea formosana</i> Hay.					X	X	X	X				
<i>Bredia scandens</i> (Ito et Mats.) Hay.					X	X	X	X				
<i>Melastoma candidum</i> Don.	X	X	X									
<i>Osbeckia scaberrima</i> Hay.	X	X	X									
<i>Pachycentria formosana</i> Hay.				X	X							
	2	3	3	5	5	6	5	4	1	2	3	1

八三

水平的分布

(Xハ種ノ分布ニ帶ヲ共ニスルモノ)
 (△ハ屬ノ分布ニ同シ)

12-18	13-	固有種	樺千太	北海道	滿北支那	日本内地	琉球	小笠原	馬來半島	馬來半島	海峽支那	支那南部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	屬ノ分布	
		X																
		X																
			X	X	X	X	X											{シベリヤ、南歐、北米、北アツタ、 北歐、トルギスタン、
		X																
		X	△	△	△	△						△			△	△		南歐、バルシヤ、北米、歐洲、
		X																
		X								△		△						メキシコ、
										X								北米、南米、
		X																
		X																
		X	△	△	△	△							△		△	△		{シベリヤ、歐洲、南米、北米、中央ア ツタ、
		X				△						△	△	△				{中央アメリカ、北アメリカ、中央ア ツタ、
		X								△	△	△	△	△	△			{メキシコ、南米、西印度、南アフリ カ、濠洲、太平洋諸島、中央アメリ カ、
									X	X	X	X	X	X	X	△		南米、北米、
									X	△	X	X	X	X				
		X							△	△	△	△	△	△	△			南米、濠洲、 濠洲
		X							△	△	△	△	△	△	△			

八二

垂直的分布 (單位千尺)

	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Lythraceae. 千屈菜科												
Lagerstroemia subcostata Koelm.	×	×		×	×							
Araliaceae. 五加科												
Acanthopanax trifoliatum Schneider.		×		×	×							
Aralia hypoleuca Prosl.					×	×		×				
A. chinensis L.	×		×									
Fatsia polycarpa Hay.					×	×	×	×				
Gillibertia pellucidopunctata Hay.										×		
Hedera Helix Linn.						×		×				
Holwingia rusciflora Willd.								×				
Heptapleurum racemosum Bedd.						×	×	×	×			
H. arboricolum Hay.				×								
H. octophyllum Benth.	×	×	×	×	×			×				
Oreopanax formosana Hay.						×	×	×				
Tetrapanax papyrifera C. Koch.	×	×			×		×					
Cornaceae. 山茱萸科												
Alangium chinense Rehder.			×	×	×							
A. platanifolium Harms.				×	×							
Aucuta chinensis Benth.					×		×	×				
Cornus longipetiolata Hay.					×	×						
Caprifoliaceae. 忍冬科												
Ebulus formosana Nakai.						×						
Lonicera Henryi Hemsl.								×				
Viburnum cordifolium Wallich.									×			
V. foetidum Wallich. var. integrifolium (Hay) Nakai.							×	×				
V. " var. rectangularum (Graebner) Rehder.									×			
V. formosanum (Hance) Hay.	×		×				×	×				
V. " forma morrisonense (Hay) Nakai.									×	×		
V. odoratissimum Ker.			×	×	×	×						
V. parvifolium Hay.									×			
V. taiwanense Hay.							×					
V. taiwanianum Hay.							×	×				
Rubiaceae. 茜草科												
Adina racemosa Mi.				×								
Coprosma Kawakamii Hay.											×	

1 2 3 4 3 2 1

八五

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ナ共ニスルモノ)
(△ハ屬ノ分布ニ同上)

12-13	13-	固有種	樺太	千島	北海道	朝鮮	北支那	日本内地	琉球	小笠原	馬米	馬米	海島	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	屬ノ分布
								×	×		△	△	×	△	△	△	△	△		深洲、熱帯アジア、マダガスカル、
															×	×	×	×		{メキシコ、カリフォルニア、太平洋、北米、深洲、アフリカ、
															×					北、西、アメリカ、
															×					{ブラジル、メキシコ、ペルー-西印度、中央アメリカ、深洲、西歐、西印度、北アフリカ、温帯アジア、南米
								×	×								×	×	△	熱帯アフリカ、太平洋、深洲、
																				南米、メキシコ、中央アメリカ、
																				熱帯アフリカ、
																				{中央アジア、メキシコ、南欧、北米、熱帯アフリカ、シベリア、北極及アラスカ、
																				{ブラジル、北米メキシコ、歐洲、深洲、熱帯アジア、南欧、南米、中央アメリカ、
																				{北米、南米(ブラジル)歐洲、中央アジア、トルコ、チベット、ペルシヤ、アラビア、アフリカ、カウカサス、シベリア、地中海、アフガニスタン、ベルグスタン、
																				北米、メキシコ、熱帯アメリカ、中央アメリカ、南米、歐洲、北アジア、地中海、チベット、
																				南熱帯、東アフリカ、
																				深洲、太平洋諸島、

八四

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Damnacanthus angustifolius Hay.	ヒロハノアリドホシ							×	×				
D. indicus Gaertn. var. genuinus Mak.	アリドホシ					×		×	×				
Diplospora Tanakai Hay.	アリサンミミヅ						×						
D. viridiflora DC.	シロミミヅ			×		×	×						
Lasianthus formosensis Mats.	タイワンルリミノキ			×									
Mussaenda parviflora Miq.	コンロンクマ	×	×	×									
Nauclea truncata Hay.	マルバハナダマ	×											
Psychotria elliptica Ker.	ホチヤウシ	×	×	×									
Randia sinensis Roem. et Sch.	シナミサホノキ			×									
Uncaria Kawakamii Hay.	タイワンカギカヅラ	×	×	×									
Wendlandia glabrata DC.	アカミヅキ	×		×									
W. paniculata DC.	クアカミヅキ	×	×										
Compositae. 菊科													
Blumea balsamifera L.	タカサゴギク	×											
Vacciniaceae. 越橘科													
Vaccinium bracteatum Thunb. var. longitubum Hay.	セイバンシヤシヤンホ						×	×	×				
V. caudatifolium Hay.	クスノハシヤシヤンホ								×				
V. emarginatum Hay.	オホバコケモ					×	×	×	×				
V. japonicum Miq. var. lasiostemon Hay.	ラングイアクシバ						×	×	×				
V. Merrillianum Hay.	ニヒタカコケモ											×	
Ericaceae. 石南科													
Gaultheria Cumingiana Vidal.	タイワンシラタマ								×	×			
Pieris formosana Komatsu.	タイワンネギキ							×	×				
P. pilosa Komatsu.	セイバンネギキ									×			
P. taiwanensis Hay.	タイワンアセビ								×				
Rhododendron formosanum Hemsl.	タイワンシヤクナゲ						×	×	×				
R. Kawakamii Hay.	チヤクセイシヤクナゲ								×				
R. leptosanctum Hay.	アコウシヤクナゲ						×		×				
R. Morii Hay.	モリシヤクナゲ								×	×	×	×	
R. Oldhami Max.	キンモウツシ								×	×	×	×	
R. pseudo-chrysanctum Hay.	ニヒタカシヤクナゲ											×	×
R. rubropilosum Hay.	アカゲツツシ									×			
R. Tanakai Hay.	アリサンシヤクナゲ									×			
Myrsineae. 紫金牛科													
Bladhia cornudentata Nakai.	アリサンマンリヤウ				×	×							

2, 1, 2, 1, 2, 4, 4, 9, 5, 1, 3 1

八七

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニシテ共ニスルモノノ
△ハ属ノ分布ニシテ同上)

12-13	19-	固有種	樺太	千島	北海道	朝鮮	支那	日本内地	琉球	小笠原	馬米島	馬米島	海支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	属ノ分布	
		×																		
		×										△								濠洲
		×										△								熱帯アフリカ、西印度
		×										△								メキシコ、熱帯アフリカ、南米
		×										△								アフリカ、濠洲、南米、太平洋
		×										△								熱帯アフリカ、南米、アラビヤ、 メキシコ、西印度、太平洋、中央ア メリカ、濠洲、北米、アフリカ、南米
		×										△								西印度、アフリカ(熱)濠洲、メキシ コ、中央アメリカ、南米、太平洋
		×										△								熱帯アジア、アフリカ、アメリカ
		×										×								アラビヤ、濠洲
												×								アフリカ、濠洲
												△								西印度、北米、中央アメリカ、南米 南アフリカ、メキシコ、歐洲、太平 洋、カムチツカ
		×																		メキシコ、南米、濠洲、中央アメリ カ
		×																		北米
		×																		アフガニスタン、北米、歐洲、アレ クチャン諸島、カウカサス、シベリ ヤ、中部歐洲、北アツヤ、北極、 中央アツヤ、濠洲
		×																		西印度、アダガスカル、太平洋、 南米、中央アメリカ、濠洲、熱帯ア フリカ、メキシコ

八六

垂直的分布 (單位千尺)

Table of vertical distribution with columns for elevation (0-1 to 11-12) and rows for various plant species including Ebenaceae and Styracaceae.

Handwritten numbers: 1. 1. 10. 10. 9. 9 7 5. 2. 1

水平的分布

(Xハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ、Δハ屬ノ分布ニ同上)

Table of horizontal distribution with columns for geographical regions and rows for the same plant species as the vertical distribution table.

垂直的分布 (単位千尺)

Table with columns for vertical distribution (0-1 to 11-12) and rows for various plant species including O. lanceolatus Hay., Apocynaceae, Loganiaceae, Boraginaceae, Solanaceae, Scrophulariaceae, Bignoniaceae, and Verbenaceae.

2, 2, 3, 2, 1, 1, 1

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ) (△ハ屬ノ分布ニ同上)

Table with columns for horizontal distribution (12-13, 13-1, 固有種, etc.) and rows for various plant species, including O. lanceolatus Hay., Apocynaceae, Loganiaceae, Boraginaceae, Solanaceae, Scrophulariaceae, Bignoniaceae, and Verbenaceae.

九一

九〇

垂直的分布 (単位千尺)

Table with columns for vertical distribution (0-1 to 11-12) and rows for various plant species including Polygonaceae, Laurineae, Cryptocarya, Lindera, Litsea, Machilus, and Tetradenia.

Handwritten notes: 2.6 11.17.15 13.12.7.2.3.

九三

水平的分布

(Xハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ) (△ハ屬ノ分布ニ同上)

Table with columns for horizontal distribution (12-13, 13-, 固有種, 樺太, 千島, 北海道, 北支那, 南支那, 日本内地, 琉球, 小笠原, 馬米, 多島, 海支那, 交趾支那, 支那南部, 支那中部, 印度錫蘭, ヒマラヤ, 其他, 種ノ分布) and rows for various plant species.

九二

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
T. Konishi Hay.	コニシダモ	×	×	×	×	×							
T. variabilissima Hay.	カハリシロダモ					×	×	×	×				
Proteaceae. 山茂樹科													
Hellcia formosana Hemsl.	タイロンヤマモガシ			×	×								
Thymelaeaceae. 瑞香科													
Chamaejasme formosana Hay.	ニヒタカコセウノキ							×	×	×			
Daphne arisanensis Hay.	アリサンコセウノキ							×	×				
Wikstroemia indica C.A. Mey.	インドガンピ	×	×	×									
W. mononectaria Hay.	ロメガンピ			×	×	×							
Elaeagnaceae 胡頹子科													
Elaeagnus glabra Thunb.	ツルグミ			×	×	×	×	×					
E. morrisonensis Hay.	ニヒタカグミ									×	×	×	
E. Oldhami, Max.	タカサゴグミ	×		×									
Loranthaceae. 槲寄生科													
Loranthus lonicerifolius Hay.	ニンダウバナヤドリギ							×	×				
L. Owatarii Hay.	オホロタリヤドリギ				×	×							
L. Phoebe-formosae Hay.	アツバヤドリギ			×									
L. rhododendricolus Hay.	シヤクナゲヤドリギ							×	×	×			
Pseudixus japonicus Hay.	ヒノキヤドリギ					×	×	×	×				
Viscum Albi-formosae Hay.	タイロンヤドリギ					×	×						
Viscum Querc-Morii Hay.	モリガシヤドリギ							×	×				
Euphorbiaceae. 大戟科													
Aleurites Fordii Hemsl.	シナアブラギリ			×						△		△	
Bischofia javanica Bl.	アカギ、カタシ	×		×								△	
Breynia formosana Hay.	タイロンコバンノキ			×								△	
B. ollicinalis Hemsl.	タカサゴコバンノキ	×										△	
Bridelia tomentosa Bl.	カンコモドキ	×		×								△	
Cyclostemon karapinense Hay.	カラピンシラギ			×	×							△	
Daphniphyllum glaucescens Bl.	ヒメユヅリハ		×		×				×	×		△	
D. „ var. Oldhami Hemsl.	ナガバヒメユヅリハ			×	×							△	
Glochidion album Boerl.	ケカンコノキ	×	×							△	△	△	
G. Fortunei Hance.	ヒラミカンコ	×	×	×	×							△	
G. hongkongense Muell. Arg.	カキバカンコノキ	×	×	×								△	
Macaranga Tanarius Muell. Arg.	オホバギ	×	×							△	△	△	
Mallotus japonicus Muell. Arg.	アカメガシハ	×	×		×	×						△	
M. moluccanus Muell. Arg.	ヤンバルアカメガシハ	×	×									△	

3. 2. 7. 6 5. 2 6 6 3 1 1

九五

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
(△ハ屬ノ分布ニ同上)

12-13	13—	固有種	樺千北 太島道	滿北 支那	日本内地	琉小 笠原	馬來 半島	馬來 多島	海 支那	交趾 支那	支南 中部	印度 錫蘭	ヒ マ ラ ヤ	其 他	種ノ 分布	屬ノ 分布	
		×															
		×															
		×			△			△	△	△	△	△	△	△			濠洲
		×	△		△			△		△	△	△	△	△			{スペイン、アフリカ、南米、地中海、シ ベリヤ、コウカサス、南歐、中央アジヤ 熱帯アフリカ、太平洋、南アフリカ、濠洲 濠洲、太平洋
		×		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			{歐洲、北アジヤ、北米、南米、西印 度、南アフリカ、アフリカ
		×									×						
		×		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			{地中海、濠洲、南米、中米、メキシ コ、南アフリカ、西印度、太平洋
		×															
		×		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			{歐洲、濠洲、マダガスカル、西印度 南米、熱帯アフリカ、中米、スペイン メキシコ、アフガニスタン、太平洋
		×															太平洋諸島
		×															太平洋諸島
		×															太平洋諸島
		×															アフリカ、濠洲
		×															熱帯アフリカ、太平洋
		×															熱帯アフリカ
		×															太平洋、南米、濠洲
		×															
		×															{南アフリカ、熱帯アフリカ、濠洲、 太平洋
		×															濠洲、アフリカ

九四

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Zelkova formosana Hay.	タイソングヤキ		×		×	×							
Juglandaceae. 胡桃科													
Juglans formosana Hay.	タイソングルミ				×		×	×					
Engelhardtia formosana Hay.	フサバシテ			×		×	×	×					
Cupiferae. 殼斗科													
Alnus formosana (Burkill) Makino.	タイソングハンノキ				×	×	×	×					
Carpinus Kawakamii Hay.	アリスンシテ						×						
Castanopsis Kawakamii Hay.	オホクリガシ					×							
C. Kusanoi Hayat.	クサノクリガシ					×							
C. taiwaniana Hay.	クリガシ			×	×								
Lithocarpus amygdalifolia (Skan)	アミガシ						×	×	×				
L. castanopsisifolia Hay.	オニガシ					×	×	×					
Castanopsis Junghuhnii P.	タイソングシヒノキ				×	×	×	×					
Quercus brevicandata Skan.	セイシヨウガシ				×		×						
Q. glauca Thunb.	アラガシ		×	×	×								
Q. Kawakamii Hay.	カハカミガシ					×	×	×	×				
Q. Morii Hay.	モリガシ						×	×	×				
Q. nantoensis Hay.	ナンタウガシ				×								
Q. serrata Thunb.	アベマキ				×	×							
Q. spinosa A. David, var. Miyabei Hay.	ヒラヤガシ										×		
Q. stenophylla (Bl.) Makino.	ウラジロガシ				×	×		×					
Q. stenophylloides Hay.	タイソングウラジロガシ				×		×	×	×				
Q. taihuensis Hay.	タイチウガシ							×					
Q. ternaticupula Hay.	ナンハンガシ				×			×					
Q. ternaticupula Hay. var. arisanensis	アリスンガシ							×					
Salicaceae. 楊柳科													
Salix Doi Hay.	ドキヤナギ								×				
S. fulvo-pubescens Hay.	チヤイロヤナギ								×				
S. transarisanensis Hay.	トウザンヤナギ								×	×			×
S. sp.	ニヒタカヤナギ												
Coniferae. 松柏科													
Abies Kawakamii (Hay.) T. Ito.	ニヒタカトマツ									×	×	×	
Cephalotaxus Wilsoniana Hay.	タイソングイヌガヤ								×				
Chamaecyparis formosensis Mats.	ベニヒ					×	×	×	×	×			
C. obtusa S. et Z.	ヒノキ						×	×	×	×			

1.3. 8.9. 10.10 10.6.2 1 2

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
△ハ属ノ分布ニ同上

12-13	13-	固有種	樺太	千島	北海道	滿州	北支那	日本内地	琉球	小笠原	馬米多島	馬米島	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	属ノ分布	
		×						△						△						
		×						△						△			△	△		南米、西印度、北米、メキシコ、中米
		×						△				△	△	△	△	△	△	△		中米
		×						△						△	△	△	△	△		(南米、メキシコ、歐洲、東部歐洲、北米、北アジア)
		×						△						△	△	△	△	△		(北米、コウカサス、ベルシヤ、南歐、中央アジア)
		×						△												
		×						△				×								(北米、ハンガリー、中央アジア、小アジア、歐洲、地中海、中米、メキシコ、南歐、ロシア)
		×						×						×			×			
		×						×												
		×						×												
		×						×												(北米ラブラドル、アフリカ、中央アジア、シベリヤ、歐洲、北アジア、コウカサス、アメリカ、北極洋、メキシコ、北アフリカ、南アフリカ、トルギスタン、南歐、マダガスカル、カムチツカ、ベルシヤ)
		×						×												
		×						×												(北アフリカ、地中海、中央アジア、北アジア、北米、ロシア、小アジア、スペイン、メキシコ、中米、歐洲)
		×						×												太平洋、大西洋沿岸、北米

2 1

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
Cryptomeria japonica Don.	スギ				×								
Cunninghamia Konishii Hay.	ラングアイスギ							×					
C. lanceolata Hook.	カウエフザン		×	×	×								
Juniperus formosana Hay.	タイワンビヤクシン								×	×	×		
J. squamata Lambert.	ニヒタカビヤクシン									×	×		×
Picea morrisonicola Hay.	ニヒタカトウヒ								×	×			×
Pinus Armandi Franch.	タカネコエフ								×	×	×	×	×
P. formosana Hay.	タイワンコエフマツ								×	×	×		
P. taiwanensis Hay.	ニヒタカアカマツ								×	×	×		
Podocarpus Nakaii Hay.	トガリバマキ				×								
Pseudotsuga Wilsoniana Hay.	タイワントガサハラ								×				
Taiwania cryptomerioides Hay.	タイワンスギ								×	×	×	×	
Taxus cuspidata S. et Z.	イチキ								×	×	×	×	×
Tsuga chinensis Pritzl.	タイワンツガ								×	×	×	×	×
Scitamineae. 薑科													
Alpinia nutans L.	ゲツタウ		×										
A. macrocephala Hay.	アリサンゲツタウ						×	×					
Musa formosana (Warb.) Hay.	タイワンバナ		×	×	×								
Liliaceae. 百合科													
Smilax China L.	サルトリイバラ			×									
S. randaensis Hay.	ラングアイサンキライ								×				
Palmae. 棕櫚科													
Areca Catechu L.	ピンラウシ		×										
Calamus Margaritae Hance.	トウ			×	×	×	×						
Didymosperma Engleri Warb.	クロツグ		×	×	×	×							
Phoenix Hanceana Naudin.	ソテツジユロ		×										
Pandanaceae. 露兜樹科													
Pandanus toctorius Sol.	リントウ		×										
Aroidae. 天南星科													
Alocasia macrorrhiza Schott.	クハズイモ		×	×	×	×	×						
Gramineae. 禾本科													
Arundinaria nitakayamensis Hay.	ニヒタカヤダケ							×	×	×	×	×	×
A. oiwakensis Hay.	オヒワケヤダケ							×	×	×	×	×	×
A. Usawai Hay.	カハカムリヤダケ		×	×									
Arundo Donax L. var. coleotricha Hack.	ヨシダケ		×	×									
Bambusa dolichoelada Hay.	チヤウシチク				×								

1 1 2 (1 4 6 5 4 1

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
(△ハ屬ノ分布ニ同上)

12-13	13	固有種	樺太	千島	北海道	朝鮮	支那	日本内地	琉球	小笠原	馬米	馬米	海島	交趾支那	支那中部	印度錫蘭	ヒマラヤ	其他	種ノ分布	屬ノ分布
				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		×								×	?				×					北米、南米、歐洲、メキシコ、北アジア、北アフリカ、中央アジア、地中海、アラビヤ、小アジア、南歐、北極洋、西印度
				△	△	△									×					北アジア、北米、歐洲、サガレン、中央アジア、トルギスタン、北極洋、西部アジア
×	×														△					北米、メキシコ、北極洋、北アフリカ、西印度、中米、地中海、カムゲツカ、南歐、北歐、シベリヤ
		×																		太平洋、南米、西印度、濠洲、南アフリカ、マダガスカル、西アフリカ、中米、アフリカ
		×						△	△						△	△	△	△		北米、メキシコ
		×																		北米、メキシコ、歐洲、中央アジア、西アジア
								△	△											北米
									△	×	△	×	×	×	△	△	△	△		西印度、太平洋、濠洲、南米、熱帯アフリカ
		×																		濠洲、熱帯アフリカ、マダガスカル、太平洋
		×								△	△	△	△	△	△	△	△	△		南米、西印度、地中海、北米、中米、メキシコ、南歐、濠洲、アフリカ、太平洋
		×																		
																				濠洲、マダガスカル
														×	×	×	×	△		南米、熱帯アフリカ、濠洲
										×										北アフリカ、アラビヤ、アフリカ
																				マダガスカル、濠洲、アフリカ、熱帯アフリカ、太平洋、アラビヤ
																			×	南米、濠洲、太平洋諸島
																				メキシコ、南米、北米、熱帯アフリカ、南アフリカ、濠洲
																				南米、歐洲、北米、北アフリカ、マダガスカル、地中海、スカンジヤ、ピヤ半島
																			×	南米、濠洲、マダガスカル、メキシコ

垂直的分布 (單位千尺)

		0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
B. Oldhami Munro.	ヨクナク.....	×											
B. stenostachya Hook.	シナク.....	×	×	×									
Pendrocalamus latiflorus Munro.	マチク.....	×		×	×								
Phyllostachys Makinoi Hay.	ケイナク.....	×	×	×	×								
P. pubescens H.	マウソウナク.....				×								
Miscanthus sinensis Anders.	ススキ.....	×	×	×	×	×	×						
M. transmorrisonensis Hay.	タカネススキ.....							×	×	×	×	×	
Cyatheaaceae. 紗襪科													
Alsophila latebrosa Hook.	ヒカゲヘゴ.....	×		×	×	×							
Cyathea spinulosa Wall.	ヘゴ.....			×	×	×							

3 2 2 1 / 1 1 1 1

以上水平的分布區系ヲ通算

		全數	固有種	樺千北海 太島道	滿北支 鮮那	日本内地
計	總數.....	477	235	16	45	79
	屬.....	241	134	58	62	82
百分率	種.....		49.4	8.3	9.4	16.5
	屬.....		57.0	23.9	25.7	34.0

水平的分布

(×ハ種ノ分布ニ帯ヲ共ニスルモノ)
(△ハ屬ノ分布ニ同上)

12-13	13-	固有種	樺千北海 太島道	滿北支 鮮那	日本内地	琉小笠 球原	馬來多 牛島	馬來多 牛島	海 支那	支南 中部	印度錫蘭	ヒマ ラヤ	其 他	種ノ 分布	屬ノ 分布
		×													
		×													
								△		×	×	△			
		×						△			△				
					×	×			×	×					
			×	×	×				×	×	△	△			
		×													
						×	×			△	×		△		南アフリカ、南米、西印度、熱帯ア メリカ、濠洲
						×	×				×		△		西印度、アフリカ、濠洲、太平洋諸島

シ數字ヲ以テ示セバ下ノ如シ

琉小笠 球原	馬來多 牛島	海 支那	支南 中部	印度錫蘭	ヒマ ラヤ	
96	98	51	183	63	53	
55	114	82	84	119	140	本欄ニ掲出セル屬トハ本帶所産種ト 屬ヲ同フスルノ意ニシテ多少類縁ニ 關係アルヲ以テ特ニ登載セリ
20.0	20.5	10.7	38.2	15.3	11.1	
22.8	47.3	34.0	34.8	49.3	58.0	

以上ノ結果ニヨリテ本山彙森林植物帯ヲ考察スルトキハ固有種ノ數實ニ全數四百七十七種中二百三十五種ノ多キヲ算シ、其數比ノ過大ナル寧ロ驚異ニ値セズンバアラズ。

支那中南部帯ニ共通ナルモノ百八十三種三十八パーセントヲ算シ、之レ亦其要素ノ夥多ナル、其色彩ノ鮮明ナル玆ニ論ズル迄モナシ。

馬來半島及多島海帶並ニ琉球小笠原帶ト共通ナルモノハ九十六種乃至九十八種ニ及ビ約二十パーセントノ多キヲ含ミ、稍々濃厚ナル要素ヲ示ス。

日本内地帯ト共通ナルモノ七十九種、十六パーセント、印度錫蘭帶ト共通ナルモノ六十三種、十五パーセント、ヒマラヤ帶ト共通ナルモノ五十三種、十一パーセント、滿鮮、北支那帶ト共通ナルモノ四十五種、九パーセントヲ占メ、樺太、千島、北海道帶ト共通ナルモノ十六種、三パーセントヲ含ム。

更ニ屬間ノ類縁ニ就テ云ヘバヒマラヤ帶ノ百四十屬、五十八パーセントノ如ク、印度錫蘭帶ノ百十九屬、四十九パーセント、馬來半島及同多島海帶ノ百十四屬、四十七パーセントノ多キニアルハ決シテ其類縁遠キヲ談ルモノニアラズ、一考スベキ位置ト云ハザルベカラズ。

之レヲ要スルニ固有種ノ過大ナル理由ハ分類學的ニ多少多キニ過グルノ感アルハ暫ク置キ、本島ノ地理學上ノ位置ノ稍々孤立的立場ニアルト、蕃族ノ跳梁常ナラザリシト、政治的關係ト、峻峻ナル山岳トヲ有スルハ畢竟固有種造成ニ向ツテ多大ナル素因ヲナセシニ非ルナキカ、歐人曾テ本島ノ科學的門戸ノ開ケザルヲ日シテ *Terra incognita* ノ土地ト稱シタリシト、故ナキニ非ルナリ。

支那中南部帯ノ他ニ比シ一層多クノ共通種ヲ有スルハ位置ノ近接ニモヨルベケレトモ多クハ地質學時代其陸地ノ同一地帯ナリシニヨルナランカ、植物系統學的古キ時代ニ屬スル松柏科植物ノ共通種若クハ近縁種ノ溫帶林上部帶並ニ寒帶林中ニ發見セラル、ハ殊ニ興味アル證左ト云ハザルベ

カラズ。

更ニ琉球、小笠原帶、馬來半島及馬來多島海帶、交趾支那帶、印度錫蘭帶ノ相似種多キハ氣温氣候ノ類似ニヨルベケレトモ多クハ潮流ニ支配セラル、分布系統ヲ同フスルモノニ非ルナキヤ。

日本内地帯及ヒマラヤ帶、滿鮮、北支那帶ノ相似ハ多クハ支那中南部帯ノ如ク地質學時代ヨリノ素因ニヨルコト勿論ナリト雖モ潮流ニヨリテ其要素ヲ加味セラル、コトハ爭フベカラザル事實ナルガ如シ。

樺太、千島、北海道帶ニ至リテハ地理學上ノ位置ヨリスルモ本島トノ距離頗ル遠ク氣温氣候ノ異同モ頗ル大ナル原因ヲナシ、從ツテ今日ニテハ此等前掲諸地ト本帶トノ關係ニ比シ、餘程其類縁ニ遠サカリシノ感アリ、唯多少類似種アルハ恐ラクハ地質學時代ヨリノ遺物ニ非ルナキヤ。

其他ノ地方ニ至リテハ本島ヨリ何レモ其距離頗ル遠ク、唯類縁ノ絲ヲ洩クハ海水ノ萬里ニ及ブモノアルニヨリ多クハ潮流ニ乗セラレテ漸次本島ニ送ラレテ以テ第二ノ郷土トナリシニヨルナランカ。故ニ本山彙森林帶ヲ構成スル要素ハ固有種ヲ最多トシ、支那中南部之レニ次ギ、馬來半島及多島海帶、琉球、小笠原帶、日本内地帯、印度錫蘭帶、ヒマラヤ帶、交趾支那帶、滿鮮、朝鮮、北支那帶、樺太、千島、北海道帶ノ順序トナリ、濠洲、太平洋熱帶、アメリカ、同アフリカ、歐洲等ノ順位ニヨリテ構成スルモノナルコト明カトナレリ。

主ナル參考書

1. Bentham, G.; Flora Hongkongensis.
2. De Clercq, F.S.A.; Nieuw Plantkundig Woordenboek voor Nederlandsch Indie.
3. Engler and Prantl; Die natürlichen Pflanzenfamilien.

4. Forbes et Hemsley; All the plants known from China.
5. Hayata, B.; Flora Montana Formosae.
6. " Materials for a Flora Formosa.
7. " Icones Plantarum Formosanarum. I-X.
8. " 臺灣植物總目錄
9. " The Vegetation of Mt. Fuii.
10. 本多靜六; 改正日本森林植物帶論
11. Hooker, J.D.; Flora of British India. I-VII.
12. Hooker, W.J. et Baker, J.H.; Synopsis Filicum.
13. Ito, T. et Matsumura, J.; Tentamen Florae Iutohuensis.
14. 一戶直藏、小倉伸吉; 新高山ニ關スル研究報告
15. 河越重紀; 吐噶喇群島殊ニ中之島及寶島ノ植物ニ就テ
16. 川上瀧彌; 新高山頂ノ植物
17. Koidzumi, G.; Plantae Sachaliensis Nakaharane.
18. " Revisio Aceracearum Japonicarum.
19. " Conspectus Rosacearum Japonicarum.
20. 巖務課; 臺灣地質調查報告書
21. 工藤祐舜; 日本有用樹木分類學
22. " 野幌國有林野生植物調查報告書
23. Leecomre, M.H.; Flore Generale L'Indo-China.
24. Matsumura et Hayata; Enumeratio Plantarum Formosanarum.
25. Matsumura; Index Plantarum Japonicarum I-II.
26. Merrill, E.D.; A Flora of Manila.
27. Miyabe, K.; The Flora of the Kurile Islands.
28. 宮部金吾(勉) 樺太植物誌
29. 森 爲三; 朝鮮植物名彙
30. 中井宗三; 臺灣林木誌
31. 中井種之進; 朝鮮森林植物編 I-XII.
32. " Tentamen Systematis Caprifoliacearum Japonicarum.
33. Sargent, C.; Plantae Wilsonianae. I-III.
34. Smith, J.; Ferns.
35. 矢部吉禎; 南滿洲植物目錄
36. 臺北測候所; 臺灣氣象報告
37. 臺灣新聞社; 新高山
38. Wilson, E.H.; The Conifers and Taxads of Japan.
39. 武內貞義; 臺灣
40. 東京植物學雜誌
41. Index Kewensis and Supplement.

- 42. 官報
- 43. 諸羅縣誌
- 44. 日本百科大辭典第八卷
- 45. 教育叢報 第五卷第二號
- 46. Davidson J. W.; The Island of Formosa past and present.
- 47. 三好 學; 最新植物學講義
- 48. 臺灣府誌
- 49. The Philippine Journal of Science.



大正十一年十二月十八日印刷
 大正十一年十二月廿二日發行

臺灣總督府中央研究所

臺北市榮町二丁目十二番地

印刷人 小塚兼吉

臺北市京町一丁目四十三番地

印刷所 小塚印刷工場